

授 業 概 要

科目名	情報機器入門	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Wordを利用し、複合文書を作成できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 CGT入門1 web検索、マウスの操作、PCトラブル時の解決方法				9	【授業単元】			
	【到達目標】 検索力を身につけ問題を解決できる					【到達目標】			
2	【授業単元】 CGT入門2 ITリテラシー 滋慶学園 ITリテラシー理解度テスト				10	【授業単元】			
	【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる					【到達目標】			
3	【授業単元】 Word基礎1 基本操作				11	【授業単元】			
	【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる					【到達目標】			
4	【授業単元】 Word基礎2 画像や図形				12	【授業単元】			
	【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる					【到達目標】			
5	【授業単元】 Word基礎3 表の作成				13	【授業単元】			
	【到達目標】 表を駆使した文書を作成できる					【到達目標】			
6	【授業単元】 保育だより				14	【授業単元】			
	【到達目標】 Wordの機能を使用し色彩や配色を意識して保育だよりを作成できる					【到達目標】			
7	【授業単元】 Word試験対策				15	【授業単元】			
	【到達目標】 Word講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる					【到達目標】			
8	【授業単元】 Word定期試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験はPCを使用したWord文書作成を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点ないしは10点満点(計40点)とする。				
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Word資料を作成できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

授 業 概 要

科目名	文章表現	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	土屋 多恵子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者にとって重要な技術である「聞く」「話す」「読む」「書く」大切さを理解する。 ・社会人として、保育学生として身に付けたい所作、マナーについて具体的に学ぶ。 ・さまざまな文章の書き方について具体的に学ぶ。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児、児童等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を学び、保育実践できるようになる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育のマナーと言葉/わかば社					<ul style="list-style-type: none"> ・授業における課題や書類の作成に取り組む。 ・保育所保育指針を読む。 ・保育文例をもとに、書き取りの練習をする。 				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 基本的なマナー				9	【授業単元】			
	【到達目標】 ・保育の現場で気をつけたい所作や声の大きさについて知り、正しく話すことができる。 ・人の話に耳を傾け、要点を短いキーワードでメモ、記録をすることができる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 書く				10	【授業単元】			
	【到達目標】 ・鉛筆の持ち方、座り方、文字を正しく書くための所作を理解し、丁寧な文字を書くことができる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 保育用語の読み書き				11	【授業単元】			
	【到達目標】 ・保育者がよく使う用語を音読することができる。 ・基本的な保育用語を知り、書くことができる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 話し言葉のトレーニング				12	【授業単元】			
	【到達目標】 ・保育で使う話し言葉を知り、その場に応じた正しい話し言葉を使い、話すことができる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 実習日誌の書き方				13	【授業単元】			
	【到達目標】 ・実習生の一日の活動例をもとに、保育所における生活技術やマナーを具体的に知り、デイリープログラムを書くことができる。					【到達目標】			
6	【授業単元】 園だより・クラスだよりの書き方				14	【授業単元】			
	【到達目標】 ・保育者と保護者の情報交換の大切さを理解し、基本的なおたよりに書くことができる。 ・外国籍等の保護者との文章のやりとりについて知り、留意点について述べるすることができる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 自己紹介書				15	【授業単元】			
	【到達目標】 ・自己を相手に伝えることの大切さを知り、文章化することができる。 ・保育者にふさわしい言葉遣いで、自己紹介することができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験/ハガキ・御礼状の書き方				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点 小テストの合計を40点の配点とする。 小テストは、(1～6回目)は5点 (7回目)は10点 とする。 両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。また、試験は筆記試験で行う。				
	【到達目標】 ・今までの文章表現の単元を活用し、文書を作成することができる。 ・ハガキ・封書・御礼状の書き方の所作を具体的に学び、実践することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
書きやすいペンを毎回持参すること。 授業で学ぶ様々な保育用語の知識を増やし、保育の専門性を高める。									

授 業 概 要

科目名	キャリア教育プログラムⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	水谷恵理子	
学科 コース	こども保育科	学年	1	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
社会人として必要な力を養い、実習に臨むことができる身構え・気構え・心構えを整え、実習の準備をする 様々な人の価値観に触れて、保育観を養い、感じたことを述べるができる								
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）								
社会福祉士、保育士の国家資格を持ち、障害者施設での支援員としての実務経験のある教員歴10年の職員が保育士を目指す学生一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
講師が作成した資料 Hand-book of LIFE STYLE					授業の復習を行う 実習や就職関連について調べる			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1	【授業単元】 養成目的、アドミッションポリシー、3つの習慣について teamsの使い方について				9	【授業単元】 レク大会の企画、計画		
	【到達目標】 養成目的やアドミッションポリシーを確認し、理解できる teamsを使うことができる					【到達目標】 6月3日、5日 レクリエーション大会の企画を計画することで、保育士の行事に対する視点を養う。 レクリエーション大会の企画を立てることができる		
2	【授業単元】 協働する大切さについて				10	【授業単元】 レクリエーション大会のための準備①		
	【到達目標】 クラスメイトと関わり、クラスメイトと協働作業をすることができる 学別を確認し、ルール・マナーについて理解する 授業に必要なものがわかり、準備ができる					【到達目標】 6月10日、12日 レクリエーション大会の準備を進める クラスメイトと協力して準備することができる		
3	【授業単元】 学期（単位取得）、時間割や準備物について 3つの習慣について				11	【授業単元】 レクリエーション大会のための準備②		
	【到達目標】 学期について確認し、単位の取得方法を説明することができる 2年間の個人目標を立てることができる					【到達目標】 6月17日、19日 レクリエーション大会の準備を進める クラスメイトと協力して準備することができる		
4	【授業単元】 クラス目標について サポートアンケートについて				12	【授業単元】 レクリエーション大会の振り返り（感想、できたこと、反省）		
	【到達目標】 4月15日、17日 クラス目標とチームで何かすることの大切さを知る クラス目標を決めることができる					【到達目標】 6月24日、26日 レクリエーション大会の振り返りを行い、自分のできたこと、頑張ったこと、課題や改善点を説明できる		
5	【授業単元】 保育園の種類、実習先の選び方について				13	【授業単元】 社会人として必要な力③		
	【到達目標】 4月22日、24日 保育園の種類、実習先の選び方について知り、保育実習先希望書を書くことができる					【到達目標】 7月8日、10日 コミュニケーション技法を学びどのように活用するか考えることができる		
6	【授業単元】 社会人として必要な力④				14	【授業単元】 実習評価基準について 実習で必要な事・物の確認		
	【到達目標】 5月13日、15日 専門学校に入った意味や卒業することの意味、やり切ることの意味・大切さを知り、自分に必要なものを説明できる					【到達目標】 7月17日、22日 実習の評価基準を理解し、自分に必要なことを書くことができる 実習で必要なものを理解し、準備するものがわかる		
7	【授業単元】 実習生紹介書の写真について、自己紹介書の書き方について				15	【授業単元】 定期試験、実習発表表		
	【到達目標】 5月20日、22日 専門学校に入った意味や卒業することの意味、やり切ることの意味・大切さを知り、自分に必要なものを説明できる実習生紹介書とその書き方について知り、実習生紹介書を書く					【到達目標】 7月24日、7月29日 定期試験の実施し、前期の振り返りができる 実習先がわかる。夏休みの注意事項、夏休みの課題を理解し、説明できる		
8	【授業単元】 社会人として必要な力⑤				【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 5月27日、29日 価値観の違いを知る、認めることができる				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（9回目授業で実施）は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 小テストや定期試験をデバイスで行う際、デバイスを忘れてしまうと評価されない。			
【履修に当たっての心構え・留意点】								
社会人として必要なことを意識して授業に臨んでください。								

授 業 概 要

科目名	キャリア教育プログラムⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	水谷恵理子		
学科	こども保育科	学年	1	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会人として必要な力を養い、実習に臨むことができる身構え・気構え・心構えを整え、実習の準備をする 様々な人の価値観に触れて、保育観を養い、感じたことを述べるができる。 就職活動の計画を立てることができる									
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
社会福祉士、保育士の国家資格を持ち、障害者施設での支援員としての実務経験のある教員歴10年の職員が保育士を目指す学生一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
講師が作成した資料 Hand-book of LIFE STYLE					授業の復習を行う 実習や就職関連について調べる				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 前期の振り返り、後期				9	【授業単元】 自己分析と履歴書について			
	【到達目標】 8月29日 前期の振り返り、夏休みの過ごし方を振り返り説明することができる 後期の目標をいうことができる					【到達目標】 10月24日 自己分析を行い、履歴書を書くことができる			
2	【授業単元】 社会人として必要な力④				10	【授業単元】 求人の方方について 就職先の選び方について			
	【到達目標】 9月5日 働き方、職の選び方について考え、説明することができる					【到達目標】 11月7日 求人の方方&就職先の選び方のポイント、進めたと知り、就職活動への不安を減らすことができる。			
3	【授業単元】 web日誌について①				11	【授業単元】 絵本について			
	【到達目標】 9月12日 web日誌について知り、web日誌を使うことができる					【到達目標】 11月14日 絵本について理解を深め、絵本の活用方法を考えることができる			
4	【授業単元】 web日誌について②				12	【授業単元】 社会人として必要な力⑤			
	【到達目標】 9月19日 web日誌の練習を行い、スムーズに使うことができる					【到達目標】 11月21日 コミュニケーション技法について学び、実習においてスムーズなコミュニケーション方法がわかり、示すことができる			
5	【授業単元】 保育実習のオリエンテーション、TELの仕方について 現場実習について				13	【授業単元】 実習巡回表の記入、履歴書記入 (お箸の持ち方、折り紙など)			
	【到達目標】 9月26日 保育実習のオリエンテーションについて確認し、オリエンテーションの日程を決めることができる					【到達目標】 11月28日 実習巡回表について理解し、記入することができる 履歴書の書き方について理解し、履歴書を書くことができる			
6	【授業単元】 保育現場で役立つ写真の撮り方について①				14	【授業単元】 海外の保育について			
	【到達目標】 10月3日 保育現場で役立つ写真の撮り方を知り、活用方法を考えることができる					【到達目標】 12月5日 最近検査キットの配布 海外の保育について知り、日本と海外の保育の違いを説明できる			
7	【授業単元】 保育現場で役立つ写真の撮り方について②				15	【授業単元】 細菌検査のキット配布、定期試験、1月以降の確認			
	【到達目標】 10月10日 保育現場で役立つ写真の撮り方を知り、活用方法を考えることができる					【到達目標】 12月12日 定期試験を実施して、後期で学んだことを振り返ることができる。 1月以降の予定を理解できる			
8	【授業単元】 実習に向けてのストレスマネジメントについて				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（9回目授業で実施）は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 小テストや定期試験をデバイスで行う際、デバイスを忘れると評価されない。				
	【到達目標】 10月17日 実習や将来の就職先におけるストレスマネジメントを学び、実習中の対応について想定できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会人として必要なことを意識して授業に臨んでください。									

授 業 概 要

科目名	日本国憲法	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期集中	担当 教員	辻本 衣佐		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
憲法を中心に法の基礎を理解し、子どもと家族をめぐる諸問題について法的な対応をできるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学の法学部で法律を教えている教員が、保育士に必要な法律の基礎知識を身に付けるための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
日本国憲法(近大テキスト)、プリント					法律問題についてのニュースに関心を持つ。裁判傍聴に行く。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 法とは何かを理解し、法を学ぶ意義を考える。				9	【授業単元】 刑罰と犯罪者の処遇について理解する。			
	【到達目標】 六法(憲法・民法・商法・刑法・民事訴訟法・刑事訴訟法)について説明できるようにする。					【到達目標】 犯罪者の社会復帰に向けた施策を説明できるようにする。			
2	【授業単元】 年齢と権利・責任について理解したうえで、成人年齢の引き下げ問題について考える。				10	【授業単元】 契約のしくみと法制度を理解する。			
	【到達目標】 成人するということを権利と義務から説明できるようにする。					【到達目標】 契約をする場合の注意点を説明できるようにする。			
3	【授業単元】 婚姻制度(結婚・離婚)の現状と問題点について理解する。				11	【授業単元】 消費者を守るための法制度について理解する。			
	【到達目標】 結婚の要件と効果について説明できるようにする。					【到達目標】 悪質商法に対処できるようにする。			
4	【授業単元】 裁判のしくみと裁判員制度について理解する。				12	【授業単元】 労働者を守るための法制度について理解する。			
	【到達目標】 裁判員に選任された場合の心構えを身に付ける。					【到達目標】 労働者の権利について説明できるようにする。			
5	【授業単元】 堕胎、児童虐待、犯罪被害など、被害者としての子どもの問題について理解する。				13	【授業単元】 ハラスメントについて現状と解決法を理解する。			
	【到達目標】 子どもをめぐるそれぞれの問題に、どのような法律が適用されるのかを説明できるようにする。					【到達目標】 セクハラ、パワハラに対処できるようにする。			
6	【授業単元】 少年非行の現状と処遇など、加害者としての子どもの問題について理解する。				14	【授業単元】 自然環境を保護するための法制度について理解する。			
	【到達目標】 少年法はどのような法律なのかを説明できるようにする。					【到達目標】 ゴミの分別や容器包装リサイクルのしくみを法と関連付けて説明できるようにする。			
7	【授業単元】 ストリートチルドレン、児童労働、子ども兵士など、世界の子どもの人権侵害について理解する。				15	【授業単元】 私たちの生活と法とのかかわりについてまとめる。			
	【到達目標】 子どもの問題を扱う国際的な機関の役割を説明できるようにする。					【到達目標】 法律用語を正しく使って、身近な法律問題を説明できるようにする。			
8	【授業単元】 子どもの人権について、憲法や他の法律でどのように保障されているのかを理解する。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 子ども権利条約について説明できるようにする。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
私たちは、社会のルールである「法」とかかわらずに、生きて行くことはできません。よく耳にする法律用語が、本来の意味や使い方と異なっていることがありますので、その点に注意して下さい。									

科目名 (英)	英会話 English Conversation		必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	海老原 孝一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総単位 時間	1 単位 30時間	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 1,2限目
【実務経験】 公立の小中学校で教育職員をした後、海外の日本人学校や幼稚園で18年間教育・運営に携わり、帰国後、2017年から東京福祉専門学校で保育科の学生を指導、2021年からは埼玉福祉保育医療専門学校の保育科並びに言語聴覚士科でも英語や文章表現等の授業を担当している。								
【授業の学習内容】 日常で使う英語表現を学びながら、保育士・幼稚園教諭が現場で必要とする英語・英会話に特化した学習を行う。具体的には、幼児教育で使われる英単語、英語の歌、英語のゲーム、おたよりの翻訳、保育現場で想定される英会話、英語の読み聞かせ・紙芝居、英語を用いた製作活動、英語劇などである。また校外に出て、動物園や水族館の引率や説明を英語で行ったりもする。								
【到達目標】 ・外国語学習を通して、異言語や異文化への抵抗意識が少なくなる。 ・日常生活および児童福祉分野に関する基礎的な英会話力を習得する。 ・外国語学習や活動を通して、異なったものを認め、それを受け入れる態度を身につける。								
【使用教科書・教材・参考書】 必要資料は授業時に教員が配付する。					【授業外における学習】 予習や復習、資料準備などを事前に連絡する。			
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 英語で簡単な自己紹介やゲーム、歌を楽しむことができる。保育園・幼稚園・児童施設における英語教育・活動の現状を知る。 【授業内容】 英語で自己紹介、ゲーム、歌に取り組む。				9	【到達目標】 前時に作った台本をもとに、役割を決め、劇の練習をすることができる。 【授業内容】 台本を工夫して作り、役割を決めて、練習をする。		
2	【到達目標】 英語で子ども向け、成人向けの歌やゲームを考えて、楽しい活動をするための準備ができる。 【授業内容】 英語のゲーム、歌等の準備をする。				10	【到達目標】 完成した劇を動画で撮影することができる。 【授業内容】 劇を動画で撮影する。		
3	【到達目標】 準備した英語のゲームや活動をみんなで楽しむことができる。 【授業内容】 英語のゲーム・活動を行う。担当したゲーム等を進行したり、参加したりする。				11	【到達目標】 英語と日本語でピクチャーカードを作り、使うことができる。 【授業内容】 ピクチャーカードの制作と練習。		
4	【到達目標】 「はたべこあおむし」を英語と日本語で親しみ、読み聞かせをしたり、歌を歌うことができる。 【授業内容】 「はたべこあおむし」を英語と日本語で読む。場面絵を制作したり、英語と日本語で読み聞かせを練習し、実際にやってみる。				12	【到達目標】 英語と日本語でピクチャーカードを作り、使うことができる。 【授業内容】 ピクチャーカードの制作と練習。		
5	【到達目標】 「はたべこあおむし」を英語と日本語で親しみ、読み聞かせをしたり、歌を歌うことができる。 【授業内容】 「はたべこあおむし」を英語と日本語で読む。場面絵を制作したり、英語と日本語で読み聞かせを練習し、実際にやってみる。				13	【到達目標】 地域や観光地、日本文化を紹介する英語のパンフレットを制作し、作ったパンフレットをもとに発表することができる。 【授業内容】 パンフレット作り。		
6	【到達目標】 「はたべこあおむし」を英語と日本語で親しみ、読み聞かせをしたり、歌を歌うことができる。 【授業内容】 「はたべこあおむし」を英語と日本語で読む。場面絵を制作したり、英語と日本語で読み聞かせを練習し、実際にやってみる。				14	【到達目標】 地域や観光地、日本文化を紹介する英語のパンフレットを制作し、作ったパンフレットをもとに発表することができる。 【授業内容】 パンフレット作りと発表の練習。		
7	【到達目標】 子ども向け昔話を英語で楽しむことができる。 【授業内容】 英語で書かれた昔話を读んだり、理解する。				15	【到達目標】 地域や観光地、日本文化を紹介する英語のパンフレットを制作し、作ったパンフレットをもとに発表することができる。 【授業内容】 発表会を実施し、できたパンフレットと発表の内容を定期試験とする。		
8	【到達目標】 レストランで使う基本的な英会話を知り、工夫して台本を作ることができる。 【授業内容】 レストラン英会話の台本作りをする。【中間テスト 出題は昔話から】				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点=A評価 点数 89～80点=B評価 点数 79～70点=C評価 点数 69～60点=D評価 点数 59点以下=F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 受講者の状況に合わせて、内容や学習の順番を変更する場合があります。								

科目名 (英)	英会話 English Conversation	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	海老原 孝一
学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総単位 時間	1 単位 30 時間	開講区分	後期 火曜 1,2限
【実務経験】 公立の小中学校で教育職員をした後、海外の日本人学校や幼稚園で18年間教育・運営に携わり、帰国後、2017年から東京福祉専門学校で保育科の学生を指導、2021年からは埼玉福祉保育医療専門学校の保育科並びに言語聴覚士科でも英語や文章表現等の授業を担当している。							
【授業の学習内容】 日常で使う英語表現を学びながら、保育士・幼稚園教諭が現場で必要とする英語・英会話に特化した学習を行う。具体的には、幼児教育で使われる英単語、英語の歌、英語のゲーム、おたよりの翻訳、保育現場で想定される英会話、英語の読み聞かせ・紙芝居、英語を用いた製作活動、英語劇などである。また校外に出て、動物園や水族館の引率や説明を英語で行ったりもする。							
【到達目標】 ・外国語学習を通して、異言語や異文化への抵抗意識が少なくなる。 ・日常生活および児童福祉分野に関する基礎的な英会話力を習得する。 ・外国語学習や活動を通して、異なったものを認め、それを受け入れる態度を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 必要資料は授業時に教員が配付する。				【授業外における学習】 予習や復習、資料準備などを事前に連絡する。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【到達目標】 英語の子ども向けゲームや歌を楽しんで取り組むことができる。 【授業内容】 英語のゲームや歌に取り組む。			9	【到達目標】 英語の合唱曲を選び、工夫して合唱に取り組むことができる。 【授業内容】 話し合っ合唱曲を選定し、合唱に取り組む。		
2	【到達目標】 英語のすごろくゲームを工夫して作り、楽しむことができる。 【授業内容】 英語のすごろくゲームを自作し、楽しむ。			10	【到達目標】 英語の合唱曲を選び、工夫して合唱に取り組むことができる。 【授業内容】 話し合っ合唱曲を選定し、合唱に取り組む。		
3	【到達目標】 英語のすごろくゲームを工夫して作り、楽しむことができる。 【授業内容】 英語のすごろくゲームを自作し、楽しむ。			11	【到達目標】 英語の合唱曲を選び、工夫して合唱に取り組むことができる。 【授業内容】 話し合っ合唱曲を選定し、合唱に取り組む。		
4	【到達目標】 英語のパネルシアターを作成し、実演できる。 【授業内容】 英語のパネルシアターを作成し、練習・発表する。			12	【到達目標】 クリスマス会の準備を協力して行うことができる。 【授業内容】 クリスマス会の計画・準備をしよう①		
5	【到達目標】 英語のパネルシアターを作成し、実演できる。 【授業内容】 英語のパネルシアターを作成し、練習・発表する。			13	【到達目標】 クリスマス会の準備を協力して行うことができる。 【授業内容】 クリスマス会の計画・準備をしよう②		
6	【到達目標】 英語のパネルシアターを作成し、実演できる。 【授業内容】 英語のパネルシアターを作成し、練習・発表する。			14	【到達目標】 クリスマス会に楽しく参加・活動できる。 【授業内容】 クリスマス会に参加・活動する。		
7	【到達目標】 英語のパネルシアターを作成し、実演できる。 【授業内容】 英語のパネルシアターを作成し、練習・発表する。			15	【到達目標】 授業1～授業14を振り返り、定期試験を受けることができる。 【授業内容】 【定期テスト】学習したことを振り返り、テストに臨む。		
8	【到達目標】 英語の歌を歌うことができる。 中間テスト(パネルシアター)に取り組むことができる。 【授業内容】 英語で歌ってみよう 【中間テスト】パネルシアター			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点=A評価 点数 89～80点=B評価 点数 79～70点=C評価 点数 69～60点=D評価 点数 59点以下=F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 受講者の状況に合わせて、内容や学習の順番を変更する場合があります。							

授 業 概 要

科目名	健康スポーツⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
幼稚園や保育園などの実習で行う製作をして遊ぶ表現活動を、各年齢に合わせて指導上の留意点を学び実践できる。									
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保健体育の教員免許を持ち、療育センターで保育に関わった教員が実践を交えながら基本的な知識、技術を習得できる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
幼稚園教育要領、保育所保育指針					授業で行った製作は、製作手順、配慮、対象年齢を記録しておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				9	【授業単元】			
	【到達目標】 かざぐるまの製作の手順を知り、対象年齢、配慮を考えて製作することができる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				10	【授業単元】			
	【到達目標】 変身カードの製作手順を知り、対象年齢、配慮を考えて演じることができる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				11	【授業単元】			
	【到達目標】 ロケットの製作の手順を知り、対象年齢、配慮を考えて遊びの計画を立て実践することができる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				12	【授業単元】			
	【到達目標】 花火の製作手順を知り、対象年齢、配慮を考えて遊びの計画を立てて実践することができる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				13	【授業単元】			
	【到達目標】 水ビーズ、小麦粉人形の製作手順を知り、感触遊びの展開を考えることができる。					【到達目標】			
6	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				14	【授業単元】			
	【到達目標】 トルネードの製作手順を知り、感触遊びの展開を考えて実践することができる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト10点				15	【授業単元】			
	【到達目標】 くす玉の製作手順を知り、対象年齢、配慮を考えて遊びの計画を立て実践することができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 実習で行う製作遊び 振り返り 定期試験				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テスト60点、小テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 試験は実技試験で行う。 毎回の小テストは1回目から6回目までは、5点満点、7回目は10点満点とする。				
	【到達目標】 1回目から7回目までの振り返りを行い製作したものを発表することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
子どもの発達を理解しておくこと。									

授 業 概 要

科目名	健康スポーツ I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	子ども保育科	学年	1年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
幼稚園や保育園などの実習で行う表現活動の身体表現を中心とした遊びを、各年齢に合わせて指導上の留意点を学び実践できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保健体育の教員免許を持ち、親子教室、療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基礎的な知識、技術を習得できる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
学校指定のジャージ、エプロン、お道具袋、その活動に必要なもの					授業で行った運動あそび、振り付け、手遊びは記録しておくこと				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 保育に生かす手遊び 小テスト5点				9	【授業単元】 運動遊びの指導法 小テスト5点			
	【到達目標】 手遊びの効果を知ることができる。					【到達目標】 集団遊びを調べることができる①			
2	【授業単元】 保育に生かす手遊び② 小テスト5点				10	【授業単元】 運動遊びの指導法② 小テスト5点			
	【到達目標】 手遊び歌を覚えて練習することができる。					【到達目標】 集団遊びを調べることができる②			
3	【授業単元】 保育に生かす手遊び③ 小テスト5点				11	【授業単元】 運動運動遊びの指導法 小テスト5点			
	【到達目標】 指人形を使って歌いながら演じることができる。					【到達目標】 集団遊びを実施することができる①			
4	【授業単元】 保育に生かす運動遊び 小テスト5点				12	【授業単元】 運動遊びの指導法 小テスト5点			
	【到達目標】 幼児期の運動の基本的な目標を調べることができる。					【到達目標】 集団遊びを実施することができる②			
5	【授業単元】 保育に生かす運動遊び 小テスト5点				13	【授業単元】 主題遊び 小テスト5点			
	【到達目標】 幼児期の体力づくりの要素を調べることができる。					【到達目標】 リズム感を使った身体表現遊びを模倣することができる。			
6	【授業単元】 保育に生かす運動遊び 小テスト5点				14	【授業単元】 主題遊び 小テスト5点			
	【到達目標】 幼児期の健康、体力づくりを実施することができる。①					【到達目標】 リズム感を使った身体表現遊びを実施することができる。			
7	【授業単元】 保育に生かす運動遊び 小テスト5点				15	【授業単元】 主題遊び 定期試験 振り返り			
	【到達目標】 幼児期の健康、体力づくりを実施することができる。②					【到達目標】 1～14回までの振り返りを行い、企画した遊びを実施することができる。			
8	【授業単元】 保育に生かす運動遊び 中テスト 振り返り				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。実技試験で行う・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 1～7回目までの振り返りを行いリズム体操を行うことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
学校指定のジャージで受講する。腕時計、アクセサリは外しておく。									

授 業 概 要

科目名	保育原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	八木ゆかり		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
保育の意義・目的について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。保育所保育指針における保育の基本について理解する。保育の思想と歴史の変遷について理解する。保育の現状と課題について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障がい児者施設の福祉指導員、補習塾塾長、保育園保育士、保育園園長、保育アドバイザー等「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応・実践的な支援方法・チーム力等)の知識及び技術をグループワークを中心に習得できる授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新保育原理一わかりやすく保育の本質に迫る―[第2版]教育情報出版					事前にテキストを読み、大まかな概要を把握しておく				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 保育とは何か				9	【授業単元】 保育の評価			
	【到達目標】 保育の基本的な考え方を知る					【到達目標】 保育に必要な記録と省察・保護者からの苦情の背景を知り、苦情解決の原則と仕組みを知る			
2	【授業単元】 子どもを取り巻く環境の変化				10	【授業単元】 家庭援助と子育て支援			
	【到達目標】 家庭環境・社会環境の変化を知る					【到達目標】 子育て支援の背景を知り、説明することができる			
3	【授業単元】 保育の歴史を学ぶ				11	【授業単元】 家庭・小学校との連携			
	【到達目標】 世界の保育思想を知り記述することができる					【到達目標】 連携の必要性を知る			
4	【授業単元】 子どもを理解するために				12	【授業単元】 子どもの安全・虐待・障がい			
	【到達目標】 さまざまな子どもの見方、発達の捉え方を知る					【到達目標】 安全教育、虐待、配慮を要する子どもの背景を学び、集団生活の中での子どもの保育の方法を知る			
5	【授業単元】 保育環境とは				13	【授業単元】 保育者の専門性			
	【到達目標】 環境による保育とは何かを知り、屋内屋外周辺的环境、環境としての保育者の役割を知る					【到達目標】 保育者の倫理観、子どもの人権を学び、保育者の専門性及び専門性を高める方法を知る			
6	【授業単元】 保育の内容				14	【授業単元】 保育の現状と課題			
	【到達目標】 乳幼児にふさわしい生活を知り、ねらい・内容・領域について記述することができる					【到達目標】 幼稚園、保育所、認定こども園の現状から、それぞれの課題を知る			
7	【授業単元】 保育の方法・形態				15	【授業単元】 定期試験 前期授業の振り返り及び試験解答についての振り返り			
	【到達目標】 実践の中で試される保育の方法を知り、遊びの面白さの指導を説明できる					【到達目標】 1～14回目までの振り返りを行い、「子ども理解」についての自分なりの考えを記述することができる			
8	【授業単元】 保育の計画 中テスト 振り返り				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 1～7回目までの振り返りを行い、保育の計画を作成することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業形態は講義であるが、グループワークを中心に問題意識を持って、受け身ではなく能動的かつ積極的に授業に参加してほしい									
科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。									

授 業 概 要

科目名	教育原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	新井 忍		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、教育の意義、目的及び子ども家庭福祉との関わりについて資料を用いて調べ説明できるようになる。 2、教育の理想と歴史の変遷について調べ、教育に関する基礎的な理論について説明できるようになる。 3、教育の制度について理解し、身近な教育活動と関係づけることができるようになる。 4、教育実践の様々な取り組みについて理解し保育活動で生かせるようになる。 5、生涯学習社会における、教育の現状と課題について理解し、課題克服のために必要なことを推論できるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園の園長を経て、現在も幼児教育の指導を続ける教員が、長きにわたる専門学校の講義の経験を活かし、課題を自分で、又はグループ活動で克服しながら、人間にとって教育がなぜ必要でどんな方法があり、どうしたら幼児教育に生かせるのかを考え、答えを見つけていく授業。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育のための教育原理 ミネルヴァ書房					事業前に、本児の授業範囲の教科書、事業プリントを一読しておきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業ガイダンス 教育とは何か 教育の意義				9	【授業単元】 教育の方法			
	【到達目標】 学習を展開するにあたって、何を学ぶのかを明確にし、具体的な目標を持てるようになる。人間にとって教育とは何かを説明できるようになる。					【到達目標】 様々な教育方法を説明できる 教育方法によって求める能力に違いがあることを説明できるようになる。 幼児期における教育方法を説明できるようになる。			
2	【授業単元】 教育とは何か 教育の目的 教育と家族				10	【授業単元】 教育の内容			
	【到達目標】 教育には、様々な目的があることを説明できるようになる。 教育と家族、地域社会の連携について説明できるようになる。					【到達目標】 教育は同じ目的であっても、内容によって、指導の仕方が違うことを説明できる。 教育の内容は社会に大きな影響を与えることを説明できるようになる			
3	【授業単元】 幼児教育思想の歴史				11	【授業単元】 教育の計画と評価			
	【到達目標】 諸外国の幼児教育教育の思想を現代の保育に関係づける。					【到達目標】 幼児教育と小学校以上の教育には違いがあることが説明できる。 教育の評価方法には様々な種類があることが説明できるようになる			
4	【授業単元】 日本の教育制度の成立と幼児教育の展開				12	【授業単元】 現代社会と生涯教育			
	【到達目標】 日本の教育の始まりと、戦前の教育について説明できるようになる。					【到達目標】 生涯教育についてその歴史や、動向、課題について説明できるようになる。			
5	【授業単元】 戦後における教育の最終巻				13	【授業単元】 教育／保育現場をめぐる現代的課題			
	【到達目標】 戦後の教育と、新しい幼稚園、保育所の成り立ちについて説明できるようになる。					【到達目標】 教育、保育現場での課題を説明できるようになる。 保育教育の現代問題について解決方法を推論できるようになる。			
6	【授業単元】 教育の法規と制度				14	【授業単元】 連携による教育・保育			
	【到達目標】 日本国憲法と、それぞれ関連した教育に関する法律について、教育現場と関係づける					【到達目標】 教育と家庭福祉について説明できるようになる。 学校と家庭、地域の連携について説明できるようになる。			
7	【授業単元】 諸外国の教育 ①				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 諸外国の教育の特長取り上げ日本と比較する。					【到達目標】 総復習のテスト 試験範囲 第1回～第14回授業の総復習 記述問題、文章を書く問題を中心に60点満点			
8	【授業単元】 諸外国の教育 ② 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 生涯国の教育を取り上げ日本と比較する。 中テストの検討								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
「教育」には色々な意味があり「人」として生きていくのには欠かせないものである。特に幼児期の教育は大切な意味を持っています。これから幼児の教育活動に携わることになるのでたくさん考えてください。									

授 業 概 要

科目名	社会的養護 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	土屋 多恵子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 					<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ・社会的養護の現状と課題について理解する。 				
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児、児童等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を学び、保育実践できるようになる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新基本保育シリーズ6 社会的養護 I / 中央法規					<ul style="list-style-type: none"> ・保育関係の図書資料を読み、保育に関するニュースなどから保育の動向を知る。 ・社会的養護に関する制度・施策・重要な用語を記録、整理しまとめる 				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 社会的養護とは何か				9	【授業単元】 社会的養護とソーシャルワークについて			
	【到達目標】 ・社会的養護の理念と概念について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・ソーシャルワークの定義について知り、「エンパワメント」 「多様性尊重の視点」「ウェルビーイング」について説明することができる。			
2	【授業単元】 社会的養護の歴史の変遷				10	【授業単元】 家庭養護と施設養護			
	【到達目標】 ・現在の社会的養護について理解を深めるために、どのような方法で児童を養護してきたのか、歴史を振り返り、その変遷について説明することができる。					【到達目標】 ・家庭養護の要件について知り、里親の現状と課題について 里親ポスターを作成し、里親支援について述べる事ができる。			
3	【授業単元】 子どもの人権擁護と社会的養護				11	【授業単元】 社会的養護にかかわる専門職			
	【到達目標】 ・子どもの権利ノートを作成し、子どものアドボカシー(権利擁護)について知り、 子どもの権利を守る取り組みについて説明することができる。					【到達目標】 ・保育士と連携する様々な専門職についての知識を深め、どのような連携、 協働ができるか述べる事ができる。			
4	【授業単元】 社会的養護の基本原則				12	【授業単元】 社会的養護に関する社会的状況			
	【到達目標】 ・「家庭養育優先」の原則について知り、根拠となる法律や条約と 家庭養育優先すべき理由を関係づけ、説明することができる。					【到達目標】 ・養護問題発生予防を目的とした支援の必要性について考察し、 述べる事ができる。			
5	【授業単元】 社会的養護における保育士等の倫理と責務				13	【授業単元】 社会的養護施設の運営について			
	【到達目標】 ・支援者に求められる「倫理」について学び、専門職とその責務について述べる事が できる。 ・施設実習における倫理について具体的に説明することができる。					【到達目標】 ・施設等の運営にかかわる内容と費用のしくみについて知り、 職員への支援の必要性や働きやすい環境について考察し、述べる事ができる。			
6	【授業単元】 社会的養護の制度と法体系				14	【授業単元】 被措置児童等の虐待防止の現状と課題			
	【到達目標】 ・児童福祉法における社会的養護に関する基本定義について知り、 用語と定義を区分し、説明することができる。					【到達目標】 ・最近のニュースなどから事例を取り上げ、意見を述べる事ができる。			
7	【授業単元】 社会的養護のしくみと実施体系				15	【授業単元】 今後の社会的養護の課題と展望と授業の振り返り/定期試験			
	【到達目標】 ・社会的養護の実施体系、概要について説明することができる。 ・新しい社会的養育ビジョンについて調べ、説明することができる。					【到達目標】 ・地域社会と社会的養護等の施設とのつながりの重要性について、調べ、 述べる事ができる。			
8	【授業単元】 新しい社会的養育ビジョン/中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、 AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は、 15点満点とする。 の合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。 その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・新しい社会的養育ビジョンについて調べ、進捗状況や今後の課題について 述べる事ができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
意欲的に授業に臨むこと 専門用語などまとめたり、社会的養護に関する 動向について調べ、保育の専門性を高めていくこと。									

授 業 概 要

科目名	保育者論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	新井 忍		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、保育者の役割と倫理について考え、実践できるようになる。 2、保育士の制度的な位置づけを理解し説明できるようになる。 3、保育士の専門性について考察し現場で実践できるようになる。 4、保育者の連携・協働について理解し説明できるようになる。 5、保育者の資質向上とキャリア形成について学び自分の将来像を予想できるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園の園長を経て、現在も幼児教育の指導を続ける教員が、長きにわたる専門学校の講義の経歴を活かし、課題を自分で、又はグループ活動で克服しながら、人間にとって教育がなぜ必要でどんな方法があり、どうしたら幼児教育に生かせるのかを考え、答えを見つけていく授業。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新しい保育講座② 保育者論					授業全に、授業範囲の教科書、プリントを一読しておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 学習オリエンテーション 保育者とは				9	【授業単元】 保育者の専門性 ③ 保育の質の向上			
	【到達目標】 学習を展開するにあたって、何を学ぶのかを明確にし、具体的な目標を持てるようになる。					【到達目標】 保育の質とは何かを、指導要領や指針から関係づける。			
2	【授業単元】 保育者の役割				10	【授業単元】 保育者の専門性 ③ 保育の質の向上			
	【到達目標】 保育士の役割について説明できるようになる。 幼稚園、保育所、認定こども園、社会的養護施設の役割について比較し説明できるようになる。 幼稚園、保育所、認定こども園、社会的養護施設での保育士の役割について、比較して説明できるようになる。					【到達目標】 保育の質を向上させるために、幼稚園教育要領や保育所保育指針指針から関係づける。			
3	【授業単元】 保育士の倫理				11	【授業単元】 保育の質の向上 ④ 計画に基づく保育の実践と省察・評価			
	【到達目標】 保育士の倫理はなぜ必要なのかを推論する。児童の権利委つて学び権利と、倫理を関係づける。					【到達目標】 保育は計画的に行われていることを、資料から関係づける。			
4	【授業単元】 保育士の制度的な位置づけ				12	【授業単元】 保育の質の向上 ④ 計画に基づく保育の実践と省察・評価			
	【到達目標】 保育士、幼稚園教諭の資格の法的な定義について説明できるようになる。 欠格事由、信頼を損なう行為について具体的に述べるができるようになる。					【到達目標】 保育の評価とは、保育全体の評価と、子どもの評価があり、その仕方や記録の残し方を説明できるようになる。			
5	【授業単元】 保育士の専門性① 保育者の資質と能力				13	【授業単元】 保育者の連携・協働①、②園内の保育者チームおよび家庭との連携			
	【到達目標】 保育士の資質を、幼稚園教育要領や、保育所保育指針から推論する。					【到達目標】 保育は保育者同士の協同や家庭と連携して行うことを説明できるようになる。			
6	【授業単元】 保育士の専門性① 保育者の資質と能力				14	【授業単元】 保育の現代的な問題			
	【到達目標】 保育士の能力について、現在の自分お強みと、今後つけなければならない能力を具体的に述べるができるようになる。					【到達目標】 現代における子ども全体の課題を明らかにし、保育活動の中での対処の仕方を説明できるようになる。			
7	【授業単元】 保育者の専門性② 養護及び教育の一体的転回				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 養護とは何かを説明できるようになる。養護を保育の中で展開するには何が必要か具体的に述べるができるようになる。					【到達目標】 総復習のテスト 試験範囲 第1回～第14回授業の総復習 記述問題、文章を書く問題を中心に80点満点			
8	【授業単元】 保育者の専門性② 養護及び教育の一体的転回 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 保育の中の教育とは何かを説明できるようになる。教育を保育の中で展開するには何が必要か具体的に述べるができるようになる。 中テストの確認。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育士になるために必要な知識や考え方を学ぶために、積極的に授業に参加しましょう。									

授 業 概 要

科目名	保育の心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井 博一		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の4点を目標とする。 ①保育実践にかかわる心理学の知識を習得すること、②子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深めること、③子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解すること、④生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察すること。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、子どもとかわるために保育士として必要とされる、子どもの心理について理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					授業内容と、実習やアルバイト、さらには、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、保育の心理学における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・保育の心理学概説 【到達目標】 ・保育の心理学の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・心とは何かについて理解し、説明することができる。 ・発達区分について理解し、説明することができる。				9	【授業単元】 ・生まれたての赤ちゃんとその後の発達 【到達目標】 ・原始反射について理解し、説明することができる。			
2	【授業単元】 ・乳幼児期の身体発達 【到達目標】 ・乳幼児期の身体発達について理解し、説明することができる。				10	【授業単元】 ・子どもの心理的発達～その1～ 【到達目標】 ・子どもの模倣の発達について理解し、説明することができる。			
3	【授業単元】 ・親子関係～その1～ 【到達目標】 ・乳幼児期の親子関係とその後の対人関係について理解し、説明することができる。				11	【授業単元】 ・子どもの心理的発達～その2～ 【到達目標】 ・子どものことばの発達について理解し、説明することができる。			
4	【授業単元】 ・親子関係～その2～ 【到達目標】 ・ひきこもりの心理について理解し、説明することができる。 ・親子関係と反抗期について理解し、説明することができる。				12	【授業単元】 ・子どもの心理的発達～その3～ 【到達目標】 ・子どもの記憶の発達について理解し、説明することができる。			
5	【授業単元】 ・親子関係～その3～ 【到達目標】 ・乳幼児期の親子関係と感情の発達について理解し、説明することができる。				13	【授業単元】 ・子どもの心理的発達～その4 ピアジェ①～ 【到達目標】 ・心理学者・ピアジェの理論が、保育士に必要とされる理由について理解し、説明することができる。 ・ピアジェ理論における子どもの発達段階を理解し、説明することができる。			
6	【授業単元】 ・親子関係～その4～ 【到達目標】 ・乳児期の親子の愛着について理解し、説明することができる。				14	【授業単元】 ・子どもの心理的発達～その5 ピアジェ②～ 【到達目標】 ・ピアジェ理論における自己中心的思考について理解し、説明することができる。 ・ピアジェの行ったさまざまな実験について理解し、説明することができる。			
7	【授業単元】 ・1～6回目の振り返り ・中テスト 【到達目標】 ・1～6回の振り返りを行い、理解し、確認することができる。				15	【授業単元】 ・1～14回目の振り返り ・定期試験 【到達目標】 ・全14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			
8	【授業単元】 ・中テスト返却と講評 ・8回～15回目オリエンテーション 【到達目標】 ・中テストの結果を受け止め、振り返り、後半の授業に生かすことができる。 ・8～15回の授業の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・保育者として自らの性格を理解し、説明することができる。				【成績評価の方法と基準】 ・評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合する。 その結果、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は、筆記試験で行う。 毎回の授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(7回目の授業で実施)は15点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数を、小テストの合計点とする。小数点以下は切り上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 ・つねに保育現場を意識して、子どもや保護者、スタッフとどうかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	保育の計画と評価	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	土屋 多恵子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児、児童等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を学び、保育実践できるようになる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教育課程・保育の計画と評価/萌文書林 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領					・保育関係の図書資料を読み、保育に関するニュースなどから保育の動向を知る。 ・保育の計画を作成する際に必要な用語を記録、整理し、まとめる。・指導案の作成をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	保育の基本について 【到達目標】 ・幼稚園や保育所等における「保育」と小学校における「教育」の違いをすることができる。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」・「5領域」について知り、保育と子どもの育ちを関連づけることができる。				9	指導計画の作成の基本と方法① 【到達目標】 ・指導計画の作成手順の基本について理解し、部分実習(児童文化財)の立案することができる。			
2	教育課程・全体的な計画について 【到達目標】 ・「教育課程」「全体的な計画」がもつ役割・機能を説明することができる。 ・計画の編成及び評価・改善の循環サイクルを図で示し、説明することができる。				10	指導計画の作成の基本と方法② 【到達目標】 ・全体的な計画から1年間の年間予定を作成し、行事計画を立案することができる。			
3	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について 【到達目標】 ・指導計画立案の根拠となる法令について知り、それぞれの役割について説明することができる。				11	年齢に応じた保育と指導計画 【到達目標】 ・年齢の特徴を理解して子どもの姿を捉えること、指導計画を立案することを関連づけて述べるができる。			
4	全体的な計画と指導計画の関係性① 【到達目標】 ・園の全体的な計画を基に、指導計画の成り立ちについて学び、保育をイメージし、述べるができる。				12	保育の評価 【到達目標】 ・保育の記録と・省察および評価の意味について知り、保育実践を振り返る意義について述べるができる。			
5	全体的な計画と指導計画の関係性② 【到達目標】 ・指導計画(長期的・短期的)について理解し、説明することができる。 ・保育者が指導計画を立案する際の注意事項について5つ述べるができる。				13	保育士及び保育所の自己評価 【到達目標】 ・実際に自己評価チェックリストを用い、自己評価をすることの意義を説明することができる。			
6	園の概要と環境図① 【到達目標】 ・年齢ごとのデイリープログラムや保育の流れを想像し、理想の園の保育理念、環境図を作成することができる。				14	幼稚園・保育所・認定こども園の要録の理解 【到達目標】 ・子どもの育ちを支えるための資料としての要録について理解し、記録法を説明することができる。			
7	園の概要と環境図② 【到達目標】 ・年齢ごとのデイリープログラムや保育の流れを想像し、理想の園の保育理念、環境図を作成し、説明することができる。				15	園の1日の指導計画/定期試験 【到達目標】 ・時間配分や環境の構成を考え、1日の流れに沿った指導計画を立案することができる。			
8	理想の園発表/中テスト 【到達目標】 ・様々な特徴ある園の発表から、保育に必要な環境について考察し、自分の意見を述べるができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。 その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
質の高い保育者になるために必要な知識、全体的な計画と指導計画のつながり、どのように保育実践が計画されるのか知り、指導計画立案を行う。									

授 業 概 要

科目名	保育内容総論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大原 智美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ・保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ・子どもの発達や取り巻く社会背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程に繋げて理解する。 ・保育の多様な展開について、具体的に理解する。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経験したのち、結婚・出産を経て保育士となる。認可保育園の現役の園長である。幼稚園と保育園の違いや、年齢別の保育、気になる子への支援や各園の現状や園を取り巻く課題などを分かりやすく伝えていく。現場実習などを取り入れ、現場を身近に知ることができるよう授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育所保育指針ハンドブック・演習・保育内容総論					保育園訪問(保育実習)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 ・ 2	【授業単元】 ・オリエンテーション(自己紹介等) ・保育所保育指針とは				17 ・ 18	【授業単元】 ・子どもの主体性を尊重する保育 ・環境を通して行う保育 ・生活や遊びによる総合的な保育			
	【到達目標】 ・担当教員のことを知り、今後の授業に期待を持つ。 ・保育所保育指針を知り、今後の学びの見通しを立てる。					【到達目標】 ・子どもの主体性を尊重する保育を理解する。 ・環境を通して行う保育を理解する。 ・生活や遊びによる総合的な保育を理解する。			
3 ・ 4	【授業単元】 ・保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解 ・養護に関わる保育内容 ・保育内容のとらえ方				19 ・ 20	【授業単元】 保育園訪問			
	【到達目標】 ・保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する。 ・保育における「養護」にかかわる内容を理解する。 ・保育内容を理解する。					【到達目標】 ・実際に保育園を訪問し、保育園を知る。			
5 ・ 6	【授業単元】 ・保育の一日の流れと保育内容 ・子どもの育ちと保育内容				21 ・ 22	【授業単元】 児童発達支援事業所訪問			
	【到達目標】 ・保育の一日の流れと保育内容を理解する。 ・子どもの育ちと保育内容を理解する。					【到達目標】 ・児童発達支援事業所を訪問し、気になるこの声掛けや対応を知る。 ・児童の様子を見学し、事業所を知る。			
7 ・ 8	【授業単元】 ・0・1・2歳児の保育内容				23 ・ 24	【授業単元】 学びの発表「保育園&児童発達支援事業所を訪問して」			
	【到達目標】 ・0・1・2歳児の保育内容を理解する。					【到達目標】 ・保育園訪問や児童発達支援事業所訪問で学んだことを発表する。 ・グループワークを行い、他者からも学びを得る。			
9 ・ 10	【授業単元】 ・3・4・5歳児の保育内容				25 ・ 26	【授業単元】 ・多様な保育ニーズと保育内容 ・外国籍の子どもと多文化共生の保育内容			
	【到達目標】 ・3・4・5歳児の保育内容を理解する。					【到達目標】 ・多様な保育ニーズと保育内容を理解する。 ・外国籍の子どもと多文化共生の保育内容を理解する。			
11 ・ 12	【授業単元】 ・保育の計画と観察・記録と評価				27 ・ 28	【授業単元】 「気になる子ども」の保育内容			
	【到達目標】 ・保育の計画と観察・記録と評価を理解する。 ・映像から見た子どもの様子を観察し、実際に記録をとり、子どもの様子を理解する。					【到達目標】 ・「気になる子ども」の保育内容を理解する			
13 ・ 14	【授業単元】 ・保育の計画の立案 ・保護者への連絡帳の書き方				29 ・ 30	【授業単元】 ・これからの保育の課題 ・最後に			
	【到達目標】 ・保育計画を立案する。 ・映像から見た子どもの様子を観察し、実際に保護者にあてた連絡帳を書き、連絡帳の大切さを知る。					【到達目標】 ・これからの保育の課題を知る。 ・保育内容総論の授業を通して学んだことのまとめをし、振り返る。			
15 ・ 16	【授業単元】 グループワーク「保育園の園長に聞いてみよう」				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・今まで学んだことで分らなかったこと、知りたいこと、興味があることを明確にし、実際に働く現役の園長たちに質問し回答をもらい、保育内容を理解する。 ・現場でも役立つよう、質問する際は要点をまとめ、分かりやすく質問する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は元気に！授業を始める前に手遊びをみんなでやります。現場に出た際に役立つので楽しんで参加してほしいです。また、皆さんからの質問をいつでも受け付けます。どんな些細なことでも保育に大切なのでぜひ質問してください。 ・生徒のみんなと作り上げる授業にしていきたいので、積極的に参加してほしいです。 									

授 業 概 要

科目名	保育内容 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つ事を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また子どもの発達を、保育所保育指針における乳幼児の3つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児のそれぞれ5つの領域「健康・人間関係・環境・言葉・表現」を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的にりかいます。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
親子教室、心身障害児総合医療療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基本的な知識・技術を習得できる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実践に役立つ表現遊び 北王子書房					作品のシナリオを熟読して、子どもたちの前で発表できるやうに習得すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1.2	<p>【授業単元】 保育内容について 5領域 実習用名札の製作① 【到達目標】 実習、こども教室で使用するエプロンの名札の文字を切って布に貼ることができる。</p>				17 18	<p>【授業単元】 パネルシアター② 表現 小テスト5点 【到達目標】 着色することができる。</p>			
	<p>【授業単元】 名札製作② 環境・人間関係 小テスト5点 【到達目標】 名札の文字を布に縫い付けることができる。</p>					<p>【授業単元】 パネルシアター③ 表現 小テスト5点 【到達目標】 着色をすることができる②</p>			
3.4	<p>【授業単元】 ペープサート① 「3匹のやぎのガラガラドン」 言葉・表現 【到達目標】 ペープサートの特徴を知ることができる。 色付けをすることができる。</p>				21 22	<p>【授業単元】 パネルシアター④ 言葉・表現 小テスト5点 【到達目標】 パネルシアターを完成させることができる。 表紙をつくることができる。</p>			
	<p>【授業単元】 ペープサート② 小テスト5点 【到達目標】 竹串をつけることができる。</p>					<p>【授業単元】 パネルシアター⑤ 人間関係・環境・言葉・表現 小テスト5点 【到達目標】 パネルシアターの特徴を知り、シナリオを覚えて練習し部分実習のつもりで発表する。</p>			
5.6	<p>【授業単元】 ペープサート③ 小テスト5点 【到達目標】 背景を作ることができる。 表紙を作ることができる。</p>				23 24	<p>【授業単元】 パネルシアター⑥ 人間関係・環境・言葉・表現 小テスト5点 【到達目標】 パネルシアターの特徴を知り、シナリオを覚えて練習し部分実習のつもりで発表する。</p>			
	<p>【授業単元】 ペープサート④ 小テスト5点 【到達目標】 お話のシナリオを覚える。</p>					<p>【授業単元】 パネルシアター⑦ 表現 小テスト5点 【到達目標】 土台を作ることができる。</p>			
7.8	<p>【授業単元】 ペープサート⑤ 小テスト5点 言葉・表現 【到達目標】 発表することができる</p>				25 26	<p>【授業単元】 パネルシアター⑧ 表現 小テスト5点 【到達目標】 文字を切って完成させることができる。</p>			
	<p>【授業単元】 ペープサート⑥ 小テスト5点 【到達目標】 発表することができる</p>					<p>【授業単元】 パネルシアター⑨ 表現 小テスト5点 【到達目標】 文字を切って完成させることができる。</p>			
9 10	<p>【授業単元】 ペープサート⑦ 小テスト5点 【到達目標】 発表することができる</p>				27 28	<p>【授業単元】 パネルシアター⑩ 表現 小テスト5点 【到達目標】 文字を切って完成させることができる。</p>			
	<p>【授業単元】 ペープサート⑧ 小テスト5点 【到達目標】 発表することができる</p>					<p>【授業単元】 パネルシアター⑪ 表現 小テスト5点 【到達目標】 文字を切って完成させることができる。</p>			
11 12	<p>【授業単元】 ペープサート⑨ 小テスト5点 【到達目標】 発表することができる</p>				29 30	<p>【授業単元】 パネルシアター⑫ 表現 小テスト5点 【到達目標】 文字を切って完成させることができる。</p>			
	<p>【授業単元】 ペープサート⑩ 小テスト5点 【到達目標】 発表することができる</p>					<p>【授業単元】 パネルシアター⑬ 表現 小テスト5点 【到達目標】 文字を切って完成させることができる。</p>			
13 14	<p>【授業単元】 ペープサート⑪ 小テスト5点 【到達目標】 発表することができる</p>				27 28	<p>【授業単元】 パネルシアター⑭ 表現 小テスト5点 【到達目標】 文字を切って完成させることができる。</p>			
	<p>【授業単元】 ペープサート⑫ 小テスト5点 【到達目標】 発表することができる</p>					<p>【授業単元】 パネルシアター⑮ 表現 小テスト5点 【到達目標】 文字を切って完成させることができる。</p>			
15 16	<p>【授業単元】 ペープサート⑬ 小テスト5点 【到達目標】 発表することができる</p>				29 30	<p>【授業単元】 パネルシアター⑯ 表現 小テスト5点 【到達目標】 文字を切って完成させることができる。</p>			
	<p>【授業単元】 ペープサート⑭ 小テスト5点 【到達目標】 発表することができる</p>					<p>【授業単元】 パネルシアター⑰ 表現 小テスト5点 【到達目標】 文字を切って完成させることができる。</p>			
【成績評価の方法と基準】									
<p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>・定期試験は2回行い各1回30点とする。(製作、発表) ・毎回の小テストは各回(2コマ)5点満点、2回は10点満点で、その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>									
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習で各年齢に合った保育実践ができるように、丁寧に製作、発表をする									

授 業 概 要

科目名	保育内容Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つ事を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また子どもの発達を、保育所保育指針における乳幼児の3つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児のそれぞれ5つの領域「健康人間関係・環境・言葉・表現」を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的ににらかいする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
親子教室、心身障害児総合医療療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基本的な知識・技術を習得できる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実践に役立つ表現遊び 北王子書房					作品のシナリオを熟読して、子どもたちの前で発表できるやうに習得すること				
授業計画					授業計画				
2	【授業単元】 ウレタン人形① 表現 小テスト5点	9			【授業単元】 歌パネル③ 小テスト5点	【到達目標】 色付けをすることができる。			
	【到達目標】 指人形を製作し、手あそびに合わせて動かすことができる。								
3	【授業単元】 ウレタン人形② 言葉・表現 小テスト5点	10			【授業単元】 歌パネル④ 小テスト5点	【到達目標】 歌パネルを完成させることができる。 表紙を製作することができる。			
	【到達目標】 パペットを製作し、人形劇の練習をすることができる。								
4	【授業単元】 ウレタン人形③ 人間関係・環境・言葉・表現 小テスト5点	11			【授業単元】 歌パネル⑤ 小テスト5点	【到達目標】 歌を覚えては動かし方、発表の練習をする。			
	【到達目標】 チームで発表することができる。								
5	【授業単元】 スケッチブックシアター① 「どっちだ」 人間関係・環境・言葉・表現 小テスト5点	12			【授業単元】 歌パネル⑥ 小テスト5点	1番から5番まで歌いながら発表することができる。			
	【到達目標】 スケッチブックシアターを製作することができる。								
6	【授業単元】 スケッチブックシアター② 小テスト5点	13			【授業単元】 4面カード① 小テスト5点	【到達目標】 カード本体を製作することができる。			
	【到達目標】 スケッチブックシアターを製作することができる。								
7	【授業単元】 スケッチブックシアター③	14			【授業単元】 4面カード② 小テスト5点	【到達目標】 カードの内容を製作することができる。			
	【到達目標】 スケッチブックシアターを発表することができる。								
8	【授業単元】 歌パネル① 「あめふりくまのこ」 小テスト5点	15			【授業単元】 4面カード③ 小テスト5点	【到達目標】 カードを完成させることができる。			
	【到達目標】 型紙を写すことができる。								
9	【授業単元】 歌パネル② 「あめふりくまのこ」 小テスト5点	【成績評価の方法と基準】							
	【到達目標】 色付けをすることができる。	講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・定期試験は2回行い各1回30点とする。(製作、発表) ・毎回の小テストは各回(2コマ)5点満点、2回は10点満点で、その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。							
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習で各年齢に合った保育実践ができるように、丁寧に製作、発表をする									

授 業 概 要

科目名	保育内容Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤清美・山下智子	
学科 コース	こども保育科	学年	1	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 60 時間
【授業を通じての到達目標】								
1.保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2.保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3.子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 4.保育の多様な展開について具体的に理解する。								
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
親子教室、心身障害児総合医療療育センターで保育に携わった教員や幼稚園教諭、保育士の国家資格を持った教員現場経験のある職員が保育の全体構造と保育の内容を伝え、保育現場での実践を通して保育の基本的な考えを踏まえた保育内容の展開を実践できるようになることを目指す。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
幼稚園・保育所・認定こども園 実習図解明解パーフェクトガイド 保育所保育指針ハンドブック、その他の保育に関連するテキスト					さまざまな保育園や施設の方針や保育内容をHPなどで調べる			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1、2	【授業単元】 レクリエーション大会				27、 28	【授業単元】 保育実習Ⅰ(保育所)準備		
	【到達目標】 行事の大切さや行事の企画・運営方法を知り、体験する 子どもの発達などを考えた種目を考え体験する					【到達目標】 保育実習に向けての目標を明確にすることができる		
3～5	【授業単元】 現場実習や保育実習Ⅰ(保育所)で活用できるものの製作				29、 30	【授業単元】 保育実習Ⅰ(保育所)準備		
	【到達目標】 子どもたちと一緒に遊ぶことができる制作物を発達を踏まえて、考えることができる。					【到達目標】 保育実習Ⅰ(保育所)での目標に向けて、準備を整えることができる。		
6、7	【授業単元】 現場実習や保育実習Ⅰ(保育所)で活用できるものの製作					【到達目標】		
	【到達目標】 子どもたちと一緒に遊ぶことができる制作物を完成させることができる							
8～ 11	【授業単元】 現場実習のための準備					【授業単元】		
	【到達目標】 現場実習に臨むことができるように準備を終えることができる					【到達目標】		
12～ 15	【授業単元】 現場実習(保育所)					【授業単元】		
	【到達目標】 現場実習を通じて、保育所での1日の流れや子どもの様子を知ることができる。					【到達目標】		
16～ 19	【授業単元】 現場実習(施設)					【授業単元】		
	【到達目標】 現場実習を通じて、施設の概要や1日の流れを知ることができる。					【到達目標】		
20～ 23	【授業単元】 現場実習の振り返り					【授業単元】		
	【到達目標】 現場実習で感じたことや学んだことを整理してアウトプットすることができる。 保育実習に向けて、準備すべきことがわかる。					【到達目標】		
24～ 26	【授業単元】 保育実習Ⅰ(保育所)の準備				【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 授業で学んだことを実習で活かすことができように作成したものを使い、練習をすることができ、改善することができる				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、定期試験は現場実習での評価とする。(12～15コマ、16～19コマで合計60点) それ以外の小テストは、各回5点満点で小テストの合計は40点。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】								
現場を意識して、保育士として何が必要かを考えつつ経験する								

授 業 概 要

科目名	保育内容の理解と方法(造形)	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	関根 凌子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】						(備考:単位数は前・後期あわせて1単位)			
<p>1子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で子供の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。</p> <p>2保育における教材の活用及び作成と保育、環境の構成及び具体的な展開のために実践的に習得する。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼児から高齢者の造形活動の指導を行い学校教員の経験のある教員が造形活動全般の考え方指導の仕方について示し、紙、粘土、クレヨン、絵の具等を使い造形活動を実践する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
汚れてもいいエプロン、服等 お道具袋 色画用紙 粘土 絵の具					次回の授業課題のテーマを考えてくる 普段の生活の中で造形材料を探し制作の中で活かし方を考える				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 造形活動の意義 造形活動の種類 子供の絵の発達過程について 材料や用具や道具の場所と扱い方 教室の使い方 切り紙 紙工作				9	【授業単元】			
	【到達目標】 子供の絵の発達のついて理解し絵を描き提出する事が出来る。造形活動の意義を理解し、基本的な紙の折り方切り方について理解し作品を提出する事が出来る。					【到達目標】			
2	【授業単元】 幼児造形における平面技法の理解と展開方法①技法マープリング 色彩基礎知識について				10	【授業単元】			
	【到達目標】 色彩の基礎知識を踏まえ絵の具の混色が理解し実践出来る。技法の方法を理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
3	【授業単元】 幼児造形における平面技法の理解と展開方法②技法ころがし絵 画材の成分について				11	【授業単元】			
	【到達目標】 画材の成分について理解し画材の扱い方を理解出来る。技法の方法を理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
4	【授業単元】 幼児造形における平面技法の理解と展開方法③技法染め紙 紙の種類について				12	【授業単元】			
	【到達目標】 紙の種類について知り、適切に使い方が理解出来る。技法の方法を理解して考えて作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
5	【授業単元】 幼児造形における平面技法の理解と展開方法④技法洗い流し絵 I 画材の性質について				13	【授業単元】			
	【到達目標】 画材の性質について理解し、技法の方法を理解して個を活かした作品を提出する事が出来る					【到達目標】			
6	【授業単元】 幼児造形における平面技法の理解と展開方法⑤技法洗い流し絵 II 色彩効果について I				14	【授業単元】			
	【到達目標】 色彩効果について理解し、技法の方法を理解して個を活かした作品を提出する事が出来る					【到達目標】			
7	【授業単元】 幼児造形における立体表現の理解と方法①陶芸用粘土 粘土用具について				15	【授業単元】			
	【到達目標】 粘土用具について理解し、基本的な粘土の制作方法を理解し考えてきた作品を制作して提出する事が出来る。					【到達目標】			
8	【授業単元】 中テスト みたて遊び				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 色彩基礎知識を理解して、それぞれの技法作品から色々な形など発見し表現出来る								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
造形活動がしやすく汚れてもいい服装で授業を行う 準備片づけなど協力して行う									

授 業 概 要

科目名	保育内容の理解と方法(造形)	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	関根 凌子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】						(備考:単位数は前・後期あわせて1単位)			
1子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で子供の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2保育における教材の活用及び作成と保育、環境の構成及び具体的な展開のために実践的に習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼児から高齢者の造形活動の指導を行い学校教員の経験のある教員が造形活動全般の考え方指導の仕方について示し、紙、粘土、クレヨン、絵の具等を使い造形活動を実践する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
汚れてもいいエプロン、服等 お道具袋 色画用紙 粘土 絵の具					次回の授業課題のテーマを考えてくる 普段の生活の中で造形材料を探し制作の中で活かし方を考える				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 幼児造形における立体表現の理解と方法②陶芸粘土 軽量粘土石粉粘土 I 粘土の種類について				9	【授業単元】			
	【到達目標】 粘土の種類について理解出来る。粘土作品の形の修正を理解出来る。軽量粘土と石粉粘土の性質を理解し制作し個を活かした作品を提出する事が出来る。					【到達目標】			
2	【授業単元】 幼児造形における平面表現の理解と展開方法⑥技法洗い流し絵Ⅲ 色彩効果についてⅡ				10	【授業単元】			
	【到達目標】 色彩効果について理解し、技法を理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
3	【授業単元】 幼児造形における立体技法の理解と展開方法③軽量粘土 石粉粘土Ⅱ 色覚について				11	【授業単元】			
	【到達目標】 色覚について理解出来る。石粉粘土にやすりをかけ彩色し仕上げ方を理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
4	【授業単元】 幼児造形における平面と立体表現の理解と展開方法④油粘土 版画の種類と制作方法について				12	【授業単元】			
	【到達目標】 版画の種類と制作方法について理解し、個を活かした作品を提出する事が出来る。					【到達目標】			
5	【授業単元】 幼児造形における立体表現の理解と展開方法⑤小麦粉粘土 可塑性について				13	【授業単元】			
	【到達目標】 可塑性について理解し、個を活かした作品を提出する事が出来る					【到達目標】			
6	【授業単元】 幼児造形における立体表現の理解と展開方法 陶芸粘土 彩色 軸かけ スケッチブックのまとめ方について				14	【授業単元】			
	【到達目標】 陶芸粘土の彩色方法が理解できる。スケッチブックに自分の行った技法をみため、工夫した作品の提出の仕方が理解出来る。個を活かした作品を提出する事が出来る。					【到達目標】			
7	【授業単元】 定期テストみため遊び 発表				15	【授業単元】			
	【到達目標】 造形のまとめ みため遊びを発表をする事が出来る					【到達目標】			
8	【授業単元】				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	乳児保育 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	出口 加奈子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について説明できる。保育所等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について説明できる。
3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について基礎知識を習得する。
乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との望ましい連携について考えを述べる事ができる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

保育学・発達心理学を専攻し保育士資格・幼稚園教諭免許を有し長きにわたり保育者養成に携わった教員が、具体的に乳児の生活場面を取り上げ授業を行う。授業で得た知識が子どもの発達をとらえる「観察力」、その時々合った対応を考える「臨機応変な思考力」の源になるよう学ぶ。

【使用教科書・教材・参考図書】	【授業時間外における学習】
乳児保育演習ブック【第2版】 松本峰雄 監修 ミネルヴァ書房	授業内で乳児の発達にそって手遊び・わらべうた・絵本を紹介するので、自らも調べ探し、レポートを増やすよう努める。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 乳児保育とは何か</p> <p>【到達目標】 保育の場での乳児とは何か、乳児保育の対象について説明できる。 乳児保育の重要性について、「子ども」「保護者」「社会」の3つの視点から考えを述べる。</p>	9	<p>【授業単元】 0～3歳児の発達過程</p> <p>【到達目標】 0～3歳児の発達の特徴をとらえ、発達の道筋について説明できる。 人との関わりによって形成される、基本的信頼関係について「愛着」の視点から説明できる。</p>
2	<p>【授業単元】 「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概念</p> <p>【到達目標】 「保育所保育指針」における養護のねらいを踏まえ、養護と教育が一体となって展開されることを具体的な場面を取り上げ説明できる。 「ねらい及び内容」について、0歳児の3つの視点と1・2歳児の5領域、これらの関連性を指摘する。</p>	10	<p>【授業単元】 6か月未満の子どもの育ちと保育内容</p> <p>【到達目標】 6か月未満の子どもの「発育・発達」「授乳・睡眠・排泄・着脱・清潔」をふまえ、保育における留意点を挙げる。 生活と遊びが豊かになる保育環境の観点から遊び教材を工夫作成する。</p>
3	<p>【授業単元】 保育所・認定こども園における乳児保育</p> <p>【到達目標】 保育所・認定こども園における乳児保育の「物的環境」「人的環境」として規定されている事柄を列記する。 生活の流れをディリープログラムの例から把握し、乳児が心地よく生活するとはどのようなことか、必要事項を挙げる。</p>	11	<p>【授業単元】 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容</p> <p>【到達目標】 6か月以上1歳未満の子どもの「発育・発達」「離乳開始・睡眠・排泄・着脱・清潔」をふまえ、保育における留意点を挙げる。 生活と遊びが豊かになる保育環境の観点から遊び教材を工夫作成する。</p>
4	<p>【授業単元】 「乳児院」「家庭的保育等、地域型保育事業」における乳児保育</p> <p>【到達目標】 乳児院の施設としての規定事項と養育内容について説明できる。 「子ども・子育て支援新制度」における乳児のための保育施設の概要を知り、身近な地域の施設について調べる。</p>	12	<p>【授業単元】 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容</p> <p>【到達目標】 1歳以上2歳未満の子どもの「発育・発達」「食事・睡眠・排泄・着脱・清潔」をふまえ、保育における留意点を挙げる。 生活と遊びが豊かになる保育環境の観点から遊び教材を工夫作成する。</p>
5	<p>【授業単元】 子育て支援における乳児保育</p> <p>【到達目標】 保育所や認定こども園等の保育施設には、在園児の保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援があることを知る。それぞれの支援について具体的にどのような支援があるか調べる。</p>	13	<p>【授業単元】 2歳以上3歳未満の子どもの育ちと保育内容</p> <p>【到達目標】 2歳以上3歳未満の子どもの「発育・発達」「食事・睡眠・排泄・着脱・清潔」をふまえ、保育における留意点を挙げる。 生活と遊びが豊かになる保育環境の観点から遊び教材を工夫作成する。</p>
6	<p>【授業単元】 保護者とのパートナーシップ</p> <p>【到達目標】 園中で行われている保護者支援について、具体的な支援内容を挙げて留意点を述べる。 「朝の受け入れ」「お迎え・お帰りの保育事例を通して、子どもの対応と保護者支援について、多角的な視点から考えを述べる。</p>	14	<p>【授業単元】 乳児保育の現状と課題</p> <p>【到達目標】 「保護者の就労」「保育実践」「生涯発達・人間形成」これら3つの視点から、乳児保育の課題を挙げる。</p>
7	<p>【授業単元】 職員間・地域の関係機関との連携</p> <p>【到達目標】 事例をもとに、専門職である異職種との連携、職員間の連携について考えを述べる。 連携することが必要な地域の関係機関について調べる。</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験、第1回～第14回の振り返り、試験解説</p> <p>【到達目標】 これまでの授業を振り返り、理解できなかった事柄について教科書の該当項目等で確認する。</p>
8	<p>【授業単元】 これまでのおさらいと中テスト</p> <p>【到達目標】 これまで7回の授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ、教科書の該当項目等で確認する。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>	

【履修に当たっての心構え・留意点】

教科書にそって授業を行うため、授業前後に該当項目に目を通し、気になる事柄、学んだ内容を教科書にメモし、保育者になった後も、教科書を活用できるよう取り組みましょう。

授 業 概 要

科目名	障害児保育 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	土井和美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
小児病棟で小児の看護、訪問看護で小児の在宅療養を支援し、看護学校では「小児看護」、介護福祉士養成課程では「障害の理解」を担当してきた教員が授業を行う。 障害のとらえ方、子どもの発達と障害の特性およびその支援について意見交換しながら授業を進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
よくわかる障害児保育 第2版 ミネルヴァ書房 2019年					事前にテキストの授業範囲を読みキーワードや疑問点を見つけておきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1部 障害児保育の概論 I 障害児保育とは何か				9	【授業単元】 第2部 障害の特徴と保育の実際 VII その他の障害の特徴と保育での支援 ・聴覚・言語障害児			
	【到達目標】 障害のとらえ方の変化について自分の言葉で述べるができる 乳幼児の発達課題と障害特性を関連付けて述べるができる					【到達目標】 聴覚・言語障害児の特性について述べるができる 聴覚・言語障害児の特性を踏まえたコミュニケーションの支援について述べるができる			
2	【授業単元】 第1部 障害児保育の概論 II 障害児保育のしくみ				10	【授業単元】 第2部 障害の特徴と保育の実際 VII その他の障害の特徴と保育での支援 ・肢体不自由児 医療的ケア児			
	【到達目標】 障害児保育の変遷について述べるができる。 乳幼児健診と障害の早期発見について述べるができる。					【到達目標】 肢体不自由児の特性を述べるができる。 肢体不自由児の特性を踏まえた支援について述べるができる 医療的ケアの具体的な支援について述べるができる			
3	【授業単元】 第2部 障害の特徴と保育の実際 III 知的障害の特徴と保育での支援				11	【授業単元】 第4部 支援の技法 X 家族への支援			
	【到達目標】 知的障害児の認知の特徴について述べるができる 知的障害児とのコミュニケーションの工夫について述べるができる。					【到達目標】 親の障害の受容のモデルを3つ述べるができる。 きょうだい児の置かれた状況について述べるができる。			
4	【授業単元】 第2部 障害の特徴と保育の実際 IV 自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援				12	【授業単元】 第4部 支援の技法 XII 発達支援の技法①			
	【到達目標】 自閉症スペクトラム障害の特性を述べるができる 自閉症スペクトラム障害の特性を踏まえた支援について述べるができる					【到達目標】 障害児のワークショップを運営している方の話を聞く。			
5	【授業単元】 第2部 障害の特徴と保育の実際 V 注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援				13	【授業単元】 第4部 支援の技法 XII 発達支援の技法②			
	【到達目標】 注意欠如・多動性障害の特性を述べるができる 注意欠如・多動性障害の特性を踏まえた支援について述べるができる					【到達目標】 多様な障害の特性に応じた具体的な支援方法を調べ、発表することができる。			
6	【授業単元】 第2部 障害の特徴と保育の実際 VI 学習障害の特徴と保育での支援				14	【授業単元】 第4部 支援の技法 XII 発達支援の技法③			
	【到達目標】 学習障害の特性を述べるができる。 学習障害の特性を踏まえた支援について述べるができる 発達性協調運動障害の特性について述べるができる					【到達目標】 多様な障害の特性に応じた具体的な支援方法を調べ、発表することができる。			
7	【授業単元】 第2部 障害の特徴と保育の実際 VII その他の障害の特徴と保育での支援 ・視覚障害児				15	【授業単元】 定期試験 授業の振り返り			
	【到達目標】 視覚障害児の特性について述べるができる 視覚障害児の特性を踏まえたコミュニケーションの支援について述べるができる					【到達目標】 1～14回に学んだ知識と考察を活かして、提示された文章から適切な表現を選択することができる。			
8	【授業単元】 1～7回の振り返り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 講義内容によって、ワークの参加またはリアクションペーパーを小テストの代わりとする場合がある。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回授業の5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 1～7回に学んだ知識と考察を活かして、提示された文章から適切な表現を選択することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事前にテキストを読んで授業に臨むようにしてください。 こどもに関するニュースや障がいを持つ人に関する情報に関心を持ちましょう シラバス上「障害」と表記し、授業では適宜「障がい・障害・しょうがい」を使用します。									

授 業 概 要

科目名	保育実習 I (保育所)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p><保育所実習の内容></p> 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開											
2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり											
3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全											
4. 保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価											
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導 I - ①	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	河野亮子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・保育実習の意義・目的を理解する。・保育の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。・各年齢の子どもの発達や遊び、保育内容を理解する。									
【学習内容】									
・幼稚園教諭免許、保育士資格を有する教員が、幼稚園、保育所での現場経験を活かし、学生が実習に向けて、知識、技術、実践力を習得することで、自信を持って実習に臨むことが出来るように授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 保育所保育指針ガイドブック・0～6歳児の発達と保育					授業の振り返りを行う。・保育実技は子ども達の前で自信をもって行える様に練習をすることで身に付ける。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション・保育実習の意義・実習の内容、課題 【到達目標】 ・保育実習の目的、概要について理解し、説明することが出来る。 ・実習の内容を理解し、自分の課題を明確にする。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。				9	【授業単元】 ・「保育所保育指針」① 【到達目標】 ・「保育所保育指針」内容について理解し、ポイントについて説明することが出来る。			
2	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び① ・0歳児の発達、遊び、実習生の関わり方を理解し、説明することが出来る ・保育実技を習得し、実践することが出来る。				10	【授業単元】 ・「保育所保育指針」② 【到達目標】 ・幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における共通化のポイントについて理解し、説明することが出来る			
3	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び② 【到達目標】 ・1・2歳児の発達、遊び、実習生の関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、説明することが出来る。				11	【授業単元】 ・施設実習 【到達目標】 ・施設実習内容、種別と特徴について理解することが出来る ・保育実技を習得し、実践することが出来る。			
4	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び③ ・3歳児の発達、遊び、実習生の関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。				12	【授業単元】 ・実習日誌の記入方法 【到達目標】 ・実習日誌を書く意味について理解し、記入方法を実際に書いて理解することが出来る。			
5	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び④ 【到達目標】 ・4歳児の発達、遊び、実習生の関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、説明することが出来る。				13	【授業単元】 ・指導案作成① 【到達目標】 ・部分実習の内容を考え、指導案を作成することが出来る。			
6	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び⑤ 【到達目標】 ・5歳児の発達、遊び、実習生の関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。				14	【授業単元】 ・指導案作成② 【到達目標】 ・指導案の内容をグループ内で解り易く発表することが出来る。・意見交換をする。			
7	【授業単元】 ・各年齢の指導案作成 【到達目標】 ・各年齢(3歳児～6歳児クラス)の指導案を実際に作成することが出来る。				15	【授業単元】 ・定期試験(1回目～14回目の振り返り) 【到達目標】 ・授業内容の振り返りをし、ポイントを説明出来る。・定期試験内容について理解する。			
8	【授業単元】 ・中テスト 【到達目標】 ・中テストの内容が理解出来る。 ・1回目～7回目の内容を振り返り、理解出来る。				【成績評価の方法と基準】				
					・小テスト毎回5点×13回＋中テスト15点＝80点÷2(40点) ・定期試験は60点とし、小テストと定期試験で100点満点とする。 ・両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。・定期試験は筆記試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・使用テキスト等忘れ物をしないこと。・実習に向けて、授業を通して意欲や意識を高めていくこと。									

授 業 概 要

科目名	実習トレーニング	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	河野亮子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・実習(保育所・施設・幼稚園)に向けて、必要な知識、技術を習得することで、意欲や課題意識を高める。 ・保育者としての常識、マナー、倫理観について学ぶ。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭免許、保育士資格を有する教員が、幼稚園、保育所での現場経験を活かし、学生が実習に向けて、知識、技術、実践力を習得することで、自信を持って実習に臨むことが出来るように授業を行う。 									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド・保育所保育指針 0～6歳児の発達と保育					授業の振り返りを行う。保育実技については子ども達の前で自信を持って出来る様に練習を行う。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・実習とは何か				9	【授業単元】			
	【到達目標】 ・実習とは何かについて理解し説明することが出来る。					【到達目標】			
2	【授業単元】 ・実習の心構え				10	【授業単元】			
	【到達目標】 ・実習の心構えについて理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。					【到達目標】			
3	【授業単元】 ・幼稚園・保育所・認定こども園①				11	【授業単元】			
	【到達目標】 ・幼稚園・保育所・認定こども園について、それぞれの特徴、役割等について説明することが出来る。					【到達目標】			
4	【授業単元】 ・幼稚園・保育所・認定こども園②				12	【授業単元】			
	【到達目標】 ・幼稚園・保育所・認定こども園について、それぞれの特徴、役割等について説明することが出来る。					【到達目標】			
5	【授業単元】 ・年齢に応じた発達と遊び				13	【授業単元】			
	【到達目標】 ・各年齢、クラスにおける発達や遊び・関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。					【到達目標】			
6	【授業単元】 ・実習の必要な記録について(実習日誌・指導案)				14	【授業単元】			
	【到達目標】 ・実習の記録、情報の取り扱いについて理解し、説明出来る。 ・指導案の立案の方法を理解し、説明することが出来る。					【到達目標】			
7	【授業単元】 ・保育者としての常識、マナーなどについて				15	【授業単元】			
	【到達目標】 ・保育者としての常識、マナーなどについて理解し、説明出来る。 ・保育技術を習得し、実践することが出来る。					【到達目標】			
***	【授業単元】 ・定期試験(1回～7回目までの振り返りをする)				【成績評価の方法と基準】 ・講義全体を100点満点とし、小テスト(1回～6回まで各5点、7回目10点の合計40点)と定期テスト60点の100点満点とする。 ・試験は筆記・実技で行う。				
	【到達目標】 ・定期試験の内容を理解することが出来る。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習について理解を深め実習に向けての意欲や課題意識を高めるようにする。									

授 業 概 要

科目名	音楽Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	糸日谷章子・佐藤晴奈・松澤友妃子・村上陽子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の基礎力を学び、弾き歌いのできる保育士を養成する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
音楽の専門知識を持った教員が保育士に求められる音楽の基礎力・実践力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
幼児のための音楽教育・こどもの歌ベストテン					授業で学んだ曲を練習室・自宅等で反復練習し、復習をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 音楽Ⅰで学習する内容や試験について説明を受け理解する。 課題曲の説明を受け、歌唱・曲を覚える。 「かえるのがつしょう」の右手を弾けるようにする。				9	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おはようのうた」の右手を弾けるようにする。 「おかえりのうた」の弾き歌い練習をする。 「かたつむり」の右手・左手を弾きながら弾けるようにする。			
2	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。 課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「かえるのがつしょう」の右手・左手を弾けるようにする。 「おかえりのうた」の右手を弾けるようにする。				10	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おはようのうた」の右・左手を弾けるようにする。 「おかえりのうた」の弾き歌い練習をする。 「かたつむり」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。			
3	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。 課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おかえりのうた」の右手を弾きながら弾けるようにする。 「かえるのがつしょう」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。				11	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おはようのうた」の右・左手を弾きながら弾けるようにする。 「おかえりのうた」の弾き歌い練習をする。 「むすんでひらいて」の右手・左手を弾きながら弾けるようにする。			
4	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おかえりのうた」の右・左手を弾きながら弾けるようにする。 「かえるのがつしょう」の弾き歌い練習をする。 「ロンドン橋」の右手を弾けるようにする。				12	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おはようのうた」の両手を弾けるようにする。 「おかえりのうた」の弾き歌い練習をする。 「むすんでひらいて」の両手を弾けるようにする。			
5	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おかえりのうた」の右・左手を弾けるようにする。 「かえるのうた」の弾き歌い練習をする。 「ロンドン橋」の右手・左手を弾きながら弾けるようにする。				13	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おはようのうた」の両手・弾き歌いを弾けるようにする。 「おかえりのうた」の弾き歌い練習をする。 「むすんでひらいて」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。			
6	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おかえりのうた」の両手を弾けるようにする。 「かえるのがつしょう」の弾き歌い練習をする。 「ロンドン橋」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。				14	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 定期試験に向けて 「おかえりのうた」「おはようのうた」2曲と「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」の3曲から各自1曲を選択し 合計3曲弾き歌い演奏をする。 歌声がしっかりと聴こえ、流れが止まらない演奏を目指す。			
7	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おかえりのうた」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。 「かえるのがつしょう」の弾き歌い練習をする。 「かたつむり」の右手を弾けるようにする。				15	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 定期試験 「おかえりのうた」「おはようのうた」2曲と「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」の3曲から各自1曲を選択 合計3曲の弾き歌い演奏をする。 歌声がしっかりと聴こえ、流れが止まらない演奏を目指す。			
8	【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」 【到達目標】 中テスト課題曲「おかえりのうた」「かえるのがつしょう」2曲弾き歌いを発表する。 歌声がしっかりと聴こえ、流れが止まらない演奏を目指す。				【成績評価の方法と基準】 定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は実技試験で行う。指定された課題曲を指示に従い演奏する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身に付けるため 毎回の授業を真剣に取り組むこと。授業時間外にもできる限り練習し、 疑問点はその都度教員に聞き、解決、理解することが望ましい。									

授 業 概 要

科目名	音楽Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	糸日谷章子、佐藤晴奈、松澤友妃子、村上陽子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 将来の保育現場で必要とされる音楽の基礎力を学び、弾き歌いのできる保育士・幼稚園教諭を育成する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 音楽の専門知識を持った教員が、保育士・幼稚園教諭に求められる音楽の基礎力・実技力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】 幼児のための音楽教育(教育芸術社)、こどもの歌ベストテン(ドレミ楽譜出版社)					【授業時間外における学習】 授業で取り組んだ曲及び次週の小テスト課題曲を、各自授業時間外に学校または自宅等のピアノで練習し、いつでも演奏できるよう仕上げる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<p>【授業単元】 ・後期課題曲の歌唱「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」 ・「おべんとう」右手弾き歌い</p> <p>【到達目標】 ・後期授業で学習する内容や試験についての説明を受け理解する。 ・後期課題曲(7曲)を歌唱し歌詞を覚える。 ・「おかたづけ」右手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。</p>				9	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「おべんとう」(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・「おべんとう」両手弾き歌いを最後まで間違えずに演奏できるよう練習する。 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中からまだ演奏したことのない曲を1曲選択し、右手弾き歌いについての説明を受け理解し練習する。</p>			
2	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「おかたづけ」(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし歌詞を確実に覚え、間違えずに歌えるよう練習する。 ・「おかたづけ」両手弾き歌いについて説明を受け理解し、練習して最後まで弾けるようにする。 ・「朝のうた」右手の弾き方についての説明を受け理解し練習する。</p>				10	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・第9回目の授業で「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から選択し練習した曲の両手弾き歌いを確実にできるよう練習する。またその曲の両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。</p>			
3	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「朝のうた」(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし歌詞を確実に覚え、楽譜なしでも歌えるよう練習する。 ・「朝のうた」両手弾き歌いを練習し最後まで間違えずに弾けるよう練習する。 ・「朝のうた」両手弾き歌いについての説明を受け理解し練習する。</p>				11	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・第10回目の授業で選択し練習した曲の両手弾き歌いを確実にできるよう練習する。 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から、残りの1曲について両手弾き歌い説明を受け練習する。</p>			
4	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「朝のうた」(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも間違えずに歌えるよう練習する。 ・「朝のうた」両手弾き歌いを練習し最後まで確実に演奏できるよう練習する。 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自1曲を選択し、両手弾き歌いについて説明を受け理解し、練習する。</p>				12	<p>・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・第11回目の授業で「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から選択し練習した曲の両手弾き歌いを確実にできるよう練習する。また両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。</p>			
5	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも確実に歌えるよう練習する。 ・第4回目の授業で「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自が選択し練習した曲の両手弾き歌いを確実にできるよう練習する。また両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。</p>				13	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・第12回目の授業で「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から選択し練習した曲の両手弾き歌いを確実にできるよう練習する。 ・「さようならのうた」右手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。</p>			
6	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも確実に歌えるよう練習する。 ・第5回目の授業で「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から選択し練習した曲を両手弾き歌いで間違えずに弾けるよう練習する。 ・「おべんとう」の両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。</p>				14	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「さようならのうた」(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・「さようならのうた」両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。 ・「朝のうた」「おべんとう」と「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ1曲を両手弾き歌いで確実に演奏できるよう練習する。</p>			
7	<p>【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「おべんとう」(両手弾き歌い)</p> <p>【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも確実に歌えるよう練習する。 ・「おべんとう」の両手弾き歌いを最後まで演奏できるよう練習する。また両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。 ・「朝のうた」「おかたづけ」の両手弾き歌いが確実に演奏できるよう練習する。</p>				15	<p>【授業単元】 ・【定期試験】「朝のうた」「おべんとう」と「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自選択した1曲の合計3曲(両手弾き歌い)※「朝のうた」「おべんとう」は2番まで</p> <p>【到達目標】 ・人前でも相手に聞こえるような声量で止まらず弾き歌いのできるよう練習し、定期試験でその成果を発揮する。</p>			
8	<p>【授業単元】 ・【中テスト】「朝のうた」「おかたづけ」の2曲(両手弾き歌い)※朝のうたは2番まで ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱</p> <p>【到達目標】 ・人前でも相手に聞こえるような声量で止まらず弾き歌いのできるよう練習し、中テストでその成果を発揮する。 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。</p>				<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点がA～Fの6段階で評価する。</p> <p>・試験は実技のみで、指定された課題曲を指示に従い演奏する。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】 将来の保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身に付けるために、毎回の授業を真剣に取り組み授業時間外にもできる限り練習する。また疑問点はその都度教員に聞き、確実に解決・理解することが望ましい。									

授 業 概 要

科目名	こども教室 I	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	3 単位	総時間数	90 時間
『らららキッズステーション』									
【授業を通じての到達目標】									
こども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してより良い保育の実践力を習得する。									
【学習内容】									
保健体育の教員免許を持ち、親子教室、遊びの教室、療育センターで子どもと関わっている教員が実践を交えながら基礎的な知識、技術を習得できる。									
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】					
ジャージ、学校指定ボロシャツ、学校指定エプロン、お道具袋 その他活動に必要な道具、pcカタレット端末				活動担当時の指導案作成や製作物の準備をする 各年齢の発達を予習する					
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 ・授業の目的、こども教室について理解する。 ・保育者としてのマナーを学ぶ。			25	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。				
2	【到達目標】 ・こども教室に必要な身構え、気構え、心構えを理解し行動変容 する準備ができる。			26	【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。				
3	・保育者としての基本的なマナーを理解し記述することができる			27	・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
4	【授業単元】 ・年間の計画を立て準備をする。			28	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。				
5	【到達目標】 ・こどもが楽しく参加できるように準備をする。			29	【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。				
6				30	・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
7	【授業単元】 ・はじめましての会を行い、自己紹介をすることができる。			31	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。				
8	・楽しく活動に参加できるように笑顔で関わる。			32	【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。				
9	【到達目標】 ・こどもの名前を呼んでみる。 ・笑顔で関わる。			33	・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
10	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を学ぶ。①			34	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。				
11	【到達目標】 ・担当の子どもが喜び、楽しむことを見つけることができる。			35	【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。				
12	・子どもの様子を記録することができる。			36	・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
13	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を学ぶ。②			37	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。				
14	【到達目標】 ・担当の子どもと仲よくなれるような声かけをすることができ る。			38	【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。				
15	・楽しく活動に参加できるように笑顔で関わる。			39	・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
16	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を学ぶ。③			40	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。				
17	【到達目標】 ・担当の子どもが喜び、楽しむことを見つけることができる。			41	【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。				
18	・子どもの様子を記録することができる。			42	・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
19	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。			43	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。				
20	【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。			44	【到達目標】 ・前期の活動を通して学んだことを活かし実践する。				
21	・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。			45	・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをする。				
22	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。			【成績評価の方法と基準】					
23	【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。			こども教室のルーブリックを用いて評価する。					
24	・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。			【小テストについて】 1回目～5回目の小テストは2点満点、6回目～15回目の小テストを3点満 点とする。 1～15回分の合計点40点分小テストの点数とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】				【定期試験について】 毎回4点満点の配点で試験（活動の振り返り）を記述形式で実施し、1 ～15回分の合計点60点分を定期試験の点数とする。					
実習にふさわしい身だしなみとチームの一員であることを認識し、思 いやりと責任感を持って授業に参加する。提出期限は守ること。				【評価について】 小テスト・定期試験の合計点からA-Fの6段階で評価する。					

授業概要

科目名	こども教室 I	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	関根 凌子			
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間	
【こどもアトリエ】										
【授業を通じての到達目標】										
子ども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してよりよい保育の実践力を習得する。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
幼児から高齢者の造形活動を行い学校教育の経験のある教員が保育者間の相互理解と連携や企画・運営力・実践を交えながら基礎的な知識技術を修得出来る授業を行う										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
ジャージ・学校指定ポロシャツ・学校指定エプロン お道具袋・その他活動に必要な道具・PCかタブレット端末					活動担当時の指導案作成や製作物の準備					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 ・授業の目的、こども教室について理解する ・保育者としてのマナーを学ぶ ・新年度受け入れ準備①1年の活動と1日の活動と準備物などの説明 ・こども教室における感染症対策について 緊急事態におけるこどもへの対応を学ぶ				25	【授業単元】 学生の企画・運営による活動⑦				
2	【到達目標】 ・こども教室に必要な身構え・気構え・心構えを理解し、行動変容する準備ができる ・保育者としての基本的なマナーについて理解し、記述することができる ・準備が出来る ・アトリエの活動内容を理解し1年の活動を共有し、半期の計画を立てる事ができる。 ・こども教室における感染症対策の基本ポイントを理解出来る ・緊急時の対応を記述する事が出来る				26	【到達目標】 主活動担当者：自らが考えた活動を実践し問題を発見が出来る。担当者以外：全体の流れを理解・確認しながら子供や保護者と関わる事が出来る。				
3					27					
4	【授業単元】 先生主導の企画・運営による活動⑧				28	【授業単元】 学生の企画・運営による活動⑧				
5	【到達目標】				29	【到達目標】				
6	学生間で協力し準備や片付けを行い全体の流れを確認しながら子どもや保育者と関わる事が出来る ・振り返りが出来る				30	主活動担当者：自らが考えた活動を実践し発見した問題を仲間と検討する事が出来る。担当者以外：全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。				
7	【授業単元】 ・授業の目的、こども教室について理解を深める ・保育者としてのマナーを学ぶ ・新年度受け入れ準備①1年の活動と1日の活動と準備物などの説明と壁面構成などの製作					【授業単元】 学生の企画・運営による活動⑨				
8	【到達目標】					【到達目標】				
9	・こども教室に必要な身構え・気構え・心構えを理解し、行動変容する。 ・保育者としての基本的なマナーについて理解し、記述することができる。 ・アトリエの活動内容を理解し1年の活動を共有し、半期の計画を立てる事ができる。 ・アトリエ活動に必要な「enbe」や制作が出来る					主活動担当者：自らが考えた活動を実践し発見した問題を仲間と検討する事が出来る。担当者以外：全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。				
10	【授業単元】 学生主導の企画・運営による活動⑨				34	【授業単元】 学生の企画・運営による活動⑩				
11	【到達目標】				35	【到達目標】				
12	主活動担当者：自らが考えた活動を実践し問題を発見出来る。主活動担当者以外：全体の流れを確認しながら子供や保護者と関わる事が出来る。 ・振り返りが出来る				36	主活動担当者：自らが考えた活動を実践し発見した問題を仲間と検討する事が出来る。担当者以外：全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。行事の中でそれぞれの役割を理解し協力しあい進行する。全体で振り返りを行い活動のよかったところや改善点などについて意見を出し合い共有出来る。				
13	【授業単元】 学生主導の企画・運営による活動⑩				37	【授業単元】 学生の企画・運営による活動⑪				
14	【到達目標】				38	【到達目標】				
15	主活動担当者：自らが考えた活動を実践し問題を発見出来る。主活動担当者以外：全体の流れを確認しながら子供や保護者と関わる事が出来る。 ・振り返りが出来る				39	主活動担当者：自らが考えた活動を実践し、発見した問題を仲間と検討する事が出来る。担当者以外：全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。				
16	【授業単元】 学生の企画・運営による活動⑪				40	【授業単元】 学生の企画・運営による活動⑫				
17	【到達目標】				41	【到達目標】				
18	主活動担当者：自らが考えた活動を実践し問題を発見が出来る。担当者以外：全体の流れを確認しながら子供や保護者と関わる事が出来る。 ・振り返りが出来る				42	主活動担当者：自らが考えた活動を実践し、発見した問題を仲間と検討する事が出来る。担当者以外：全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。				
19	【授業単元】 学生の企画・運営による活動⑫				43	【授業単元】 学生の企画・運営による活動⑬⑭⑮(二夏祭り)				
20	【到達目標】				44	【到達目標】				
21	主活動担当者：自らが考えた活動を実践し問題を発見が出来る。担当者以外：全体の流れを確認しながら子供や保護者と関わる事が出来る。				45	主活動担当者：自らが考えた活動を実践し、発見した問題を仲間と検討する事が出来る。担当者以外：全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。前期の評価をする。改善出来るように具体的に振り返る。				
22	【授業単元】 学生の企画・運営による活動⑬				【成績評価の方法と基準】					
23	【到達目標】				こども教室のルーブリックを用いて評価する。					
24	主活動担当者：自らが考えた活動を実践し問題を発見が出来る。担当者以外：全体の流れを理解・確認しながら子供や保護者と関わる事が出来る。				【小テストについて】 1回目～5回目の小テストは2点満点、6回目～15回目の小テストを3点満点とする。 1～15回分の合計点40点分小テストの点数とする。 【定期試験について】 毎回4点満点の配点で試験(活動の振り返り)を記述形式で実施し、1～15回分の合計点60点分を定期試験の点数とする。 【評価について】 小テスト・定期試験の合計点からA-Fの6段階で評価する					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
実習にふさわしい身だしなみとチームの一員である事を認識し、責任感を持って授業に参加する。提出物は期限を守る事。										

授 業 概 要

科目名	こども教室 I	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	河野亮子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
『ここにコレキッズ』									
【授業を通じての到達目標】									
子ども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してよりよい保育の実践力を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭免許、保育士資格を有する教員が、幼稚園、保育所での30年余りの乳幼児保育・教育の現場経験を活かし、保育の知識・技術、また、保育者に求められる連携の必要性、企画・運営力、実践力を養うための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ジャーナル・学校指定ポロシャツ・学校指定エプロン お道具袋・その他活動に必要な道具・PCかタブレット端末					活動担当時の指導案作成や製作物の準備				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・授業の目的、こども教室について理解する ・保育者としてのマナーを学ぶ、子どもを受け入れるための準備について学ぶ				25	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
2	【到達目標】				26	【到達目標】			
3	・こども教室に必要な身構え・気構え・心構えを理解し、行動変容する準備ができる。 ・保育者としての基本的なマナーについて理解し、記述することができる ・子どもを受け入れるための準備の必要性について理解し、実際に準備する				27	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題解決が出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
4	【授業単元】 ・講師の企画・運営による活動				28	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
5	【到達目標】				29	【到達目標】			
6	・講師が企画した活動に参加し、適切な方法で子どもと関わることが出来る。 ・教室の活動の流れを理解し、動くことが出来る。				30	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
7	【授業単元】 ・講師の企画・運営による活動				31	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
8	【到達目標】				32	【到達目標】			
9	・講師が企画した活動に参加し、適切な方法で子どもと関わることが出来る。 ・教室の活動の流れを理解し、動くことが出来る。				33	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
10	【授業単元】 学生の企画・運営による活動				34	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
11	【到達目標】				35	【到達目標】			
12	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				36	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
13	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				37	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
14	【到達目標】				38	【到達目標】			
15	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				39	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
16	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				40	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
17	【到達目標】				41	【到達目標】			
18	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				42	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
19	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				43	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動 ・前期活動の振り返り			
20	【到達目標】				44	【到達目標】			
21	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				45	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。 ・前期活動を振り返り、自己評価が出来る。			
22	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				こども教室のルーブリックを用いて評価する。				
23	【到達目標】				【小テストについて】				
24	・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				1回目～5回目の小テストは2点満点、6回目～15回目の小テストを3点満点とする。 1～15回分の合計点40点分小テストの点数とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習にふさわしい身だしなみとチームの一員である事を認識し、責任感を持って授業に参加する。提出物は期限を守る事。									
【定期試験について】 毎回4点満点の配点で試験(活動の振り返り)を記述形式で実施し、1～15回分の合計点60点分を定期試験の点数とする。									
【評価について】 小テスト・定期試験の合計点からA-Fの6段階で評価する									

授 業 概 要

科目名	こども教室Ⅱ		必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科		学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	3 単位	総時間数	90 時間
『らららキッズステーション』										
【授業を通じての到達目標】										
こども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してより良い保育の実践力を習得する。										
【学習内容】										
保健体育の教員免許を持ち、親子教室、遊びの教室、療育センターで子どもと関わっている教員が実践を交えながら基礎的な知識、技術を習得できる。										
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】				
ジャージ、学校指定ポロシャツ、学校指定エプロン、お道具袋 その他活動に必要な道具、pcカタブレット端末						活動担当時の指導案作成や製作物の準備をする 各年齢の発達を予習する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1 2 3	【授業単元】 ・らららキッズステーションの活動内容を理解する。 ・チーム分けをして活動内容を計画する。 【到達目標】 ・自分が主活動の指導案を書く。 ・準備をする。				25 26 27	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
4 5 6	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を学ぶ。① 【到達目標】 ・はじめましての会を行い、自己紹介をすることができる。 ・楽しく活動に参加できるように笑顔で関わる。				28 29 30	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
7 8 9	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を学ぶ。② 【到達目標】 ・担当の子どもと仲よくなれるような声かけをすることができる。 ・楽しく活動に参加できるように笑顔で関わる。				31 32 33	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
10 11 12	【授業単元】 運動あそびの工夫と展開を学ぶ。③ 【到達目標】 ・担当の子どもが喜び、楽しむことを見つけることができる。 ・子どもの様子を記録することができる。				34 35 36	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
13 14 15	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				37 38 39	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
16 17 18	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				40 41 42	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				
19 20 21	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				43 44 45	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。 【到達目標】 ・一年間の活動を通して学んだことを活かし実践する。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをする。				
22 23 24	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				【成績評価の方法と基準】 こども教室のルーブリックを用いて評価する。 【小テストについて】 1回目～5回目の小テストは2点満点、6回目～15回目の小テストを3点満点とする。 1～15回分の合計点40点分小テストの点数とする。 【定期試験について】 毎回4点満点の配点で試験（活動の振り返り）を記述形式で実施し、1～15回分の合計点60点分を定期試験の点数とする。 【評価について】 小テスト・定期試験の合計点からA-Fの6段階で評価する。					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
実習にふさわしい身だしなみとチームの一員であることを認識し、思いやりと責任感を持って授業に参加する。提出期限は守ること。										

授 業 概 要

科目名	こども教室Ⅱ	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	関根 凌子			
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間	
【こどもアトリエ】										
【授業を通じての到達目標】										
子ども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してよりよい保育の実践力を習得する。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
幼児から高齢者の造形活動を行い学校教育の経験のある教員が保育者間の相互理解と連携や企画・運営力・実践を交えながら基礎的な知識技術を修得出来る授業を行う										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
ジャージ・学校指定ポロシャツ・学校指定エプロン お道具袋・その他活動に必要な道具・PCかタブレット端末					活動担当時の指導案作成や製作物の準備					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 ・こどもアトリエの半期の活動の流れと1日の活動の流れの説明。 ・子供の発達段階に応じた支援について。 ・材料と準備物について説明。 ・学生主導の企画・運営④				25	【授業単元】 学生の企画運営による活動②ハロウィン				
2	【到達目標】				26	【到達目標】				
3	半期の活動と1日の活動の流れを理解する。-こどもの発達段階にあわせた支援を理解出来る。 ・各自または各チームで造形活動の計画を立てる事が出来る。 ・学生間で協力し準備や片付けを行い全体の流れを確認しながら子どもや保護者と関わる事が出来る・振り返りが出来る				27	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見し検討する事が出来る。担当者以外: 全体の流れを理解しながら子供や保護者と関わる事が出来る。 ・イベントにおける制作方法を実践出来る				
4	【授業単元】 ・学生主導による企画・運営⑤				28	【授業単元】 学生の企画運営による活動③				
5	【到達目標】				29	【到達目標】				
6	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見が出来る。担当者以外: 全体の流れを確認しながら子どもや保護者と関わる事が出来る。				30	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見し仲間と検討する事が出来る。担当者以外: 全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。				
7	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動⑥				31	【授業単元】 学生の企画運営による活動④				
8	【到達目標】				32	【到達目標】				
9	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見が出来る。担当者以外: 全体の流れを確認しながら子どもや保護者と関わる事が出来る。				33	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見が出来る。担当者以外: 全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。				
10	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動⑦				34	【授業単元】 学生の企画運営による活動⑤				
11	【到達目標】				35	【到達目標】				
12	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見が出来る。担当者以外: 全体の流れを確認しながら子どもや保護者と関わる事が出来る。				36	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見し仲間と検討する事が出来る。担当者以外: 行事の中でそれぞれの役割を理解し協力しながら行う。全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。				
13	【授業単元】 ・学生の企画運営による活動⑧				37	【授業単元】 学生の企画運営による活動⑥				
14	【到達目標】				38	【到達目標】				
15	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見が出来る。担当者以外: 全体の流れを確認しながら子どもや保護者と関わる事が出来る。				39	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見し仲間と検討する事が出来る。担当者以外: 全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。				
16	【授業単元】 学生の企画運営による活動⑨				40	【授業単元】 学生の企画運営による活動⑦				
17	【到達目標】				41	【到達目標】				
18	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見が出来る。担当者以外: 全体の流れを確認しながら子どもや保護者と関わる事が出来る。				42	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見が出来る。担当者以外: 全体の流れを確認しながら子供や保護者と関わる事が出来る。				
19	【授業単元】 学生の企画運営による活動 ⑩				43	【授業単元】 学生の企画運営による活動⑧お別れ会				
20	【到達目標】				44	【到達目標】				
21	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見が出来る。担当者以外: 全体の流れを確認しながら子どもや保護者と関わる事が出来る。				45	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見し仲間と検討する事が出来る。担当者以外: 全体の流れを理解し積極的に子供や保護者と関わる事が出来る。後期の評価をする。改善出来るように具体的に振り返る。				
22	【授業単元】 学生の企画運営による活動⑪				【成績評価の方法と基準】					
23	【到達目標】				こども教室のルーブリックを用いて評価する。					
24	主活動担当者: 自らが考えた活動を実践し問題発見が出来る。担当者以外: 全体の流れを確認しながら子どもや保護者と関わる事が出来る。				【小テストについて】 1回目～5回目の小テストは2点満点、6回目～15回目の小テストを3点満点とする。 1～15回分の合計点40点分小テストの点数とする。 【定期試験について】 毎回4点満点の配点で試験(活動の振り返り)を記述形式で実施し、1～15回分の合計点60点分を定期試験の点数とする。 【評価について】 小テスト・定期試験の合計点からA-Fの6段階で評価する。					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
実習にふさわしい身だしなみとチームの一員である事を認識し、責任感を持って授業に参加する。提出物は期限を守る事。										

授 業 概 要

科目名	こども教室Ⅱ	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	河野亮子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
『にこにこプレキッズ』									
【授業を通じての到達目標】									
子ども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してよりよい保育の実践力を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭免許、保育士資格を有する教員が、幼稚園、保育所での30年余りの乳幼児保育・教育の現場経験を活かし、保育の知識・技術、また、保育者に求められる連携の必要性、企画・運営力、実践力を養うための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ジャージ・学校指定ポロシャツ・学校指定エプロン お道具袋・その他活動に必要な道具・PCかタブレット端末					活動担当時の指導案作成や製作物の準備				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・後期子ども教室の準備 ・にこにこプレキッズの活動内容、流れ				25	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
2					26				
3	【到達目標】 ・「にこにこプレキッズ」のルールや流れを理解することが出来る。 ・グループに分かれ活動内容を考え、計画を立てることが出来る。 ・教室内の環境構成を考え、整えることが出来る。				27	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題解決が出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
4	【授業単元】 ・講師の企画・運営による活動				28	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
5					29				
6	【到達目標】 ・講師が企画した活動に参加し、適切な方法で積極的に子どもと関わることが出来る。 ・教室の滑動の流れに沿って、臨機応変に動くことが出来る。				30	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題解決が出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
7	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				31	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
8					32				
9	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				33	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題解決が出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
10	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				34	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
11					35				
12	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				36	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
13	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				37	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
14					38				
15	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				39	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
16	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				40	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
17					41				
18	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				42	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
19	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				43	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動 ・後期活動の振り返り			
20					44				
21	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				45	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。 ・後期活動を振り返り自己評価が出来る。			
22	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				【成績評価の方法と基準】 こども教室のルーブリックを用いて評価する。 【小テストについて】 1回目～5回目の小テストは2点満点、6回目～15回目の小テストを3点満点とする。 1～15回分の合計点40点分小テストの点数とする。 【定期試験について】 毎回4点満点の配点で試験(活動の振り返り)を記述形式で実施し、1～15回分の合計点60点分を定期試験の点数とする。 【評価について】 小テスト・定期試験の合計点からA-Fの6段階で評価する。				
23									
24	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習にふさわしい身だしなみとチームの一員である事を認識し、責任感を持って授業に参加する。提出物は期限を守る事。									

授 業 概 要

科目名	ノビルバA	必修 選択の別	選択	開講 区分	通年(前・後)	担当 教員	糸日谷 章子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
音楽的な基礎知識を理解し、自身の歌唱力と表現力を豊かにする。 子どもの発達の能力を育成するための音楽的遊びを考えることができる。 音楽を用いて自分自身が楽しむことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
有名ミュージシャンとの共演や映画音楽のレコーディング、クラシック・リサイタルや子供のためにコンサートなど地域社会と結びついた演奏会の演出・出演など幅広く活動している。声楽・ピアノ・音楽表現の専門知識を持った教員が指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。授業内で関連資料を配布する。					授業で学んだ曲を反復練習をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 音符の読み方 音楽Ⅰの課題練習				9	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 プロの演奏者の演奏を聴く			
	【到達目標】 ノビルバ(音楽)についての説明を受け理解する。 音符の読み方を理解する。 音楽Ⅰピアノ課題を弾けるようにする。					【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する プロの演奏を聴き、これからの保育に必要な知識を持つ。			
2	【授業単元】 リズムの理解 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱				10	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 選択課題			
	【到達目標】 リズムについて説明を受け理解する。 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。					【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する 選択課題の説明を受け理解する。			
3	【授業単元】 リズム遊び 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱				11	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 選択課題			
	【到達目標】 リズム遊びの説明を受け理解する。 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。					【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする 選択課題の内容を決めて発表できるように取り組む。。			
4	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 合奏または、合唱の課題				12	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 選択課題			
	【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。 合奏または合唱の課題を理解する。					【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする 選択課題の内容を決めて発表できるように取り組む。。			
5	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 合奏または、合唱の課題				13	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 選択課題			
	【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。 合奏または合唱の課題を理解する。					【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする 選択課題の内容を決めて発表できるように取り組む。。			
6	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 合奏または、合唱の課題				14	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 選択課題			
	【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。 合奏または合唱の課題を理解して、発表する。					【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする 選択課題の内容を決めて発表できるように取り組む。。			
7	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 音楽描写課題				15	【授業単元】 定期試験 選択課題の発表			
	【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。 演奏を聴いて絵を描いて理解する。					【到達目標】 選択課題の発表として、止まらず正しいリズム・音程でたのしく演奏をする。			
8	【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 音楽描写課題				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 音楽Ⅰの課題弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。 演奏を聴いて音の流れとともに自由に絵の具などを用いて描くことを理解する。				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
多くの音楽作品を知り、音楽的な表現力豊かにできるようにする。そして、いかに子どもたちが音や音楽に興味を持ち参加して楽しむことができるかを考えることが望ましい。									

授 業 概 要

科目名	ノビルバB-I	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	expg family		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
ダンスの基礎を身につけて、基盤となるアイソレーション・リズムトレーニング・基本的なステップをマスターする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ、振り付け									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ジャージ・指導計画書									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション ランニングマン、ボックス 【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				9	【授業単元】 【到達目標】			
2	【授業単元】 ラコステ クラブステップ 【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				10	【授業単元】 【到達目標】			
3	【授業単元】 モネストリー ヒールアンドトゥ 【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				11	【授業単元】 【到達目標】			
4	【授業単元】 プレイクダウングルーヴ ゲッチェイグライト 【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				12	【授業単元】 【到達目標】			
5	【授業単元】 ブルックリン ロジャーラビット 【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				13	【授業単元】 【到達目標】			
6	【授業単元】 課題の振付 【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				14	【授業単元】 【到達目標】			
7	【授業単元】 課題の振付 【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				15	【授業単元】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験 【到達目標】				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育者として子ども達に表現をすることの楽しさを伝えるうえで、まずは皆さんがその魅力を知ってください。 ダンス経験の有無は問いません。									

授 業 概 要

科目名	ノビルバB-Ⅱ	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	expg family		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
ダンスの基礎を身につけて、基盤となるアイソレーション・リズムトレーニング・基本的なステップをマスターする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ、振り付け									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ジャージ・指導計画書									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション ランニングマン、ボックス				9	【授業単元】			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 リーボックス チャールストン				10	【授業単元】			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 シェイク ロックザポート				11	【授業単元】			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 シャムロック ロボポップ				12	【授業単元】			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 フットボール トウルーブ				13	【授業単元】			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】			
6	【授業単元】 課題の振付				14	【授業単元】			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 課題の振付				15	【授業単元】			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育者として子ども達に表現をすることの楽しさを伝えるうえで、まずは皆さんがその魅力を知ってください。 ダンス経験の有無は問いません。									

授 業 概 要

科目名	ノビルバB-Ⅲ	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	expg family		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 ダンスの基礎を身につけて、基盤となるアイソレーション・リズムトレーニング・基本的なステップをマスターする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ、振り付け									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ジャージ・指導計画書									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 キッズに向けたレッスンの基礎を学ぶ 【到達目標】 子どもが興味や関心を持つ声掛けやあそびを理解する。				9	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン1曲目(構成) 【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
2	【授業単元】 キッズに向けたレッスンの基礎を学ぶ 【到達目標】 子どもが興味や関心を持つ声掛けやあそびを理解する。				10	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン2曲目 【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
3	【授業単元】 キッズに向けたレッスンの基礎を学ぶ 【到達目標】 子どもが興味や関心を持つ声掛けやあそびを理解する。				11	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン2曲目 【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
4	【授業単元】 あそび、曲決め 【到達目標】 子どもが興味や関心を持つ声掛けやあそびを理解する。				12	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン2曲目 【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
5	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン1曲目 【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。				13	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン2曲目 【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
6	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン1曲目 【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。				14	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン2曲目(構成) 【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
7	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン1曲目 【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。				15	【授業単元】 ダンス発表会 【到達目標】			
8	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン1曲目 【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 前期・ノビルバB(ダンス)、後期・ノビルバB(ダンス)を履修している学生が履修可能です。									

授業概要

科目名	キャリア教育プログラムⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	水上 咲紀		
学科 コース	こども保育科 屋間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会人基礎力を身に付け、社会に対し期待を持てるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園で担任業務に従事し、保育に携わっていた教員が現場の実践を交えながら保育者に必要な力を養うための授業を行う。 また、セルフワークやグループワーク・リフレクションを行いながら社会人として必要とされる社会人基礎力を養う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
PCやタブレット 実習や就職活動に必要な書類(随時指示します)					業界の研究(HP・就職フェアなど)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 キャリア教育プログラムⅡの理解 【到達目標】 ・授業の概要を理解する ・1年間のスケジュールを理解し、実習・就職活動・内定・卒業に繋げる				9	【授業単元】 中テスト 【到達目標】			
2	【授業単元】 実習の準備をしよう 【到達目標】 ・ウェブ実習日誌の記入の仕方を学び、使用できるようになる				10	【授業単元】 保育士登録をする 【到達目標】 ・保育士資格の申請、資格証が届くまでの流れを理解する			
3	【授業単元】 実習の準備をしよう② 【到達目標】 ・実習に必要な書類を整える ・自分の強みを見つけることができる				11	【授業単元】 現場で役に立つ知識をつける② 【到達目標】 現場で役立つ知識・技術を身に付けることができる。			
4	【授業単元】 就職準備について 【到達目標】 ・履歴書の書き方を学び、自己PRが書けるようになる				12	【授業単元】 将来について考える 【到達目標】 ・2年間を振り返り、未来へ期待を持つ			
5	【授業単元】 現場で役に立つ知識をつける① 【到達目標】 現場で役立つ知識・技術を身に付けることができる。				13	【授業単元】 現場で役に立つ知識をつける③ 【到達目標】 現場で役立つ知識・技術を身に付けることができる。			
6	【授業単元】 実習の準備をする 【到達目標】 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの違いを理解する。 どのような保育士になりたいか。どのような働き方をしたいか考える。				14	【授業単元】 現場で役に立つ知識をつける④ 【到達目標】 現場で役立つ知識・技術を身に付けることができる。			
7	【授業単元】 実習の振り返りと準備をする 【到達目標】 実習で体験したことを自分自身の力にすることができる。 実習であった出来事にきちんと向き合い、考えることができる。 次の実習に向けて意欲を高めることができる。				15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】			
8	【授業単元】 就職活動について 【到達目標】 自己理解を深めることができる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	子ども家庭福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	山本 忠篤		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
現代社会における子ども家庭福祉の意義と、歴史的変遷について理解できる。また、子どもの人権擁護に関しても理解することができる。家庭福祉の制度や実施体系・現状、課題・動向や展望について理解することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当講師は長年自治体の福祉職として、学童保育、児童館、子育て支援、知的障がい者生活支援に携わり、さらに子育て支援事業の経験も有している。リカレント教育で進学した大学院でも子ども福祉領域を研究した。そのような経験を生かし、子ども家庭福祉とは何か、またその必要性を感じ取りながら学びとる。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
〈教科書〉新基本保育シリーズ③「子ども家庭福祉」中央法規					予習、復習を行うこと。虐待に関しては、自分の考えをしっかりとっておくこと。また、地域における子ども関係の施設、制度に興味をもつようにすること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 子ども家庭福祉とは				9	【授業単元】 母子保健と子どもの健全育成			
	【到達目標】 授業の概要を理解し説明することができる					【到達目標】 母子保健や子どもの健全育成について説明することができる			
2	【授業単元】 子ども家庭福祉の理念と概念				10	【授業単元】 多様な保育ニーズへの対応			
	【到達目標】 子ども家庭福祉の基本について現在の社会的問題や現状を理解できるとともに、児童の最善の利益について説明できる					【到達目標】 保育施設や保育サービスについて理解できるとともに、障害児支援について説明することができる			
3	【授業単元】 子ども家庭福祉の歴史の変遷				11	【授業単元】 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止			
	【到達目標】 子ども家庭福祉の成り立ちについて説明することができる					【到達目標】 オレンジリボン運動の成り立ちや、子ども虐待防止、ドメスティックバイオレンスについて説明することができる			
4	【授業単元】 現代社会と子ども家庭福祉				12	【授業単元】 障害のある子どもへの対応			
	【到達目標】 現代社会における子ども家庭福祉の概略を説明できるとともに、社協の支援や貧困問題に対して説明することができる					【到達目標】 障害児の福祉や支援を知るとともに、放課後デイについて説明することができる			
5	【授業単元】 子どもの人権擁護の歴史の変遷				13	【授業単元】 少年非行と次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進			
	【到達目標】 子どもの人権擁護についての歴史的な流れを説明できるとともに、人権擁護の課題等を説明することができる					【到達目標】 少年非行の施設と支援を説明することができる。子ども子育て支援制度を知るとともに、幼保連携の考え方を説明することができる			
6	【授業単元】 子ども家庭福祉の制度と実施体制				14	【授業単元】 子ども家庭福祉の動向と展望			
	【到達目標】 子ども家庭福祉の法制度や行政の実施機関について説明することができる					【到達目標】 地域の連携や協働について説明できるとともに、海外の動向についても説明することができる			
7	【授業単元】 子ども家庭福祉の施設と専門職				15	【授業単元】 科目まとめ(評価)			
	【到達目標】 児童福祉施設の種類やそこで働く専門職、措置から契約のことについて説明することができる					【到達目標】 子ども家庭福祉の広い知識が理解し説明することができる			
8	【授業単元】 少子化と地域子育て支援 中間評価実施				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 少子高齢化についてさまざまな取り組みや子育て支援について説明することができる 中間評価によって、今までの学びを説明することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育の領域だけではなく、子どもの福祉全体を考える姿勢が大切である。									

授 業 概 要

科目名	社会福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	新井 忍		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1, 社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子どもの家庭支援を通して、社会福祉とはなにかと説明できるようになる。 2, 社会福祉の制度や実施体験について調べ説明できるようになる。3, 社会福祉の相談援助について理解し、保護者支援に導けるようになる。4, 社会福祉における利用者保護に係る仕組みについて理解し、説明できるようになる。社会福祉の動向と課題について調べ課題を克服するためにどのような方法があるか推論できるようになる。									
【学習内容】									
長期にわたる専門学校の講師をし、現在も現役で保育園、幼稚園の指導に当たる教員が、資料を提示しながら、理解を深めていく授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新基本シリーズ4 社会福祉					自分たちの町にある、福祉サービスに気づいてみましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業ガイダンス	学習をするにあたり、何を学ぶのかを明確にする。			9	【授業単元】 相談援助の理論、相談援助の意義と機能	相談援助の理論を理解し、保育所と児童福祉施設の相談の違いについて説明できる。 相談と相談援助の違いを理解し説明できるようになる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
2	社会福祉の理念と歴史の変遷	社会福祉がなぜ必要になったか、日本歴史と関係付ける			10	相談援助の対象と過程、相談援助の方法と技術	相談援助には順序があることを理解し、実践できるようになる。 相談援助の方法を理解し、技術の発揮の仕方を説明できるようになる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
3	【授業単元】 社会福祉の制度と法体制	社会福祉を理解するにあたり、様々な法律が社会の変革と共に整備されていること理解し、事例合わせて選択できるようになる。			11	【授業単元】 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ	福祉サービスにおける、利用者養護における取組を理解し、保育士としてどのような取り組みをすればよいのか、説明できる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
4	【授業単元】 社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設等①	福祉行政を理解し、各種相談所の役割を説明できるようになる。			12	【授業単元】 少子高齢化社会における子育て支援	少子高齢化が日本にどのような影響をもたらすかを、理解しその解決方法としての福祉を考え、述べることができる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
5	【授業単元】 社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設等②	福祉サービスを理解する。社会福祉施設の名称とその役割を説明できるようになる。			13	【授業単元】 共生社会の実現と障害者施策	障害者の生きづらさを理解し、障害者の福祉について説明できる。 インクルージョンの理念を理解しインクルーシブな保育の実践について意見を述べられるようになる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
6	【授業単元】 社会福祉の専門職	社会福祉の専門職について、各施設での役割と、施設と家庭の連携について説明できるようになる。			14	【授業単元】 在宅福祉、地域福祉の推進	地域福祉における、保育士と、保育所の機能や役割について説明できる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
7	【授業単元】 社会保障および関連制度の概要	社会保障制度の概要とその役割について説明できるようになる。			15	【授業単元】 定期試験	定期試験を実施し、実施後解説を行う。		
	【到達目標】					【到達目標】			
8	【授業単元】 中テスト 前期授業の振り返りと、回答の解説	テストの評価をみて、自分が理解できなかったことを確認し、復習する			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育士になるうえで、重要な福祉に対する考えを、理念や制度から学習し、自分の考えを整理できるようにしましょう。用語が難しいので覚えましょう。									

授 業 概 要

科目名	子ども家庭支援論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	八木ゆかり		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1.子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する 2.保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する 3.子育て家庭に対する支援の体制について理解する 4.子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害児者施設の福祉指導員、保育園保育士、保育園園長職、保育アドバイザー等「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応、実践的な支援・チーム力等)の知識・技術をグループワークを中心に習得できる授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
よくわかる子ども家庭支援論 橋本真紀/鶴宏史[編著]ミネルヴァ書房					授業内で学んだことを実践又はPC及び書籍などを利用し自分なりに考え、課題を1つ以上見つける(問題意識を身につける)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 家庭支援の対象と役割				9	【授業単元】 地域の子育て家庭への支援			
	【到達目標】 家庭支援が求められる背景を理解し家庭支援の必要性を学ぶ					【到達目標】 保育所が担う地域の子育て家庭への支援、地域の親子の交流支援、その他児童福祉施設における地域の子育て家庭への支援形態及び方法を知る			
2	【授業単元】 子どもや子育て家庭の育ちと社会の変容				10	【授業単元】 保育所等を利用していない子どもを対象とした支援			
	【到達目標】 「家族」「家庭」「子育て家庭」とは何か、親になるプロセス・子どもの発達に応じて生じる子育ての葛藤や課題を学ぶ					【到達目標】 保育所等を利用していない子どもの実態を知り、地域子育て支援における子どもの育ちへの支援について事例を通して学ぶ			
3	【授業単元】 保育士が担う子ども家庭支援の基本姿勢と倫理				11	【授業単元】 社会的養護を必要とする家庭への支援			
	【到達目標】 保育指針・教育要領・保育所以外の児童福祉施設にみる家庭支援を知り、子ども家庭支援における保育士の倫理を学ぶ					【到達目標】 社会的養護を必要とする家庭の特性を知り、「施設養護」「家庭養護」「社会養護」について学ぶ			
4	【授業単元】 保育所を利用する全ての子育て家庭を対象とした支援Ⅰ				12	【授業単元】 子ども家庭支援に関する法・制度			
	【到達目標】 保育士が行う子育て支援(保育相談支援)の構造を知り、事例を通して保育相談支援の技術を学ぶ					【到達目標】 子ども家庭福祉を支える法律を学ぶ			
5	【授業単元】 保育所を利用する全ての子育て家庭を対象とした支援Ⅱ				13	【授業単元】 子ども家庭支援における社会資源との連携Ⅰ			
	【到達目標】 日常、行事、環境を活用した保育相談支援の実践を学ぶ					【到達目標】 子ども家庭支援に係る人々、機関や活動を知り、活動団体・専門機関との連携・協力とその留意点を学ぶ			
6	【授業単元】 保育所を利用する特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援Ⅰ				14	【授業単元】 子ども家庭支援における社会資源との連携Ⅱ			
	【到達目標】 特別な配慮を必要とする家庭の支援方法を学ぶ					【到達目標】 専門機関が行っている内容をグループで調べ発表する			
7	【授業単元】 保育所を利用する特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援Ⅱ				15	【授業単元】 定期試験 前期授業の振り返り及び試験解答の振り返り			
	【到達目標】 虐待家庭、ひとり親家庭、外国にルーツをもつ子育て家庭への支援の実態を知り、支援の方法を学ぶ					【到達目標】 試験後、試験内容についての振り返りをする			
8	【授業単元】 中テスト 1～7回目までの授業の振り返り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 中テストの振り返り 1～7回目までの授業の振り返り								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業形態は講義であるが、グループワークを中心に行う 個々に問題意識をもって受け身ではなく能動的かつ積極的に参加してほしい									

授 業 概 要

科目名	子どもの家庭支援の心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。③子育て家庭をめぐる現代社会状況と課題について理解する。④子どもの精神保健とその課題について理解する。以上の4点を目標とする。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士としてさまざまな年代の人達の、さまざまな相談に応じ、現在教育分野・福祉分野・私設カウンセリングルームにて臨床活動を行なっている講師が、子どもと関わるために、保育士として必要とされる人の発達課題や子どもを取り巻く社会的状況を理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用図書:子ども家庭支援の心理学(中央法規) 必要に応じて関連資料をTeamsにアップする。					実習での関わりの中や自らの生活の中で関わる人の中で、授業内容と結びつけ考えながら生活をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・対人援助職としての保育者				9	【授業単元】 子育てを取り巻く社会的状況			
	【到達目標】 ・この科目の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・対人援助職としての心構えについて説明することができる。					【到達目標】 ・少子化・婚姻率、晩婚化、出産率といった社会状況について説明できる。			
2	【授業単元】 ・乳児・幼児期の発達				10	【授業単元】 ライフコースと仕事・子育て			
	【到達目標】 ・乳児期の発達について説明することができる。 ・幼児期の発達について説明することができる。					【到達目標】 ・自分自身のライフコースを作り、説明できる。 ・ライフコースの視点を活かした親の理解や支援について説明できる。			
3	【授業単元】 学童期・青年期・成人期・中年期・高齢期の発達				11	【授業単元】 特別な配慮を要する家庭			
	【到達目標】 ・学童期・青年期・成人期・中年期・高齢期のそれぞれの発達について説明できる。					【到達目標】 ・さまざまな特別な配慮を要する家庭について説明できる。 ・適切な養育と家庭の機能不全について説明できる。 ・逆境的小児体験の影響と保育者のセルフケアについて説明できる。			
4	【授業単元】 ゲストスピーカーとその家族との対話 (肢体不自由の障害を持つ方が生活の中でどういった困難さがあるかを知る)				12	【授業単元】 多様な家庭とその理解			
	【到達目標】 ・当事者やその家族から話を聞き、これまでの困難さ、そして今の困難さを知ることができる。 ・当事者からやその家族からの話を聞き、保育者として果たす役割を説明できる。					【到達目標】 ・多様化する家族のありようを説明できる。 ・多様な家族や子どもに向けた支援について説明できる。			
5	【授業単元】 コラージュ療法				13	【授業単元】 子どもの生活・生育環境とその影響			
	【到達目標】 ・ものを作ることの心理的意味を説明できる。					【到達目標】 ・子どもの生活環境について説明できる。 ・特殊な環境で生活する子どもの身体的・心理的な影響について説明できる。			
6	【授業単元】 家族とは？家族・親子関係とは？				14	【授業単元】 子どもと家族の支援法の実際			
	【到達目標】 ・家族・家庭の現状と変化について説明できる。 ・家族のライフサイクル・家族システムについて説明できる。 ・ジェノグラム・多世代連鎖について説明できる。					【到達目標】 ・保育者が身につけるべきカウンセリング知識・技法を説明することができる。			
7	【授業単元】 子育ての経験と親としての育ち				15	【授業単元】 定期テスト これまでの振り返り			
	【到達目標】 ・子どもを持つ親の意識の変化や心の変化について説明できる。 ・子どもと親の心理的变化と社会状況について説明できる。					【到達目標】 これまでの振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			
8	【授業単元】 中テスト こんな時どうする？				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・中テストでこれまでの内容を確認し、説明できる。 ・さまざまな事例に対して、さまざまな対処法を説明できる。								

授 業 概 要

科目名	子どもの理解と援助	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井 巴菜		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・子ども1人1人の心身の発達を理解する上での、基本的な考え方を理解する。・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園で担任を3年務め、その後は幼児体育を専門に指導経験を積んだ教員が実務経験を元に授業を担当する。事例研究から子どもの育ちの捉え方について多角的な視点を身に付け、演習を通して、発達に応じた保育者の関わりや活動内容を考え、展開していくことが出来るようになる。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「子ども理解と援助」 ミネルヴァ書房					日常生活の中で目に留まった子どもの姿から子どもの行動の意味を考えるなど、子ども理解の視野を広げることに努める。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 個と集団の育ち			
	【到達目標】 ・授業の概要について知る。・現時点での自身の保育観を見つめ直す。					【到達目標】 ・個と集団の育ちのための保育者の援助について理解する			
2	【授業単元】 保育における「子ども理解」とは				10	【授業単元】 子どもの特別なニーズの理解と援助			
	【到達目標】 ・子どもを見る「目線」と「まなざし」の違いを説明出来る。					【到達目標】 ・インクルーシブ保育について説明出来る ・他者の意見を受け入れながら、子どものニーズに合わせた関わりを考える			
3	【授業単元】 子ども理解と原理				11	【授業単元】 保護者理解と援助			
	【到達目標】 ・発達に関する理論を理解する ・対話を通して、子どもへの関わりについて自身の考えを持つ					【到達目標】 ・保護者の心情を自分なりに理解する ・信頼関係を育むための関わり方のポイントを知る			
4	【授業単元】 子ども理解における発達の観点				12	【授業単元】 模擬保育			
	【到達目標】 ・子ども理解における発達観について理解する					【到達目標】 ・子ども理解に基づいた指導案作成～保育までが出来るようになる			
5	【授業単元】 子ども理解と保育者の姿勢				13	【授業単元】 模擬保育			
	【到達目標】 ・保育者に求められる5つの姿勢について説明出来るようになる ・様々な場面に合わせたカウンセリングマインドに基づいた関わりを考えることが出来る。					【到達目標】 ・子ども理解に基づいた指導案作成～保育までが出来るようになる ・自身の保育を振り返り、記録に残すことが出来る			
6	【授業単元】 保育における観察と記録				14	【授業単元】 記録に基づく保育カンファレンス			
	【到達目標】 ・子どもを見る際のポイントについて理解する					【到達目標】 ・模擬保育の記録を元に対話をし、保育に対する視野を広げる			
7	【授業単元】 保育記録について				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 ・保育記録の必要性を理解し、自身の子ども理解を反映させた内容を書くことが出来る					【到達目標】 ・1～14回で学んだ内容に関する設問に適切に答えることが出来る ・模擬保育の保育記録を発表することが出来る			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験+実技(授業内で取り組んだものを発表)で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・1～7で学んだ内容に関する設問に対して、適切に答えることが出来る ・自身の子ども理解の視点について、保育記録を元に発表することが出来る								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
子ども理解に対してまずは自分の意見・考えを持ち、自身の中で肯定すること。その上で他者の意見も受け入れながら、建設的な対話が展開できるよう、主体的な姿勢を持って授業に臨むこと。									

授 業 概 要

科目名	子どもの保健	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	土井和美	
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
小児病棟で小児の看護を12年経験し、訪問看護でも小児の在宅療養を支援し、看護学校では「小児看護」を担当してきた教員が授業を行う。その実務経験を活かし、子どもの成長発達の観察、健康上の問題および解決法・支援法について具体的な事例をあげながら授業を行う。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
子どもの保健テキスト 診断と治療社					実習(5～7月)時、子どもの発達段階の特徴や言動を観察する子どもに関するニュースを集める			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 子どもの健康と保健 ①保健活動の意義と目的 【到達目標】 子どもの健康に保健活動がどのように役立つべきかを述べるができる。 子どもの保健活動で扱う範囲を述べるができる。 子どもの保健の知識を子どもの保育でどのように役立てるかを述べるができる。				9	【授業単元】 第5章 子どもの病気 ④新生児の病気、新生児期にもわかる先天性の病気の特徴と対応 【到達目標】 新生児特有の病気について述べるができる。 早産時や低出生体重児の定義を述べるができる。 新生児期にわかる主な先天性の病気を3つ挙げることができる。		
2	【授業単元】 第1章 子どもの健康と保健 ②子どもの出生と母子保健の意義 ③現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 【到達目標】 胎児の発育と出生に影響する因子を3つ挙げることができる。 新生児の特徴を述べるができる。 母子保健が子どもの健康を守るために果たしている役割をよく表した結果を2つ述べるができる。				10	【授業単元】 第5章 子どもの病気 ⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応 【到達目標】 アレルギー疾患の特徴を述べるができる。 集団生活におけるアレルギー時の対応について述べるができる。		
3	【授業単元】 第2章 子どもの発育・発達と保健 ①子どもの身体発育と運動機能の発達 【到達目標】 子どもの正しい身体計測の方法を述べるができる。 事例を使って子どもの身体発育を評価できる。 子どもの運動機能の発達を月例に応じて述べるができる。				11	【授業単元】 第5章 子どもの病気 ⑥慢性疾患の特徴と適切な対応 【到達目標】 子どもの主な慢性疾患を3つ挙げることができる。 慢性疾患を抱えている子どもの支援について考えるを述べるができる。		
4	【授業単元】 第2章 子どもの発育・発達と保健 ②生理機能の発達と生活習慣 【到達目標】 子どもの生理機能の特徴を述べるができる。 生理機能の発達に応じた生活習慣の援助について考えを述べるができる。				12	【授業単元】 第3章 地域における保健活動と子どもの虐待防止 【到達目標】 地域の子どもの健康支援活動がどのように行われているか調べることができる。 子どもの虐待の現状を調べることができる。 虐待防止について考えることができる。		
5	【授業単元】 第4章 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 【到達目標】 子どもの健康状態の把握方法を述べるができる。 子供の体調不良時の主な症状と対応について述べるができる。				13	【授業単元】 第6章 保護者との情報共有と家族支援 【到達目標】 保護者との情報共有が、具体的にどのように行われているか調べることができる。 子どもを育てるための家族への支援や子育て支援がどのように行われているか調べることができる。 家族と子どもの支援について考えを述べるができる。		
6	【授業単元】 第5章 子どもの病気 ①子どもの免疫の発達と感染症の特徴 【到達目標】 子どもの免疫の特徴について説明することができる。 子どもがかかりやすい感染症を5つ挙げることができる。				14	【授業単元】 第7章 子どもの健康診断と関係機関との連携 【到達目標】 子どもの健康診断の時期および内容を述べることができる。 また、子どもの健康診断の意義を述べることができる。		
7	【授業単元】 第5章 子どもの病気 ②感染症の予防および適切な対応 ③救急疾患の特徴と適切な対応1 【到達目標】 感染症の感染経路を3つ挙げることができる。 子どもの救急疾患について述べるができる。 予防接種の種類と特徴を述べるができる。				15	【授業単元】 第1回～第14回振り返り 定期試験 【到達目標】 第1回～第14回で学んだ内容に関する設問に正しくまたは適切に答えることができる。		
8	【授業単元】 第5章 子どもの病気 ③救急疾患の特徴と適切な対応2 第1回～第8回 振り返り 中テスト 【到達目標】 子どもの救急疾患の対応と、重症度を見分ける方法を述べるができる。 第1回～第8回で学んだ内容を正しく選択することができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】								
事前にテキストを読んで授業に臨みましょう こどもに関するニュースに関心を持ちましょう								

授 業 概 要

科目名	子どもの食と栄養	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大場 泉		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識が理解できる。子どもの発達、発育とそれぞれの時期に適した食事について理解できる 後期の食育などを実践するためにも栄養素の基礎知識を理解し、応用に展開することができる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
特別養護老人ホーム、保育園、デイサービスなどの社会福祉法人の複合施設で管理栄養士として、栄養管理を行った経験を有する 基本的な栄養学の知識を理解した上で、現場での様々な出来事やイベントなどに対応できるように講義と参加型の演習を通して理解を深める									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
子どもの食と栄養 (保育現場で生かせる食の基本) 羊土社 太田ゆりこ 堤ちはる著					授業で学んだことを、実践的にするために、日々の食生活の中で、栄養に関する ことを気につけ、正しい知識を身につける				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 子どもにとって健康とは何か理解する 【到達目標】 「健康」という言葉が持つ意味について理解し、子どもにとっての健康とは、どういう状態のことをいうのかをわかりやすく説明することができる				9	【授業単元】 栄養素の働き② ビタミンについて 脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンについて 【到達目標】 それぞれのビタミンの働きについて理解でき、子どもの食事のバランスを整えることができる それぞれのビタミンが不足することのない献立を考えることができる			
2	【授業単元】 日本人の健康問題について 日本の食の安全性について 【到達目標】 日本人の健康問題について、現在の死因などの公衆衛生統計や国民栄養調査の結果から理解をし、自分の問題としてとらえ、問題の解決策を考えることができる 食品添加物などについて正しく理解し、適切な判断ができ、家族からの質問などについても答え ることができる				10	【授業単元】 栄養素の働き③ ミネラルについて 食事摂取基準について 【到達目標】 ミネラルのカルシウムや鉄の働きを理解し、不足しないためには、どのような食品を摂取すればよいかを説明することができる 食事摂取基準について理解し、子どもの必要な栄養量について理解し、子どもの食事に過不足 がないか判断することができる			
3	【授業単元】 子どもを取り巻く食生活の現状と課題について 【到達目標】 こどもの食生活の問題点を理解した上で、問題点を解決することができる 中食、外食についての違いについて把握し、中食、外食の問題点を述べ、改善提案をすること ができる 朝食の重要性について、わかりやすく説明することができる				11	【授業単元】 6つの基礎食品 食事バランスガイドについて 【到達目標】 6つの基礎食品や食事バランスガイドを用いて、適切な量と内容の食事について理解し、食育 に生かすことができる			
4	【授業単元】 こどもの栄養状態を判定する 【到達目標】 こどもの栄養状態を判定するスケールについて理解し、運用できる 判定スケールを用いて、こどもの栄養状態を判定できる 栄養状態不良者に対して、栄養改善へのアプローチができる				12	【授業単元】 食品表示の見かたについて 賞味期限と消費期限について 特別な食品について 【到達目標】 食品表示の味方について理解し、添加物やアレルゲンについて正しく判断し、安全な食事提 供を行うことができる 特別用途食品、特定保健用食品について理解し、正しく使うことができる			
5	【授業単元】 こどもの消化機能の発達について理解する。 こどもと大人の消化機能の違いについて把握する。 【到達目標】 こどもと大人の消化機能の発達の違いを理解し、その違いにより、こどもへの食に対しての配慮 への対応ができる 消化機能の発達に応じて、適切な食事とはどのような食事を理解し、食事を提供すること ができる				13	【授業単元】 食中毒予防のための衛生管理について 献立の立て方について 【到達目標】 食中毒の基礎知識について理解し、安全に食品を取り扱うことができる 献立はどのようにして作成されているのかを理解し、簡単な献立を作成することができる			
6	【授業単元】 食べ物のゆくえ 消化と吸収について 人は何のために食事をし、栄養素はどのような働きをしているのか 【到達目標】 消化・吸収について理解できる 食べ物から入って排泄されるまでの機序を理解できたうえで、子どもに食に対して対応できる				14	【授業単元】 妊娠のメカニズムと出産について 妊娠時のトラブルについて 妊婦の低栄養について 【到達目標】 妊娠～出産について学び、-1歳からの子どもについて理解ができる -1歳の時の食事の大切さについて理解でき、若い女性や妊婦の栄養についてサポートを行うこ とができる			
7	【授業単元】 人体構成を構成している栄養素について 水分の必要性について 脱水について 【到達目標】 人体を構成している成分について理解でき、人体を健康に維持するためには、どのような栄養 素が必要なのかを判断できる 脱水時に適切に対処できる				15	【授業単元】 期末テストと振り返り等授業のまとめ 【到達目標】 期末テストで、この授業の習熟度をはかるとともに、この授業で学んだことを振り返り、今後の実 践にどのように生かすのかを考える			
8	【授業単元】 栄養素の働き①エネルギー源となる栄養素について (炭水化物、たんぱく質、脂質) それぞれの栄養素の働きについて 【到達目標】 中間テストの実施 3大栄養素である炭水化物、たんぱく質、脂質について働きについて理解でき、栄養状態を良 好に維持するために摂取すべき適切な量を判断できる				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を4 0点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点 満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小 テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
前もって、教科書を読み、栄養素の名前などを予習してから授業に臨むこと。 日常生活の中で、食品に表示されている栄養成分表示などをみて、それぞれの食品には、どのような 栄養素がどれくらい含まれているのかを理解すること									

授業概要

科目名	子どもの食と栄養	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大場 泉		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識が理解できる。子どもの発達、発育とそれぞれの時期に適した食事について理解できる 食育の基本について理解した上で、食育を実践するための企画などを立案できる。特別な配慮が必要な子ども食事について理解できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
特別養護老人ホーム、保育園、デイサービスなどの社会福祉法人の複合施設で管理栄養士として、栄養管理を行った経験を有する基本的な栄養学の知識を理解した上で、現場での様々な出来事やイベントなどに対応できるように講義と参加型の演習を通して理解を深める									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
子どもの食と栄養 (保育現場で生かせる食の基本) 羊土社 太田ゆりこ 堤ちはる著					授業で学んだことを、実践的にするために、日々の食生活の中で、栄養に関することを気をつけ、正しい知識を身につける				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 乳汁栄養について 母乳と人工栄養について 栄養法の違いについて 【到達目標】 母乳栄養について理解し、母乳栄養を継続するための支援を行うことができる 人工栄養の作り方について終末殺菌法、無菌操作法での作り方について理解し、正しく安全に衛生的に調乳を行うことができる				9	【授業単元】 食育を実践するための行事食、郷土料理について 食育のPDCAサイクルについて 【到達目標】 食育を実施するために、行事食や郷土料理について理解し、子どもに行事食について説明することができる 食育が適切に行われているのか、PDCAで判断し、改善することができる			
2	【授業単元】 授乳・離乳の支援ガイドについて 離乳食を開始してもよい条件について 離乳食の流れについて 【到達目標】 「授乳・離乳の支援ガイド」をもとに、離乳の各時期における発達とその時期に適した食事形態などを理解でき適切に離乳食を進めることができる 離乳食で悩みのある方をサポートすることができる				10	【授業単元】 児童福祉施設における食事提供のガイドラインについて理解する 【到達目標】 児童福祉施設における食事提供の進め方が理解できる 児童福祉施設における多職種連携についての認識を深める 事例を通して、児童福祉施設における支援について理解でき、これらのことを通して、児童福祉施設における支援の企画、提案ができる			
3	【授業単元】 口腔機能の発達と離乳食の進め方について ペビーフードの活用について 【到達目標】 口腔機能の発達とともに、発達の状況をアセスメントすることができる 離乳食の流れを理解し、離乳食を適切に進めることができる ペビーフードの規格基準について理解し、適切なペビーフードの使い方について助言することができる				11	【授業単元】 児童福祉施設における保護者支援について 体調不良や疾患のある子どもへの対応について 【到達目標】 児童福祉施設における保護者支援についての企画案を作成することができる 体調不良や疾患のある子どもに対して、体調不良の状態を適切に把握し、対応することができる			
4	【授業単元】 幼児期の栄養について 間食の意義について 【到達目標】 幼児の一日の必要栄養量について理解し、それを食事に置き換えることができる 3・2・1弁当法を用いて、幼児の献立を考えることができる 幼児にとって間食の意義を理解し、適切な間食を提供することができる				12	【授業単元】 特別な配慮が必要な子どもについて 嚥下障害や嚥下調整食について 【到達目標】 障害のある子どもへの食に対するアプローチができる 嚥下障害がある子どもへの食、視覚障害がある子どもへの食、自閉症がある子どもへの食などを理解し実践できる 嚥下調整食を試食し、嚥下調整食の段階を理解し、現場で適切な食事形態を提案できる			
5	【授業単元】 幼児期の食のマナーについて 誤嚥・窒息事故について 【到達目標】 幼児に身に着ける食のマナーについて理解し、日常型食育として行うことができる 幼児に起こりやすい誤嚥・窒息事故について、事例を通して理解し、発生を防ぐことができる				13	【授業単元】 アレルギーについて① 【到達目標】 アレルギーの種類について理解する アナフィラキシーショック時の対応、エビデンなどの使い方についても理解する アレルギーの生活管理表について、読み解き、実際の現場で指示書を見た時に、正確に把握でき、対応できる			
6	【授業単元】 学童期の食や健康の問題点について 学校給食について 【到達目標】 肥満、拒食、貧血など学童期に起こりやすい問題に対して、対応できるようになる 学校給食の栄養量などを理解し、学校給食がない日の栄養について支援を行なうことができる				14	【授業単元】 アレルギーについて② 後期のまとめ 期末テスト対策 【到達目標】 アレルギー用特殊ミルクについて理解し、正しく使うことができる 緊急時の対応について理解し、対応できる アレルギーを生活場面で防ぐためには、気を付けなければならないことを理解し、対応できる			
7	【授業単元】 生涯発達と食生活について 【中間テスト】 【到達目標】 ライフステージ別の栄養について理解する フレイル、サルコペニアなど高齢者の栄養についてや成人の生活習慣病についても理解でき、生涯の流れを理解し、子どもだけでなく、あらゆる世代の方々を支援できる				15	【授業単元】 期末テストと振り返り等授業のまとめ 【到達目標】 期末テストで、この授業の習熟度ををはかるとともに、この授業で学んだことを振り返り、今後の実践にどのように生かすかを考える			
8	【授業単元】 食育について 第4次食育基本推進計画について 【到達目標】 食育基本法について理解し、食育のために必要なアプローチができる 食育を実践できる企画が立案できる フードロスなどの問題を食育に取り入れることができる				【成績評価の方法と基準】				
					講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
					<ul style="list-style-type: none"> ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育所における食事提供のガイドライン 保育所におけるアレルギー対応のガイドライン 授乳・離乳の支援ガイド 児童福祉施設における食事提供ガイド などは全文を厚生労働省HPよりダウンロードし、一読しておくこと									

授 業 概 要

科目名	保育内容の理解と方法(身体)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	鱸居伸吾、長田 太陽		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
子どもの発達、幼児期の運動機能を学び理解した上で、保育の状況に応じて運動遊びやリズム遊び、ごっこ遊び等の環境設定や自分自身がそれを表現できるようにになれる。子どもの前に立った時に自信を持って、自分を表現したり言葉や思いを伝えられるようになる。またねらいや見通しを持って運動遊びの指導案を組み立てることができる。そして、保育現場における子どもの身心の発育発達に貢献できる指導者の育成をめざす									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保育現場において運動指導の経験のある教員と保育士として乳児から幼児までの保育経験を積み、子どもの運動指導を経験している教員が運動遊びや手遊びなど保育の現場で使えるようなものを伝え、学生の方にも実践してもらう。また、状況に合わせて声の掛け方や関わり方など自分が経験した事をグループワークや実技などを通して伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育所保育指針・自作プリント					運動遊びや生活していく中でできる体験を授業の中でインプットし、実習や他の授業でそれを実践や伝えることのできるアウトプットすることが必要。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 自己紹介	【到達目標】 話す 聞いてもらう 聞いてもらうには？を考える 現場で使える遊びやつかみ			9	【授業単元】 子どもの生活と遊びにおける他者(保育士等や他の子ども)との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識及び技術の習得。	【到達目標】 遊びを通しての子どもの成長が理解でき、説明ができる。 保育を通して、子どもの好奇心を高められるような遊びを一つ紹介できる。		
2	【授業単元】 保育のなかの体育 体育って？	【到達目標】 乳幼児からはじまる体育 体育って？ 何をしようとするの？どうなっていきたいの？			10	【授業単元】 子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要な知識及び技術の習得。	【到達目標】 運動遊びの適切な年齢や状況や環境によって臨機応変に遊びを変化させたり、ねらいを持って環境構成を考えることができる。		
3	【授業単元】 マット運動跳び箱の基礎と補助	【到達目標】 器具の使い方 動き こどもの動きを知り 補助を体感する			11	【授業単元】 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。	【到達目標】 フープや箱など、保育の現場にもあるようなものを使って、自分で5個以上運動遊びを作ることが		
4	【授業単元】 鉄棒 ボール 身体の運動性を考える	【到達目標】 鉄棒の補助 ボール遊びから運動性を考える			12	【授業単元】 身近な自然やものの音や音色、季節のものを通して好奇心を高めて表現する手法を考える。	【到達目標】 屋外での活動での指導案を立てた上で、ねらいを説明し普段の保育の中でどう活かせるかを説明できる。		
5	【授業単元】 鬼ごっこをしよう	【到達目標】 鬼ごっこを考える 行う 動く ご安全に！			13	【授業単元】 見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等における経験を子ども自ら行うようになる環境を考え	【到達目標】 自発的に子ども同士で遊びが発展していくための仕組みを理解する。		
6	【授業単元】 リズム体操 作ってみよう	【到達目標】 リズム体操 作ることができる			14	【授業単元】 定期試験・子どもの成長過程を理解し、発育発達に合わせた運動を実践する。	【到達目標】 想定された年代や環境、状況に応じて運動遊びを行うことができる。 さらに子ども同士でも発展できるような仕掛けや声かけができる。		
7	【授業単元】 リズム体操 作ってみよう 教えてみよう	【到達目標】 リズム体操 作ることができる			15	【授業単元】 定期試験・定期試験の振り返り。	【到達目標】 定期試験の内容について自分の考えを他人に説明し、その議題について他人とディスカッションができる。		
8	【授業単元】 テスト 実技	【到達目標】 学生皆さんの様子 からテストの方式は考えます			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
心身の体調を整えて、授業に参加する									

授 業 概 要

科目名	保育内容の理解と方法（音楽）	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	佐藤晴奈 松澤友妃子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
こどもの音楽表現力を引き出す実践法を学び、こどもの表現を導くために必要な音楽スキルを習得する。									
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
音楽の専門知識を持ち、幼稚園・保育園で音楽指導・リトミック指導を行ってきた教員が、保育現場に求められる音楽の基礎力・実践力を養うための授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
幼児のための音楽教育（教育芸術社） こどもの歌ベストテン（ドレミ楽譜出版社）									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 楽典（楽譜の意味、音部記号、音名、音符） 歌唱（月の歌、音名唱法） 【到達目標】 楽典の基本を学び知識を定着させることを目指す。 幼稚園や保育園で歌われる季節・行事の歌を覚える				9	【授業単元】 2、3歳の合奏 リトミック活動 【到達目標】 楽器の使い方と指導法を学び実践力を身につける。 リトミックの意義を理解し、音楽を身体で表現することができる。			
2	【授業単元】 歌唱（月の歌） ソルフェージュ①（リズム打ち、音名唱法） 【到達目標】 幼稚園や保育園で歌われる季節・行事の歌を覚える。 言葉リズムで音符の音価を学びリズム遊びへつなげる。				10	【授業単元】 4、5歳児の合奏 リトミック活動 【到達目標】 楽器の使い方と指導法を学び実践力を身につける。 リトミックの意義を理解し、音楽を身体で表現することができる。			
3	【授業単元】 歌唱（月の歌） ソルフェージュ②（リズム打ち、音名唱法） 【到達目標】 幼稚園や保育園で歌われる季節・行事の歌を覚える。 言葉リズムで音符の音価を学びリズム遊びへつなげる。				11	【授業単元】 4、5歳児の合奏 リトミック活動 【到達目標】 楽器を使って表現を楽しみ、お互いの音を聴き協力し合って演奏する。 保育で実践できる音楽を使ったイメージ遊びや表現方法を学び実践力を身につける。			
4	【授業単元】 歌唱（月の歌） ソルフェージュ③（表現リズム遊び、音名唱法） 【到達目標】 幼稚園や保育園で歌われる季節・行事の歌を覚える。 音符を身体を使って表現しリズムの違いを感じる。				12	【授業単元】 ハンドベル演奏 音楽指導計画立案 【到達目標】 楽器の使い方と指導法を学び実践力を身につける。 これまでに学んだ内容を踏まえて具体的な音楽指導法を考える。			
5	【授業単元】 歌唱（月の歌） ソルフェージュ④（表現リズム遊び、音名唱法） 【到達目標】 幼稚園や保育園で歌われる季節・行事の歌を覚える。 音符を身体を使って表現しリズムの違いを感じる。				13	【授業単元】 ハンドベル演奏 音楽指導計画立案 【到達目標】 楽器の使い方と指導法を学び実践力を身につける。 これまでに学んだ内容を踏まえて具体的な音楽指導法を考える。			
6	【授業単元】 歌唱（月の歌） ソルフェージュ⑤（表現遊び、音名唱法） 【到達目標】 幼稚園や保育園で歌われる季節・行事の歌を覚える。 音楽を使って感性と表現力を育てる遊びを学ぶ。				14	【授業単元】 ハンドベル演奏 音楽指導計画立案 【到達目標】 楽器を使って表現を楽しみ、お互いの音を聴き協力し合って演奏する。 これまでに学んだ内容を踏まえて具体的な音楽指導法を考える。			
7	【授業単元】 歌唱（月の歌） ソルフェージュ⑥（表現遊び、音名唱法） 【到達目標】 幼稚園や保育園で歌われる季節・行事の歌を覚える。 音楽を使って感性と表現力を育てる遊びを学ぶ。				15	【授業単元】 模擬指導発表 ハンドベル演奏 【到達目標】 子どもの発達に応じた音楽遊びを保育現場において活用できるようにする。 楽器に適した表現と演奏ができるようにする。			
8	【授業単元】 中テスト（筆記・実技試験） 【到達目標】 これまでに習った内容を振り返り、中テストにおいて現在の到達状況を確認、完成させる。				【成績評価の方法と基準】 ・客観的なパフォーマンス評価の手法として、また学生がより明確に自身の課題を知ることを目的として定期試験では、ルーブリック評価を用いる。 ・評価項目は1回目授業時に学生に提示して、共通理解とする。 ・小テストは毎回行うものとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】					点数配分				
保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身に付け、毎回の授業を真剣に取り組み、疑問点はその都度教員に聞き、確実に解決、理解することが望ましい。					小テスト②④⑥⑧⑩⑫各5点 ⑭10点 定期試験⑮ 60点				

授 業 概 要

科目名	保育内容の理解と方法(言語)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	河野亮子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針示されている保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
・幼稚園教諭免許、保育士資格を有する教員が、幼稚園、保育所での乳幼児保育・教育の現場経験を活かし、保育の知識・技術、実践力を習得することが出来る授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者のための言語表現の技術 ・保育所保育指針ガイドブック 					<ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りを行う。 ・授業で学んだ様々な保育技術を身に付ける。 				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション・児童文化財とは何か(知育・徳育・美育のはたらき)				9	【授業単元】 ・おはなし			
	【到達目標】 ・児童文化財とは何か、保育の現場で活用される児童文化財、文化財のはたらきについて説明することが出来る。					【到達目標】 ・おはなしの種類、特徴等について理解し、実践することで保育技術を習得する。			
2	・児童文化財と表現(子どもの表現を育てるために)				10	【授業単元】 ・絵本			
	【到達目標】 ・児童文化における表現とは何かについて説明することが出来る。					【到達目標】 ・絵本の種類、特徴等について理解し、実践することで保育技術を習得する。			
3	【授業単元】 ・子どもの言葉の発達				11	【授業単元】 ・紙芝居			
	【到達目標】 ・言語コミュニケーション、読み・書きについて説明することが出来る。					【到達目標】 ・紙芝居の種類、特徴等について理解し、実践することで保育技術を習得する。			
4	【授業単元】 ・児童文化財とことば(保育内容領域「言葉」とのかかわり)①				12	【授業単元】 ・パネルシアター			
	【到達目標】 ・「保育所保育指針」保育内容領域「言葉」について具体的に説明することが出来る。					【到達目標】 ・パネルシアターの種類、特徴等について理解し、実践することで保育技術を習得する。			
5	【授業単元】 ・児童文化財とことば(保育内容領域「言葉」とのかかわり)②				13	【授業単元】 ・ペープサート			
	・「言葉」の内容を理解し、自動文化財をもちいて実践することが出来る。					【到達目標】 ・ペープサートの種類、特徴等について理解し、実践することで保育技術を習得する。			
6	【授業単元】 ・子どものことばを豊かに育む保育者の役割(保育者の役割と環境構成)①				14	【授業単元】 ・人形劇			
	【到達目標】 ・子どものことばを豊かに育む保育者の役割について説明することが出来る。					・人形劇の種類、特徴等について理解し、実践することで保育技術を習得する。			
7	【授業単元】 ・子どものことばを豊かに育む保育者の役割(保育者の役割と環境構成)②				15	【授業単元】 ・定期テスト(1回目～14回目までの振り返りをする)			
	【到達目標】 ・子どものことばを豊かに育む環境構成について説明することが出来る。					【到達目標】 ・1回目～14回目までの内容を理解し、ポイントを説明することが出来る。			
8	【授業単元】 ・1回目から7回目までの振り返り・中テスト				【成績評価の方法と基準】 ・講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テスト毎回5点と中テスト15点の合計80点÷2で40点の配点とする。 両者の合計点をA～Fの6段階で評価する。・実技と筆記でテストを行う。				
	【到達目標】 ・1回目～7回目までの内容が理解出来、ポイントを説明することが出来る。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・保育所保育指針に示される保育の内容を理解する。									

授 業 概 要

科目名	乳児保育Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	八木ゆかり		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
保育の現場で求められる「何をどのように行うか」などの技術だけではなく、「なぜそうするのか」「何を行うことが乳児にとっての発達援助なのか」など根拠をもって行うことの重要性を理解する。子どもの生活とあそびが豊かになるような環境を考え説明できる。個人差・月齢差を考慮した集団における具体的な配慮事項を考え述べることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害児者施設の福祉指導員、保育園保育士、保育園園長、補習塾塾長、保育アドバイザー等「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応、実践的な支援・チーム力等)の知識・技術をグループワーク・実践を中心に習得できる授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
乳児保育演習ブック[第2版] 松本峰雄 監修 池田/才郷/土屋/堀 著 ミネルヴァ書房					授業の振り返り 日常の中で3歳未満児に関わる機会を作ったり、意識して観察する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 乳児保育とは何か 【到達目標】 乳児保育Ⅰで学んだ内容について説明できる ・保育現場での乳児とは何か ・乳児保育の重要性について				9	【授業単元】 2歳～3歳の子ども育ちと保育内容Ⅰ 【到達目標】 ①身体の育ち ②心と言葉の育ち ①、②について説明できる			
2	【授業単元】 6か月未満児の育ちと保育 【到達目標】 ①身体の育ち ②表現の育ち ③心と言葉の芽生え ①～③について説明できる				10	【授業単元】 乳児保育における指導計画 【到達目標】 期別指導計画を立てる			
3	【授業単元】 6か月未満の子どもの育ちと保育内容 【到達目標】 授乳の仕方・おむつ交換・布おむつと紙おむつの違い等体験から学ぶ				11	【授業単元】 観察・記録及び自己評価 【到達目標】 観察・記録及び自己評価の振り返りをする			
4	【授業単元】 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容Ⅰ 【到達目標】 ①身体の育ち ②心と言葉の育ち ①、②について説明できる				12	【授業単元】 子どもの生活と遊び豊かになる保育環境Ⅰ 【到達目標】 絵本・紙芝居・おもちゃ・大型遊具を構成する環境を整えるための必要性			
5	【授業単元】 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容Ⅱ 【到達目標】 ①睡眠と排泄 ②離乳の開始 ③衣服と着替え ①～③において、具体的な方法を知る				13	【授業単元】 子どもの生活と遊び豊かになる保育環境Ⅱ 【到達目標】 あそびのアイディアや製作・描画・表現あそびの導入・持続を学ぶ			
6	【授業単元】 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容Ⅰ 【到達目標】 ①身体の育ち ②心と言葉の育ち ①、②について説明できる				14	【授業単元】 集団での生活における配慮 【到達目標】 ・集団の中の「一人ひとり」を大切に保育			
7	【授業単元】 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容Ⅱ 【到達目標】 睡眠、食事、排泄、トイレトレーニング、着替え、安全、遊びについて学ぶ				15	【授業単元】 定期試験 前期授業の振り返り及び試験解答についての振り返り 【到達目標】 これまでの14回の授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ確認する。			
8	【授業単元】 中テスト 【到達目標】 中テストの振り返り 1～7回目までの授業の振り返り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
3歳未満児の保育(乳児保育)について理解しようとする意識を持ち積極的に発言する									

授 業 概 要

科目名	子どもの健康と安全	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	土井和美		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する。 3 保育所における「アレルギー対応」「感染症対策」「事故防止及び事故発生の対応」の各ガイドラインについて具体的に理解する。 4 母子保健に関する施策や連携する関連機関について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
小児病棟で小児の看護を12年経験し、訪問看護でも小児の在宅療養を支援し、看護学校では「小児看護」を担当してきた教員が授業を行う。子どもの健康で安全な生活を守るための衛生環境及び安全管理、体調不良時の対応を根拠をもって示し、他職種及び家庭との連携について演習を交え授業をする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育者のための 子どもの健康と安全〔改訂版〕 創成社 保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館 2018年					実習(5~7月)で、保育園の保育環境や感染予防・事故予防の取り組みを見てきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 保健的観点を踏まえた保育環境と援助 1 子どもの健康と保育の環境 2 個別対応と集団全体の健康および安全管理 【到達目標】 望ましい保育環境とはどういうことかを具体的に述べるができる。 個別対応と集団全体の健康および安全管理について説明できる。				9	【授業単元】 第4章 子どものかかりやすい感染症対策 1 感染症の集団発生の予防 2 感染症発生時と罹患後の対応① 【到達目標】 感染症の集団発生の予防について説明できる。 感染症発生時と罹患後の対応について説明できる。			
2	【授業単元】 第2章 保育における健康と安全管理 1 衛生管理 2 事故防止と安全管理 【到達目標】 おもな衛生管理の基準を説明できる。 施設内外の衛生管理について説明できる。 保育中に起こり得る事故を5つ以上上げることができる。その予防方法を述べるができる。				10	【授業単元】 第4章 子どものかかりやすい感染症対策 2 感染症発生時と罹患後の対応② 【到達目標】 感染症発生時と罹患後の対応について説明できる。 正しい手洗い方法を実演できる。			
3	【授業単元】 第2章 保育における健康と安全管理 3 危機管理 4 災害への備え 【到達目標】 災害に対しどのような備えが必要か述べるができる。 災害発生時の具体的対応を述べるができる。 PTSDの特徴と対応方法を述べるができる。				11	【授業単元】 第5章 保育における保健的対応 1 保育における保健的対応の基本的考え方 【到達目標】 子どもの健康観察、発育の評価について説明できる。			
4	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 1 体調不良や障害が発生した場合の対応① 【到達目標】 子どもの体調不良時の症状を説明できる。(発熱・下痢・嘔吐・咳・発疹・腹痛) 体調不良が発生した時の対応を説明できる。				12	【授業単元】 第5章 保育における保健的対応 2 3歳未満児への対応 【到達目標】 3歳未満児への対応について具体的に説明できる。 子どもの身体測定の方法および留意点について説明できる。			
5	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 1 体調不良や障害が発生した場合の対応② 【到達目標】 子どもの体調不良時の症状を説明できる。(けいれん・脱水・頭痛・鼻汁・鼻閉・熱中症) 体調不良が発生した時の対応を説明できる。 子どもの薬と投薬方法について説明できる。				13	【授業単元】 第5章 保育における保健的対応 3 個別的な配慮が必要な子どもへの対応 4 障害のある子どもへの対応 【到達目標】 個別的な配慮を要する子ども(慢性疾患、アレルギー疾患を持つ子ども)への対応について説明できる。 エビベンの使用方法を説明できる。 障がいのある子どもへの対応について述べるができる。			
6	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 子どもの生活と保健の実際 2. 応急手当① 【到達目標】 子どもの事故について、発症・行動と結びつけて述べるができる。 事故・急病発生時の対応について説明できる。(切り傷・刺し傷・打撲・骨折・捻挫)				14	【授業単元】 第6章 健康および安全管理の実施体制 1職員間の連携・協働 2保健活動の計画及び評価 3自治体との連携 4関係機関との連携 【到達目標】 子どもの健康および安全を守るために職員間の連携の必要性についての述べるができる。 厚生労働省や自治体が行っている母子保健事業の具体例を説明できる。 子どもの最善の利益のために家庭、専門機関、地域がどのように連携しているか説明できる。			
7	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 2. 応急手当② 【到達目標】 子どもの事故について、発症・行動と結びつけて述べるができる。 事故・急病発生時の対応について説明できる。(口の中のけが・鼻出血・目のけが・虫刺され・火傷・誤飲・誤嚥) 止血法、包帯法を実演できる。				15	【授業単元】 1~14回振り返り 定期試験 【到達目標】 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助/子どもの体調不良等に対する適切な対応/ 保育所における「アレルギー対応」「感染症対策」「事故防止及び事故発生の対応」の各ガイドラインについて、学習した項目に正しく答えることができる。			
8	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 3 一次救命処置 1~8回振り返り 中テスト 【到達目標】 小児の救急蘇生の具体的方法について説明できる。 AEDの使用方法を説明することができる。 保育の安全な環境の在り方、事故や体調不良が発生した時の対応方法について学習した項目を正しく選択することができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事前にテキストを読んで授業に臨みましょう・こどもに関するニュースに関心を持ちましょう。									

授 業 概 要

科目名	障害児保育Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	吉田 澄枝		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
障害児その他特別な配慮を要する子どもの保育計画の作成や援助の具体的な方法について理解できるようになる。障害児その他特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解することができる。障害児その他特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解することができるようになる。									
【学習内容】									
・行政での障がい者施策・特別支援学校での教員経験後、起業。現在、株式会社クリアソ代表取締役。「自分を大切に」をテーマに健康増進事業に従事。介護職研修講師やセルフケアの普及活動を行っている。課題解決につけての手立てを考え、観察力・考察力を育て、自ら課題解決に向けた考える支援を展開できるような人材育成を目指し展開していきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書・ワークプリント					障害児（者）に関するニュースや身近な障害児（者）に関心をもつ。街中で出会った障害者に支援できるよう心がける。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 ・ 2	【授業単元】 オリエンテーション 障害の基礎の復習					【授業単元】			
	【到達目標】 後期の授業の流れを理解できるようになる。 復習をとおして障害児の基本を理解できるようになる。					【到達目標】			
3 ・ 4	【授業単元】 発達障害児の理解と援助					【授業単元】			
	【到達目標】 発達障害児の理解ができるようになるとともに援助できるようになる					【到達目標】			
5 ・ 6	【授業単元】 重症心身障害児及び医療的ケア児の理解と援助					【授業単元】			
	【到達目標】 重症心身障害児の定義が理解できるとともに、医療的ケア児の概念や援助の方法が理解できるようになる。					【到達目標】			
7 ・ 8	【授業単元】 障害児その他特別な配慮を要する子どもの保育の実際					【授業単元】			
	【到達目標】 合同保育、分離保育について理解することができるようになる。 指導計画および個別支援計画が書けるようになる。 職員間の連携・協働など基本的な取り組みができるようになる。					【到達目標】			
9 ・ 10	【授業単元】 家庭及び自治体・関係機関との連携					【授業単元】			
	【到達目標】 保護者や家庭についての理解と支援ができるようになる。 自治体や関係機関との連携や協働ができるようになる。					【到達目標】			
11 ・ 12	【授業単元】 家庭及び自治体・関係機関との連携					【授業単元】			
	【到達目標】 小学校との連携ができるようになる。					【到達目標】			
13 ・ 14	【授業単元】 障害児と特別な配慮を要する子どもの保育					【授業単元】			
	【到達目標】 保健・医療、福祉・教育等の現状と課題について理解することができる。 支援の場の広がりやつながりについて、理解することができる。					【到達目標】			
15	【授業単元】 科目総括					【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 授業全体が理解できるようになる。					講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト（8回目の授業で実施）は15点満点とする。その合計（80点満点）の1/2の点数（小点数以下切り上げ）を小テストの合計点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
(授業は2コマ連続で行う)									

授 業 概 要

科目名	社会的養護Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	土屋 多恵子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ・施設養護及び家庭養護の実践について理解する。 ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解する。 					<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 				
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児、児童等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実践を交えながら、保育者として必要な知識・技術を学び、保育実践できるようになる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新基本保育シリーズ18 社会的養護Ⅱ/中央法規					<ul style="list-style-type: none"> ・保育関係の図書資料を読み、保育に関するニュースなどから保育の動向を知る。 ・社会的養護に関する制度・施策・重要な用語を記録、整理しまとめる。 				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 子どもの権利養護				9	【授業単元】 アセスメントと個別支援計画の作成			
	【到達目標】 ・子どもの権利擁護を図るために、組織として養育者として、どのような取り組みや運営に努めればよいのかを考察し、述べる事ができる。					【到達目標】 ・アセスメントとは何かを理解し、事例を基に自立支援計画を策定し、具体的に記入することができる。			
2	【授業単元】 社会的養護における子どもの理解について				10	【授業単元】 記録および自己評価			
	【到達目標】 ・子どもの養育や支援をするための、的確な子ども理解の仕方やアプローチについて述べる事ができる。					【到達目標】 ・社会的養護における記録の種類・方法・内容について説明することができる。 ・社会的養護におけるPDCAサイクルについて説明することができる。			
3	【授業単元】 日常生活支援				11	【授業単元】 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践			
	【到達目標】 ・日常生活支援の意味、何を支えることなのかということについて理解し、具体的に説明することができる。(衣・食・住・保健・衛生・生活リズム)					【到達目標】 ・保育の専門性についてあらためて認識し、さまざまな事例をもとに考察し、述べる事ができる。			
4	【授業単元】 治療的支援				12	【授業単元】 社会的養護にかかわる相談援助(知識・技術とその実践)			
	【到達目標】 ・心理的支援等の特徴を知るとともに、支援を進めるうえで『多面的にとらえる』視点をもつことができる。					【到達目標】 ・ソーシャルワークのプロセスの知識を深め、ソーシャルワークの視点でロールプレイを行うことができる。			
5	【授業単元】 自立支援				13	【授業単元】 社会的養護におけるソーシャルワーク(知識・技術とその応用)			
	【到達目標】 ・自立支援の基本を知り、事例をもとに様々な自立支援について理解を深め、自立支援計画票等にもふれ、個別の計画を立てる意味を述べる事ができる。					【到達目標】 ・基本的コミュニケーションスキルを学び、応答技法の意味と効果について述べる事ができる。			
6	【授業単元】 施設養護の生活特性および実際①(乳児院・児童養護施設。母子生活支援施設)				14	【授業単元】 社会的養護における家庭支援			
	【到達目標】 ・施設の支援の対象、特性を確認し、1日の日課、年間の生活と援助を記述し、説明することができる。					【到達目標】 ・家庭を支援することについて考察し、どのような関係機関があり、連携する必要があるか説明することができる。			
7	【授業単元】 施設養護の生活特性および実際②(障害児施設等)				15	【授業単元】 今後の社会的養護の課題と展望/定期試験			
	【到達目標】 ・施設の支援の定義、利用する子どもの特徴、施設の機能・支援内容を説明することができる。					【到達目標】 ・日本の実態に即した社会的養護のあり方について調べ、説明することができる。			
8	【授業単元】 家庭養護の生活特性および実際/中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。 その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・里親家庭などで育つ子どもについて、保育者はどのようなことを理解しておく必要があるか述べる事ができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
意欲的に授業に臨むこと。専門用語などまとめたり、社会的養護に関する動向について調べ、保育の専門性を高めていくこと。									

授業概要

科目名	子育て支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	鶯千恭子(おうち きょうこ)	
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
こどもを産み育てやすい環境の整備を進め、こどもの健やかな成長を図るため、子育て家庭や妊産婦が、身近な場所で相談し、必要な支援を受けることができる相談支援体制の整備や、身近な場所に子育て中の親子が気軽に集まって相談や交流などを行う拠点などの地域のニーズに応じた様々な子育て支援策に従事できる力を身につける。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
虐待・DV等の問題を家族機能の視点から治療研究を行ってきた経験、保育現場で子育て支援事業の立ち上げを支援してきた実績、また現在、家族支援ができるプロ「家族成育カウンセラー」の養成を行っている中で、保育士に求められる「子育て支援」の視点・相談技術等について身につけていただきます。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
授業で用意するパワーポイント等の資料 国民衛生の動向(厚生省)					特になし			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 子育て支援でなんだろう？			9	【授業単元】 子育て支援は愛着形成支援			
	【到達目標】 お金を給付することだけが支援ではない。もちろん経済負担は大きい。それはほんの一部。そもそも支援は親のためのものではない。親を支えることで、子どもの幸せに貢献できるものであるべきであり、子どもが希望と意欲を持てるようにするために、親を支援するというカウラーを理解する。				【到達目標】 親子関係の中で築かれる「愛着形成」は乳幼児期の最も重要な課題。愛着は相互作用で形成されるため、母親の安定したメンタリティーが欠かせない。愛着とは何か、安定した愛着と不安定な愛着の違い、心理学的視点と医学的視点の違いなど、愛着の本質を理解する。			
2	【授業単元】 子育て親の本音・親の苦悩			10	【授業単元】 愛着障害			
	【到達目標】 子育てが親にとって喜びに満ちたものになっていないのはなぜか？統計データを読み取りながら、子育ての親の苦悩を読み解いていく。問題の本質を見立て間違えると、支援はズレ、問題は解決しない。増え続ける虐待2000件→20万件、親の孤立感と子どもへの影響を考える。				【到達目標】 愛着障害の事例(イスラエルのキブツ/ハーロウのアカゲザル実験/ルーマニアの孤児院など)を取り上げ、愛着障害とは何かを読み解く。以前は、孤児院や遺児などに限られていた愛着障害が、今では一般家庭の中でも多く見られるようになってきたと言われており、その背景を考える。			
3	【授業単元】 変わる子育て環境			11	【授業単元】 オキシトシン・システム			
	【到達目標】 育児環境を「時代」というマクロな視点で捉える。中でも、近年急増中の発達障害。強いかかる教育費、仕事と育児の両立の難しさ。また、増える貧困家庭の実態。世界はどうなっているのか？世界の子育て事情と比較し日本の現状と課題、自分たちができる支援策を考えてみる。				【到達目標】 安心感の正体はオキシトシンホルモン。幼少期に親との相互作用で受容体を増やすオキシトシンが、うまく機能しないと免疫機能を低下させ、痛みに弱くなり、不安を感じやすく、また傷つきやすく、心を支える力の発達に影響が及ぶなど影響は多岐にわたる。「子育て支援は愛着形成支援」の本質を理解する。			
4	【授業単元】 Z世代の「子どもは欲しくない」という声から見えるもの			12	【授業単元】 愛着関連障害			
	【到達目標】 Z世代は「子どもは欲しくない」と答える実態(51%/東洋経済)。経済支援が主の子育て支援策の中、見えてくるのは経済負担だけではない姿。周囲を見ても希望が持てない。不安要素がいっぱい。とても自分ができるとは思えないと感じてしまうZ世代。助けてと言えない世代特有の育児への思いを深める。				【到達目標】 遺伝的要因の強い神経発達障害とされていたADHDだが、遺伝的要因だけでなく環境要因その相互作用による部分が大きいことがわかってきた。育てにくさを感じる子どもとは、また親側が抱える問題。また、答えや結果がわからない難しいことに挑戦する意欲にも愛着が関与しているという最新研究結果から理解を深める。			
5	【授業単元】 不安・回避型傾向を持つ世代の育児不安			13	【授業単元】 愛着診断			
	【到達目標】 不安を感じやすく、人と関わることを避ける、対人関係において回避傾向の若者増加している。回避傾向が強くなると途端に行き詰るのが子育て。回避傾向の生まれる背景、対人関係で降りやすい特徴、子どもの発達への影響を知り、子育ての傾向を読み解き、保護者支援に役立てる。				【到達目標】 誰もが持つ愛着スタイル。愛着とは何かを深く理解するために「愛着診断」を行い、自分のつくり方を客観的に捉えてみることで、生きやすさを手に入れる方法があることを深く理解。自分をj知ること他人を知ることができる。また、愛着は記憶であり、経験によって書き直せるという性質を理解する。			
6	【授業単元】 保護者対応の技術			14	【授業単元】 愛着の補強支援			
	【到達目標】 上手に助けを求められない保護者、クレームや無理な要望に対してどう対応するかなど、保護者対応の技術が求められる時代。人間関係力の乏しい保護者が増える中で、保護者との信頼関係を築くことの難しさを感じる園が増えている。保護者対応の技術について考える。				【到達目標】 子育て支援とは愛着補強支援でもある。愛着はいつからでも補強することができる。そのため安全基地になる技術・安全基地の質を左右する二つの共感性・世話をすることで磨かれていく仕組みについて理解を深め、支援者ができる補強支援とは、また、親がわが子の愛着形成を促すことができるアイデアを考えてみる。			
7	【授業単元】 世界の子育て			15	【授業単元】 習熟度確認テスト			
	【到達目標】 若者の意識調査国際比較。日本と海外の子育て何が違う？文化や意識の違いとお国柄事情も含めた比較。(ゆるい校則で自己責任重んじるアメリカ、手厚い子育てサポートにこだわるカナダケベック、過酷な受験競争の中国・韓国)				【到達目標】 これまでの学習の習熟度を確認するためのテストを実施。			
8	【授業単元】 習熟度確認テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学習の習熟度を確認するためのテストを実施。							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
子育て支援は親支援であり、安心し自信に満ちた親を子どものそばに置くための支援です。そのために必要なことは何か、自分なりの意見をどんどん発言してください。								

授 業 概 要

科目名	保育実習 I (施設)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p><保育所実習の内容></p> 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導Ⅰ-②	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期集中	担当 教員	学科教員		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①児童福祉施設及び社会福祉施設における保育実習の意義・目的について理解する。 ②実習を振り返り、次回の実習に学びをつなげるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師(東京福祉専門学校介護福祉科卒業。担任歴9年)、担任がこれまでの教務の経験を活かし、施設の概要から実習生としての身構え、気構え、心構えを整えられるような授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育実習のねらい・就職活動マニュアル・ipad等のデバイス・リクルートスタイル ・便箋・白の二重封筒・切手					実習日誌の完成(実習先について事前調べ学習・オリエンテーション・目標書きなど)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 身だしなみ・持ち物について 【到達目標】 良い印象で実習を行えるよう身だしなみや持ち物を整えることができる。 ※リクルートスタイル				9	【授業単元】 実習振り返り① 【到達目標】 個人ワーク、お礼状書き、面談を通して実習で学んだことを記述し振り返ることができる			
2	【授業単元】 問題解決方法について 【到達目標】 実習先で想定される困る場面をどのように回避するか、考え方、対処方法を学び、ストレス耐性を高めることができる。				10	【授業単元】 実習振り返り② 【到達目標】 個人ワーク、お礼状書き、面談を通して実習で学んだことを記述し振り返ることができる			
3	【授業単元】 実習中のルールについて 【到達目標】 ITリテラシー・実習中に絶対に守らなければならないことを事例を通してどこに気を付けなければいけない点があるか考え、対応することができるようになる。				11	【授業単元】 実習振り返り③(専任講師) 【到達目標】 次の実習や自分の就職に活かせるよう実習先の情報をまとめ、発表を行うことで職業理解につながる。			
4	##### 【授業単元】 児童福祉施設及び社会福祉施設について 【到達目標】 施設の概要を調べ、そこでの目標の確認をする。 実習先でできる部分実習について想定し、指導案をたてることができる。				12	【授業単元】 実習振り返り④(専任講師) 【到達目標】 次の実習や自分の就職に活かせるよう実習先の情報をまとめ、発表を行うことで職業理解につながる。			
5	【授業単元】 発達の理解について(専任講師) 【到達目標】 こどもの発達について授業で習ったことを復習し、年齢ごとの主な発達を記述することができる。				13	【授業単元】 業界理解①(業界・キャリアセンター) 【到達目標】 様々な園、施設の情報を、業界の方から聞くことで、自分の進路について考えることができる。			
6	【授業単元】 部分実習について(専任講師) 【到達目標】 発達を理解してのレクリエーションや制作について学び、発達を想定した部分実習を行えるようになる。				14	【授業単元】 業界理解②(業界・キャリアセンター) 【到達目標】 様々な園、施設の情報を、業界の方から聞くことで、自分の進路について考えることができる。			
7	【授業単元】 指導案について(専任講師) 【到達目標】 発達に応じた指導案の立案を行うことができる。				15	【授業単元】 振り返り・実習後定期試験 【到達目標】 保育実習指導後半を振り返り、試験によりどれほど内容を理解度を測定できる。			
8	【授業単元】 振り返り・事前定期試験 【到達目標】 保育実習指導後半を振り返り、試験によりどれほど内容を理解度を測定できる。				【成績評価の方法と基準】 【小テスト】40点 第1回～7回、第9回～14回の各回振り返りを行い各5点で合計65点 実習準備点:15点 (第8回目までに実習日誌や身だしなみなどのチェック項目を全て完成することができている場合15点。※完成できていない場合は0点。) 【定期テスト】60点 第8回目事前定期試験(30点) 第15回実習後定期試験(30点)				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育実習指導は実習と同様、遅刻・早退・欠席は基本的には認められない。 遅刻・早退・欠席や課題の提出、授業態度が実習にふさわしくないと考えられる場合は実習を事前に中止することがある。									
					小テスト40点+定期試験60点=100点換算とする				

授 業 概 要

科目名	保育実践演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	土屋 多恵子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>・保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。</p> <p>・保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 ・自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児、児童等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を学び、保育実践できるようになる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない 授業内で関連資料を配付する。					・必要な知識・技術や専門職としての倫理観等が習得されたか、テーマごとの、学びの振り返りを行う。 ・自身の研究課題に向けて調査、準備をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション・学びの振り返り/履修カルテ作成				9	【授業単元】 研究発表に向けて①			
	【到達目標】 ・これまでの自らの学びを、授業や保育実習等における体験と結びつけながら振り返り、述べるができる。					【到達目標】 ・保育に関する社会的状況、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法について、自ら収集した資料を用い、解決に向けてグループ討論を行うことができる。			
2	【授業単元】 食育				10	【授業単元】 研究発表に向けて②			
	【到達目標】 ・幼児教育・保育に関する諸問題(食育)に関する園での指導内容を考察、食育便りを作成し、家庭と園との情報共有等、具体的に述べるができる。					【到達目標】 ・保育に関する社会的状況、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法について、自ら収集した資料を用い、解決に向けてグループ討論を行うことができる。			
3	【授業単元】 絵本と造形活動				11	【授業単元】 研究発表に向けて③			
	【到達目標】 ・絵本から広がる造形活動表現を考察し、述べるができる。					【到達目標】 ・保育に関する社会的状況、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法について、自ら収集した資料を用い、解決に向けてグループ討論を行うことができる。			
4	【授業単元】 保育の環境MAP				12	【授業単元】 研究発表に向けて④			
	【到達目標】 ・安全面に配慮した環境について、MAPを作成し、説明することができる。 ・文字への関心を高める環境や生活習慣をスムーズに行うための工夫を提案することができる。					【到達目標】 ・グループでの発表資料の作成、発表当日の流れ、説明時間の調整など、それぞれの役割をもって、実践する準備を自ら実践することができる。			
5	【授業単元】 言語表現活動/カルタづくり				13	【授業単元】 発表/保育者としての課題を明らかにする(発表)			
	【到達目標】 ・5領域「言葉」から子どもの育ちを支える保育者の役割について考察し、述べるができる。 ・カルタづくりをイメージし、指導計画を作成することができる。					【到達目標】 ・自身の修得した知識・技術等と保育に関する現代的課題より、客観的に自己課題を明確にすることができる ・他者の意見をポジティブに捉えることができる。			
6	【授業単元】 行事計画①劇表現				14	【授業単元】 発表/保育者としての課題を明らかにする(発表)			
	【到達目標】 ・グループにて1冊の昔話から台本を作成し、生活発表会までの保育を組見立て、自分の意見を持ってディスカッションに参加することができる。					【到達目標】 ・自身の修得した知識・技術等と保育に関する現代的課題より、客観的に自己課題を明確にすることができる ・他者の意見をポジティブに捉えることができる。			
7	【授業単元】 行事計画②劇表現				15	【授業単元】 保育者としての課題を明らかにする研究発表/定期試験			
	【到達目標】 ・グループにて1冊の昔話から台本を作成し、生活発表会までの保育を組見立て、自分の意見を持ってディスカッションに参加することができる。					【到達目標】 ・自身の修得した知識・技術等と保育に関する現代的課題より、客観的に自己課題を明確にすることができる ・他者の意見をポジティブに捉えることができる。			
8	【授業単元】 生活発表会(劇表現)の保育実践発表/中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は研究発表・考察・筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。 その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。 その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・保育の過程を意識して構想した計画を、分かりやすく説明することができる。 ・9回目以降に取り組みたい研究テーマを言語化し、説明することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】 保育士としての学びの最終段階において、習得した知識・技術を振り返り、更なる保育者としての課題を明確にする意欲をもつ。									

授 業 概 要

科目名	愛着と自立	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①愛着と自立が相互に結びついていることについて理解し、説明することができる。 ②自立支援のさまざまな方法について理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、子どもや保護者、また、周囲のスタッフとかわるために必要とされる、相談に応じ、援助するということを理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					授業内容と、実習やアルバイト、さらには、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、相談援助における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・愛着について① 【到達目標】 ・本科目の目標・進め方について理解することができる。 ・愛着の基本的なことについて理解し、説明することができる。 ・愛着と自立の関係について理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
2	【授業単元】 ・愛着について② 【到達目標】 ・反応性愛着障害を持つ児童たちの実際について理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
3	【授業単元】 ・愛着について③ 【到達目標】 ・反応性愛着障害について理解し、説明することができる。 ・愛着行動について理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
4	【授業単元】 ・愛着について④ 【到達目標】 ・実験を通じた愛着のタイプについて理解し、説明することができる。 ・愛着の再形成について理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
5	【授業単元】 ・自立について① 【到達目標】 ・幼児期～成人期の自立困難例を通して、自立とその支援について理解し、説明することができる～その1～。					【授業単元】 【到達目標】			
6	【授業単元】 ・自立について② 【到達目標】 ・幼児期～成人期の自立困難例を通して、自立とその支援について理解し、説明することができる～その2～。					【授業単元】 【到達目標】			
7	【授業単元】 ・自立について③ 【到達目標】 ・幼児期～成人期の自立困難例を通して、自立とその支援について理解し、説明することができる～その3～。					【授業単元】 【到達目標】			
8	【授業単元】 ・1～7回目振り返り ・定期試験 【到達目標】 ・全7回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。					【成績評価の方法と基準】 ・評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合する。 その結果、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は、筆記試験で行う。 ・毎回の授業の小テストは、7回で合計40点満点となるように点数を配分する。 具体的には、1回目6点、2回目5点、3回目6点、4回目6点、5回目6点、6回目6点、7回目5点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに保育現場を意識して、子どもや保護者、スタッフとどうかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	赤ちゃんと保護者の心理	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①赤ちゃんの心理と保護者の心理それぞれを理解し、説明することができる。 ②保護者の支援を通して赤ちゃんを支援することについて理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、子どもや保護者、また、周囲のスタッフとかわるために必要とされる、相談に応じ、援助するということを理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					授業内容と、実習やアルバイト、さらには、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、相談援助における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・赤ちゃんのさまざまな能力～その1～ 【到達目標】 ・本科目の目標・進め方を理解することができる。 ・赤ちゃんのさまざまな能力について理解し、説明することができる～その1～。					【授業単元】 【到達目標】			
2	【授業単元】 ・赤ちゃんのさまざまな能力～その2～ 【到達目標】 ・赤ちゃんのさまざまな能力について理解し、説明することができる～その2～。					【授業単元】 【到達目標】			
3	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その1～ 【到達目標】 ・保護者の心理が赤ちゃんにいかにか影響するかについて理解し、説明することができる～育児不安その1～。					【授業単元】 【到達目標】			
4	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その2～ 【到達目標】 ・保護者の心理が赤ちゃんにいかにか影響するかについて理解し、説明することができる～育児不安その2～。					【授業単元】 【到達目標】			
5	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その3～ 【到達目標】 ・児童虐待が疑われる家庭・保護者への支援について理解し、説明することができる。 ・産後うつ病について理解し、説明することができる～その1～。					【授業単元】 【到達目標】			
6	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その4～ 【到達目標】 ・産後うつ病について理解し、説明することができる～その2～。 ・赤ちゃんの出すサインを保護者がいかにか読み取るかについて理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
7	【授業単元】 ・保護者の支援を通しての赤ちゃんの支援～技法と事例～ 【到達目標】 ・保育者として必要とされるカウンセリングの知識と方法について理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
8	【授業単元】 ・1～7回目振り返り ・定期試験 【到達目標】 ・全7回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。					【成績評価の方法と基準】 ・評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合する。 その結果、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は、筆記試験で行う。 ・毎回の授業の小テストは、7回で合計40点満点となるように点数を配分する。 具体的には、1回目5点、2回目6点、3回目5点、4回目7点、5回目6点、6回目6点、7回目5点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに保育現場を意識して、子どもや保護者、スタッフとどうかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	障害児の心理	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
さまざまな障害についての概要を生理的側面、機能的側面、心理的側面から理解し、それぞれ必要とされる対人援助方を学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害児の親子教室、心身障害児総合医療療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基礎的な知識、技術を習得できる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育所保育指針、配布プリント					気になるこども、障害について調べる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 視覚障害児について 小テスト5点				9	【授業単元】			
	【到達目標】 視覚障害の体験をしてみとめ、発表しあい共有する。					【到達目標】			
2	【授業単元】 多様な障害について、障害者の話を聞く 小テスト5点				10	【授業単元】			
	【到達目標】 子どもへの関わり方を知り発表する。					【到達目標】			
3	【授業単元】 障害児を持つ保護者の話を聞く 小テスト5点				11	【授業単元】			
	【到達目標】 子ども、保護者への関わり方を知りまとめる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 障害児施設で働く方の話を聞く 小テスト5点				12	【授業単元】			
	【到達目標】 さまざまな障害のある人への関わり方と保育者としての関わりを知る。					【到達目標】			
5	【授業単元】 障害児が喜ぶおもちゃの製作① 小テスト5点				13	【授業単元】			
	【到達目標】 製作したものを発表する。					【到達目標】 説明できる			
6	【授業単元】 障害児が喜ぶおもちゃ② 小テスト5点				14	【授業単元】			
	【到達目標】 製作したものを発表する。					【到達目標】			
7	【授業単元】 障害児の遊びと計画 小テスト10点				15	【授業単元】			
	【到達目標】 障害を持っている子どもの活動を発表する事ができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 振り返り 定期試験				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 障害を持っている子どもの活動を発表する事ができる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	学研保育トレーニングゼミ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	土屋多恵子		
学科 コース	こども保育科 屋間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場で必要な専門知識、指導計画(カリキュラム)環境設定を学研の保育雑誌より知識を広げ、保育の専門性を高める ・保育雑誌をもとに保育をイメージし、保育者の役割を明確にする 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
のり・切り貼り台紙／あそびと環境012歳(6月号)／Paprika(デラックス)／ほいくあつぷ(4月号)／シールのえほん2／Gakken					<ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場ですぐに役立つよう、発達年齢に応じた『遊び』の知識を増やす ・手作りおもちゃの製作やシアターなどの児童文化財を保育雑誌を参考に作る 				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】				1	【授業単元】			
	形・幾何学模様					【到達目標】			
【到達目標】					【到達目標】				
・色の選択と配置を見ながら、のり貼りを楽しむ子どもをイメージし、保育の言葉かけを予測し、実践することができる。									
2	【授業単元】				2	【授業単元】			
	0・1・2歳の保育					【到達目標】			
【到達目標】					【到達目標】				
・012歳の興味発達について知り、教材を作成することができる。									
3	【授業単元】				3	【授業単元】			
	シールでやってみよう かたち					【到達目標】			
【到達目標】					【到達目標】				
・保育現場で使用されている『シールワーク』を製作し、子どもたちへの援助と言葉かけについて予測し、実践することができる。									
4	【授業単元】				4	【授業単元】			
	持続可能な保育					【到達目標】			
【到達目標】					【到達目標】				
・SDGsにまつわる問題について、子どもにとって無理のないアクションや意識付けのためのアイデアや工夫について考察し、保育実践をイメージすることができる。									
5	【授業単元】				5	【授業単元】			
	連絡帳の書き方					【到達目標】			
【到達目標】					【到達目標】				
・環境と子ども達の姿を保育雑誌をもとにイメージすることができる。 保護者に伝える記録についての専門性を高めることができる。									
6	【授業単元】				6	【授業単元】			
	子どもの主体性について					【到達目標】			
【到達目標】					【到達目標】				
・「子ども主体」と「人間関係」就職してすぐ、春の保育について考察し、保育者としての心構えを再確認することができる。									
7	【授業単元】				7	【授業単元】			
	保育室の環境構成①					【到達目標】			
【到達目標】					【到達目標】				
・4月の受け入れ時期の保育について知識を深め、保育室の空間デザインづくりをすることができる。・音環境について考え、視覚支援教材を作成することができる。									
8	【授業単元】				8	【成績評価の方法と基準】			
	保育室の環境構成②(定期試験)					講義全体を100点満点とし、定期試験を60点 小テストの合計を40点の配点とする。 小テストは、(1～6回目)は5点 (7回目)は10点 とする。 両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。			
【到達目標】					【到達目標】				
・4月の受け入れ時期の保育について知識を深め、保育室の空間デザインづくりをすることができる。・保育者としての専門知識を深め、述べるすることができる。					・試験は筆記・実技試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
幼稚園・保育所などで使われている学研の知育教材を実際に授業で使用するにあたり、保育現場ですぐに活かせる教材を丁寧に扱うように心がけること									

授 業 概 要

科目名	知育研究	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	土屋多恵子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・学研の総合絵本をもとに、季節にちなんだ遊び・生活について知り、子どもたちの興味を引き出す事柄についての知識を深める ・学研の総合絵本をもとに、環境・言葉・人間関係・表現・健康を通しての子どもの育ちについて知る。さらに、多様性についても考察し、保育をイメージすることができる ・法令に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に関連したおはなしえほんを、保育者の視点で捉えることができる 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
総合絵本 はっけん！(4月号)/いっしょ(4月号)/はじめて(7月号)/キッズサイエンス サークスこま/がっけんのかがくえほん(10月号)/学研のおはなしえほん にじ(4月号)/たのしいきりがみあそび /Gakken					10				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 学研総合絵本の紹介					【授業単元】			
	【到達目標】 ・保育につながる、子ども達の『やってみよう』を引き出す教材について知り、保育の専門性について述べる事ができる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 きりがみあそび					【授業単元】			
	【到達目標】 ・切り紙遊びを通して、子ども達の形遊びの発展性について考察し、模擬保育することができる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 SDGsと保育					【授業単元】			
	【到達目標】 ・SDGsや10の姿を『絵本』を通じて子どもたちに伝えることに興味を持ち、ねらいに沿った『きもちに気づく、伝え合う』お話絵本の読み聞かせを模擬保育することができる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 自分でやりたい気持ちに寄り添う					【授業単元】			
	【到達目標】 ・2歳、3歳の子どもの生活習慣について、保育者としての配慮点を説明することができる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 科学絵本／なぜ					【授業単元】			
	【到達目標】 ・子ども達の興味・関心を引き出す教材について研鑽し、なぜにどう応えるのか。応答的関わりについて考察し、述べる事ができる。					【到達目標】			
6	【授業単元】 みんなで(多様性)を大切に					【授業単元】			
	【到達目標】 ・学研の絵本を通し、保育の上での様々なつながりについて、述べる事ができる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 科学的思考					【授業単元】			
	【到達目標】 ・子ども達の不思議が保育のどこにあるのかを考察する。 ・サークスこまを用いて、試行錯誤する子どもの気持ちを予測することができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 学研のおはなしえほん(定期試験)					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点 小テストの合計を40点の配点とする。 小テストは、(1～6回目)は5点 (7回目)は10点 とする。 両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記・実技試験で行う。			
	【到達目標】 ・おはなし絵本の読み聞かせを行い、それぞれの保育のしめくりについて考察することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
幼稚園・保育所などで使われている学研の知育教材を実際に授業で使用するにあたり、保育現場ですぐに活かせる教材を丁寧に扱うように心がけること									

授 業 概 要

科目名	こどもとおもちゃ工作	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	関根凌子		
学科 コース	こども保育科 屋間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 子供の心身の発達や子どもを取り巻く環境等を理解した上で子供の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2 造形活動を色々な造形材料を使い、色々な方向から考え応用し実践的に習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼児から高齢者の造形活動の指導を行い学校教育の経験のある教員が造形活動全般の考え方指導の仕方について示し、紙、布、木、粘土、、また、光などを使った造形活動を実践する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
汚れてもいいエプロン、服等、お道具袋					今回の授業課題のテーマを考えてくる。普段の生活の中で造形材料を探し制作の生活の中で活かし方を考える				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 幼児造形における形を捉える力をあげる1スケッチ 顔 動力についてI 絵画活動について				9	【授業単元】			
	【到達目標】 ・動力について理解出来る。・デッサンの考え方が理解出来る。 ・スケッチから紙などを使った個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
2	【授業単元】 幼児造形における絵画制作 モノ版画 ドライポイント クレヨン版画				10	【授業単元】			
	【到達目標】 版画の原理について理解し、紙などを使った個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
3	【授業単元】 幼児造形における色々な遊び方と制作遊び フェルト 布を使った遊び 音のでるおもちゃ				11	【授業単元】			
	【到達目標】 布を使った遊びについて理解出来る。フェルト素材などを使った個を活かした作品を制作し提出 する事が出来る					【到達目標】			
4	【授業単元】 幼児造形における色々な感触遊び ドロ粘土 紐の結び方				12	【授業単元】			
	【到達目標】 紐結びについて理解し、編み方等を理解する事が出来る。個を活かした作品を制作し提出する 事が出来る					【到達目標】			
5	【授業単元】 幼児造形における色々な素材を使った制作 七宝焼き 光遊び 型作り				13	【授業単元】			
	【到達目標】 ・七宝の制作の仕方について理解して個を活かした作品を制作して提出する事が出来る。 ・光の性質が理解でき制作につなげる事が出来る					【到達目標】			
6	【授業単元】 幼児造形における五感を活かした制作 七宝焼きII 木材 木の性質や道具の使い方につ いて				14	【授業単元】			
	【到達目標】 七宝焼きを仕上げる事が出来る。木の性質や道具の使い方を理解し、木材を使った制作の仕 方について理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る。					【到達目標】			
7	【授業単元】 幼児造形における色々な媒体を使った制作遊び 光遊び スケッチブックの作成 ・定期テストの説明				15	【授業単元】			
	【到達目標】 様々な光や影について理解して個を活かした作品を制作して提出する事が出来る。授業のまと めが出来る。					【到達目標】			
8	【授業単元】 定期テスト 筆記テスト 動力を使った作品の制作の発表				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を4 0点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満とし、7回目は10点満点とする。合計40点とす る。				
	【到達目標】 紐結び方この性質や道具の使い方について理解出来る。動力について理解して個を活かした 作品を制作して提出する事が出来る。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
造形活動がしやすく汚れてもいい服装で授業を行う。準備片づけ等周囲と協力しながら自主的に行う									

科目名 (英)	世界の子どもと保育(国内研修) Oversea fieldwork	必修 選択	選択必修	年次	2年	担当教員	水谷恵理子 山下智子 水上咲紀 海老原孝一
学科・コース	こども保育科 昼間コース	授業 形態	演習	総単位 時間	1 単位 30 時間	開講区分	通年・後期11月 曜日・時間 集中
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 前年度まで国際教育の立案・計画・実践に関わってきた教員と海外における教育経験のある教員が学生の指導に当たる。外部講師は外国人並びに海外在住教職員。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 国外(予定はドイツ)研修、または国内での研修(昨年は外国人講師・ドイツ在住教職員)を通して、他国の文化や考え方に触れることができるよう授業を展開していく。豊かな国際感覚を身につけるとともに、保育・福祉の現場経験をもつ職員が、学びと実践がつながるように授業を展開していく。多様性社会に福祉の分野から対応できる感覚を培い、視野を広げる教育活動を実践していく。							
【到達目標】 海外研修においては、福祉・保育の先進国の施設や、現地の子ども、学生との交流を通して、日本の福祉・保育の問題点を理解し国際感覚を身につける。 国内研修においては、海外の多様な価値観・考え方に触れ、国際感覚を豊かにし、多様な視点をもって福祉・保育を考えることができる力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 必要資料はその都度配付する。				【授業外における学習】 新聞やニュースなど、視野を広げ自ら情報を取得し、国際的感性を豊かにしてほしい。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【到達目標】 授業のスケジュール、目標、評価方法について理解する。 【授業内容】 オリエンテーション			9	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑧		
2	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム①			10	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑨		
3	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム②			11	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑩		
4	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム③			12	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑪		
5	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム④			13	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑫		
6	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑤			14	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑬		
7	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑥			15	【到達目標】 これまでの学びを総括し発表することができる。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。 また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑦			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 集中授業であるのでスケジュールを自身でよく確認し授業に参加すること。また海外講師から事前学習をオンラインで受ける場合があります。							

科目名	世界の子どもと保育(海外研修)	必須 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当教員	水谷恵理子 山下智子 水上咲紀 海老原孝一			
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	単位数	1単位	総時間数	30時間
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 前年度まで国際教育の立案・計画・実践に関わってきた教員と海外における教育経験のある教員が学生の指導に当たる。外部講師は外国人並びに海外在住教職員。										
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 国外(予定はドイツ)研修、または国内での研修(昨年は外国人講師・ドイツ在住教職員)を通して、他国の文化や考え方に触れることができるよう授業を展開していく。豊かな国際感覚を身につけるとともに、保育・福祉の現場経験をもつ職員が、学びと実践がつながるように授業を展開していく。多様性社会に福祉の分野から対応できる感覚を培い、視野を広げる教育活動を実践していく。										
【到達目標】 海外研修においては、福祉・保育の先進国の施設や、現地の子ども、学生との交流を通して、日本の福祉・保育の問題点を理解し国際感覚を身につける。 国内研修においては、海外の多様な価値観・考え方に触れ、国際感覚を豊かにし、多様な視点をもって福祉・保育を考えることができる力を身につける。										
【使用教科書・教材・参考書】 必要資料はその都度配付する。						【授業外における学習】 新聞やニュースなど、視野を広げ自ら情報を取得し、国際的感性を豊かにしてほしい。				
回	授業概要				回	授業概要				
1	【到達目標】 授業のスケジュール、目標、評価方法について理解する。 【授業内容】 オリエンテーション				9	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑧				
2	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム①				10	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑨				
3	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム②				11	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑩				
4	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム③				12	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑪				
5	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム④				13	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑫				
6	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑤				14	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑬				
7	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑥				15	【到達目標】 これまでの学びを総括し発表することができる。 【授業内容】 定期試験				
8	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また、学びと実践のつながりを考えることができる。 【授業内容】 国際教育プログラム⑦				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)					
【履修に当たっての心構え・留意点】 集中授業であるのでスケジュールを自身でよく確認し授業に参加すること。また海外講師から事前学習をオンラインで受ける場合があります。										

授 業 概 要

科目名	選択音楽Ⅰ	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	糸日谷 章子 佐藤 晴奈 松澤 友妃子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の基礎力を学び、弾き歌いのできる保育士を養成する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
音楽の専門知識を持った教員が保育士に求められる音楽の基礎力、実践力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
幼児のための音楽教育・こどもの歌ベストテン					授業で取り組んだ曲および次週小テストで行う曲を各自授業時間外に学校もしくは自宅等のピアノで練習し、いつでも演奏できるよう仕上げる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから(「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」)				9	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 選択音楽授業で学習する内容や試験についての説明を受け理解する。 「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」を歌唱し曲を覚える。 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」の説明を受け、どちらかの曲の右手で弾きながら歌えるようにする。					【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲の説明を受け、右手を弾けるようにする。			
2	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから(「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」)				10	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」の左手の説明を受け、どちらかの曲の左手を弾けるようにする。					【到達目標】 各自、ピアノ曲の自由曲を選択し、楽譜を用意する。 弾き歌いの自由曲を両手で弾けるようにする。			
3	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから(「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」)				11	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」、どちらかの曲を両手で弾けるようにする。					【到達目標】 各自、ピアノ曲の自由曲の右手の説明を受け、右手を弾けるようにする。			
4	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから(「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」)				12	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」、どちらかの曲を両手で弾きながら歌えるようにする。					【到達目標】 各自、ピアノ曲の自由曲の左手の説明を受け、左手を弾けるようにする。			
5	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから(「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」)				13	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 これまでの曲を弾きながら歌えるようにする。 学生の演奏に合わせて、歌う。					【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲を両手で弾きながら歌えるようにする。 各自、ピアノ曲の自由曲を両手で弾けるようにする。			
6	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲				14	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 弾き歌いの自由曲を選択し、楽譜を用意する。					【到達目標】 自由曲2曲を、正しいテンポ、リズムで間違えずに弾けるようにする。			
7	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲				15	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲の説明を受け、右手を弾けるようにする。					【到達目標】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲 を発表する。			
8	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲				【成績評価の方法と基準】 ・客観的なパフォーマンス評価の手法として、また学生がより明確に自身の課題を知ること を目的として定期試験では、ルーブリック評価を用いる。 ・評価項目は1回目授業時に学生に提示して、共通理解とする。 ・小テストは毎回行うものとする。 点数配分 小テスト①～④各5点 ⑤10点 ⑥～⑧各5点 ⑨10点 合計(80点満点)の÷2の点数を小テストの合計点とする。 小数点以下は切り上げとする。 定期試験⑩ 60点 最終的に、小テストと定期試験の合計点をA～Fの6段階で評価する。				
	【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲の説明を受け、左手を弾けるようにする。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身に着けるために 毎回の授業を真剣に取り組み、授業時間外にもできる限り練習し、 疑問点はその都度教員に聞き、確実に解決、理解することが望ましい。									

授 業 概 要

科目名	選択音楽Ⅱ	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	佐藤晴奈 松澤友妃子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の基礎を習得し、音楽的表現力をピアノを通して身につける。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
音楽の専門知識を持った教員が保育士に求められる音楽の基礎力、実践力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
こどもうた200、プリント教材					授業で取り組んだ曲および次週小テストで行う曲を各自授業時間外に学校もしくは自宅等のピアノで練習し、いつでも演奏できるよう仕上げる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 弾き歌い課題 ①おもちゃのチャチャチャ②アイアイ③バスごっこ の中から1曲 自由曲1曲・連弾曲1曲				9	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 選択音楽授業で学習する内容や試験についての説明を受け理解する。 自由曲を選択して楽譜を用意する。					【到達目標】 各自決めた選択課題曲を両手で弾きながら歌えるようにする。 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。			
2	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				10	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 各自決めた選択課題曲の説明を受け、右手で弾けるようにする。					【到達目標】 各自決めた選択課題曲を弾き歌いで発表する。 自由曲・連弾曲を両手で弾けるようにする。			
3	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				11	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 連弾曲を選択して楽譜を用意する。 各自決めた選択課題曲の右手、左手を弾けるようにする。					【到達目標】 自由曲・連弾曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。			
4	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				12	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 各自決めた選択課題曲を右手で弾きながら歌えるようにする。 各自決めた選択課題曲を両手で弾けるようにする。					【到達目標】 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。 連弾曲は二人で呼吸をそろえ最後まで流れが止まらず弾けるようにする。			
5	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				13	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 自由曲の右手の説明を受け弾けるようにする。 各自決めた選択課題曲を両手で弾けるようにする。					【到達目標】 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。 連弾曲は二人で呼吸をそろえ最後まで流れが止まらず弾けるようにする。			
6	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				14	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 各自決めた選択課題曲を両手で弾けるようにする。 自由曲の右手、左手を弾けるようにする。					【到達目標】 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。 連弾曲は二人で呼吸をそろえ最後まで流れが止まらず弾けるようにする。			
7	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				15	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 自由曲を両手で弾けるようにする。 連弾曲の右手の説明を受け弾けるようにする。					【到達目標】 定期テスト「自由曲」「連弾曲」を発表する。			
8	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				【成績評価の方法と基準】 ・客観的なパフォーマンス評価の手法として、また学生がより明確に自身の課題を知ることを目的として定期試験では、ルーブリック評価を用いる。 ・評価項目は1回目授業時に学生に提示して、共通理解とする。 ・小テストは毎回行うものとする。				
	【到達目標】 各自決めた選択課題曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで両手で弾けるようにする。 自由曲を両手で弾けるようにする。								
【履修に当たっての心構え・留意点】					点数配分				
将来の保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身につけるために毎回の授業を真剣に取り組み、授業時間外にもできる限り練習し、疑問点はその都度教員に聞き、確実に解決、理解することが望ましい。					小テスト②④⑥⑧⑩⑫各5点 ⑭10点 定期試験⑮ 60点				

授 業 概 要

科目名	保育実習Ⅱ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組みとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習Ⅲ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】 1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う 3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4.保育士としての自己の課題を明確化する。											
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授 業 計 画											
1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2.施設における支援の実際 (1)受容し、共感する態度 (2)個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3)個別支援計画の作成と実践 (4)子どもの家族への支援と対応 (5)多様な専門職との連携 (6)地域社会との連携 3.保育士の多様な業務と職業倫理 4.保育士としての自己課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導Ⅱ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ 2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4.保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
保育士としての実務経験のある教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等、保育実習(保育所)の事前・事後指導のための授業を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1.保育実習による総合的な学び (1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2)子どもの保育と保護者支援 2.保育実践力の育成 (1)子どもの状態に応じた適切なかわり (2)保育の表現技術を生かした保育実践 3.計画と観察、記録、自己評価 (1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4.保育士の専門性と職業倫理 5.事後指導における実習の総括と評価 (1)実習の総括と自己評価 (2)課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えを持ち主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習前試験の結果を踏まえて、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導Ⅲ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分 授業の 方法	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	2年		演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ 2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4.保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
保育士としての実務経験のある教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等、保育実習Ⅰ(保育所)の事前・事後指導のための授業を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1.保育実習による総合的な学び (1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2)子どもの保育と保護者支援 2.保育実践力の育成 (1)子どもの状態に応じた適切なかわり (2)保育の表現技術を生かした保育実践 3.計画と観察、記録、自己評価 (1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4.保育士の専門性と職業倫理 5.事後指導における実習の総括と評価 (1)実習の総括と自己評価 (2)課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えを持ち主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習前試験の結果を踏まえて、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	子ども教室Ⅲ	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	河野亮子・齋藤清美・関根凌子			
学科 コース	子ども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間	
【授業を通じての到達目標】										
子ども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してより良い保育の実践力を修得する										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
幼児から高齢者の造形活動を行い学校教育の経験のある教員が保育者間の相互理解と連携や企画・運営力・実践を交えながら基礎的な知識技術を修得出来る授業を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
ジャージ・学校指定ボロシャツ・学校指定エプロン お道具袋・その他活動に必要な道具・PCかタブレット端末					主活動担当時の指導案作成や準備					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 ・新年度受け入れ準備①保育環境の確認、備品準備、主活動とイベントの決定				25	【授業単元】 学生主導の企画運営による活動⑥				
2	【到達目標】				26	【到達目標】				
3	昨年度の活動を鑑み新年度に向けて活動が出来るよう準備する事が出来る。				27	主活動担当：自らが考えた活動を実践し、今までの経験を活かして問題発見・解決が出来る。担当者以外：1年生・担当学生をサポートし、積極的に適切な方法で子供や保育者と関わる事が出来る。				
4	【授業単元】 新1年と新年度活動の準備：環境整備を行う・保育現場における感染症対策について ・子どもの受け入れ準備 ・行事内容について話し合い				28	【授業単元】 学生主導の企画運営による活動⑦				
5	【到達目標】				29	【到達目標】				
6	1年間の経験を踏まえ環境整備をして子ども教室活動の為に準備が出来る				30	主活動担当：自らが考えた活動を実践し、実習経験を活かして問題発見・解決が出来る。担当者以外：実習経験をふまえ担当学生をサポートし、適切な方法で子供や保育者と関わる事が出来る。				
7	【授業単元】 先生主導の企画・運営による活動①				31	【授業単元】 学生主導の企画運営による活動⑧				
8	【到達目標】				32	【到達目標】				
9	全体の流れを確認しながら制作の補助や全体の動きに気を付け子どもや保護者と関わる事が出来る ・振り返りが出来る				33	主活動担当：自らが考えた活動を実践し、実習経験を活かして問題発見・解決が出来る。担当者以外：実習経験をふまえ担当学生をサポートし、適切な方法で子供や保育者と関わる事が出来る。行事の振り返り				
10	【授業単元】 学生主導の企画・運営による活動②				34	【授業単元】 学生の企画運営による活動⑨ 学園祭の制作活動⑨				
11	【到達目標】				35	【到達目標】				
12	主活動担当：自らが考えた活動を実践し今までの経験を活かして問題発見・解決で出来る。担当者以外：1年生と担当学生をサポートし、積極的に適切な方法で子供や保護者と関わる事が出来る。				36	主活動担当：自らが考えた活動を実践し、実習経験を活かして問題発見・解決が出来る。担当者以外：実習経験をふまえ担当学生をサポートし、全体を把握しながら、適切な方法で子供や保護者と関わる事が出来る。				
13	【授業単元】 学生主導の企画・運営による活動③				37	【授業単元】 学生主導の企画運営による活動⑩ハロウィン				
14	【到達目標】				38	【到達目標】				
15	主活動担当：自らが考えた活動を実践し今までの経験を活かして問題発見・解決で出来る。担当者以外：1年生と担当学生をサポートし、積極的に適切な方法で子供や保護者と関わる事が出来る。				39	主活動担当：自らが考えた活動を実践し、実習経験を活かして問題発見・解決が出来る。担当者以外：実習経験をふまえ担当学生をサポートし、全体を把握しながら、適切な方法で子供や保護者と関わる事が出来る。				
16	【授業単元】 学生主導の企画運営による活動④				40	【授業単元】 学生主導の企画運営による活動⑪				
17	【到達目標】				41	【到達目標】				
18	主活動担当：自らが考えた活動を実践し今までの経験を活かして問題発見・解決で出来る。担当者以外：1年生と担当学生をサポートし、積極的に適切な方法で子供や保護者と関わる事が出来る。				42	主活動担当：自らが考えた活動を実践し、実習経験を活かして問題発見・解決が出来る。担当者以外：実習経験をふまえ担当学生をサポートし、全体を把握しながら、適切な方法で子供や保護者と関わる事が出来る。				
19	【授業単元】 学生主導の企画運営による活動⑤				43	【授業単元】 学生主導の企画運営による活動⑫				
20	【到達目標】				44	【到達目標】				
21	主活動担当：自らが考えた活動を実践し今までの経験を活かして問題発見・解決で出来る。担当者以外：1年生・担当学生をサポートし、積極的に適切な方法で子供や保護者と関わる事が出来る。				45	主活動担当：自らが考えた活動を実践し、実習経験を活かして問題発見・解決が出来る。担当者以外：担当学生をサポートし行事の進行全体を把握しながら、適切な方法で子供や保護者と関わる事が出来る。前期の振り返り、評価する。今後の保育に活かせるように具体的に振り返り計画を立てる。				
22	【授業単元】 子ども教室の受け方などについて振り返り、後半に向けた準備(保育環境・備品確認・行事活動の計画を立てる)				【成績評価の方法と基準】					
23	【到達目標】				子ども教室のルーブリックを用いて評価する。					
24	環境整備が出来る。子ども教室の受け入れ方を振り返り自分の意見を述べ後半の活動に活かせるようにする。				【小テストについて】 毎回の小テストは5点満点とする。ただし、15回目の小テストは10点満点とする。 1-15回目の小テストの合計点の1/2(小数点繰り上げ)合計40点を小テストの点数とする。 【定期試験について】 毎回4点満点の配点で試験(活動の振り返り)を記述形式で実施し、1~15回分の合計点60点分を定期試験の点数とする。 【評価について】 小テスト・定期試験の合計点からA-Fの6段階で評価する					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
実習にふさわしい身だしなみとチームの一員である事を認識し、責任感を持って授業に参加する。提出物は期限を守る事。										